

アセンション BOOK 30

ファーストコンタクト 6

2016年12月

ファーストコンタクト 6

宇宙連合と光の世界



闇の創造主との最終決戦 目次

- 第1章 「道を生みだす創造主」の猛攻
- 第2章 光を生みだす創造主と力を生みだす創造主
- 第3章 光を奪われた第4評議会の創造主達
- 第4章 好奇心に負けて闇の宇宙を作った創造主
- 第5章 生まれ変わる「愛の創造主」
- 第6章 人々の意識を操っていた可憐な創造主
- 第7章 全ての宇宙を闇におとしいれた創造主
- 第8章 救済される種族達、そして光の地球

作者 瀬戸武志&宇宙の光

アセンションブック

<https://www.k-suai.com/sp/index.html>

宇宙の光公式HP

<http://hikari1.com/sp/index.html>

アセンション評議会

<http://s-sun1.com/sp/index.html>

アメブロ光の世界へ

<http://ameblo.jp/e-stone1/>

Eメール TAKESHI yume34@k-suai.com

イラスト

えんじえる (佐藤弘之)

アメブロ <http://ameblo.jp/angel-art2010/>

第1章 「道を生みだす創造主」の猛攻

PART 1 人々をディセンションさせる存在

2016年末まで残すところあと1か月となりました。

昨日で、私達は光49%の世界を出て、光50%以上の世界にはいる事になりました。

私達はこの境界の世界にしばらくとどまり、アセンションした世界にはいる前に、この世界の大掃除をする事にしました。

この位置だと、光51%以上の世界を見まわる事ができます。

今朝から、第2、第3評議会のスターピープル達が盛んに動き回っています。

この51%以上の世界が、これから私達が活躍する中心的な場所となり、光50%以下の世界には、創造主の力を借りないと入れなくなりました。

現在私達が行なっている仕事は、光51%以上の世界をきれいにクリーニングして、適正な光と闇の配分の世界に変えていく事です。もちろん、闇に落ちた創造主達の部下が入り込まないように見張っていないといけません。

これから愛の度数やスピリットの状態によって、人々が、自分にあつた光の世界に入ってきますので、人々の受け入れの準備をしていくのです。

12月になっても、私の後頭部にはピリピリとした痛みが走りますので、ピカフラッシュに

そのエネルギーの発生源を追いかけてもらおうと、深い闇の中にかくれている存在がいます。

ロッド星人やグルナレッド達に来てもらい探してもらおうと、この世界にいないはずの宇宙最強のダークピープルであるグレシャッド星人達が隠れているのです。

グレシャッド星人の姿をみたロッド星人は大変な驚きようです。

第2評議会のスターピープル達が力を合わせて、彼等を完全に光30%台の世界におしこめた筈なのに、このような位置にまだ残っていたからです。

彼等が残っていると地球人は、大きな闇に飲み込まれてしまうのは間違いないでしょう。彼等の好物は「核」ですので、彼等は地球人を操って核兵器や原子力発電所を作らせ、核戦争や原発の事故などを引き起こしていくのです。

そして光ある存在達の「光」も大好物ですので、人々から光を無理やり奪いとってしまいます。

おそらく彼等に力を与えてこの場所に連れてきた存在がいるはずです。

私達は、グレシャッドを再び30%以下の世界に押し込めると、光51%の世界に渦巻いている闇のエネルギーをかき分けるようにして犯人を見つけていきます。

すると、大きな闇の渦巻の中に隠された存在が見つかりました。

大きな情欲のエネルギーを持つ女性系の存在で、人々の欲に紛れてこの世界に入り込んだようです。調べるとやはり「道を作り出す創造主」によって新しく生み出された存在で、

第3評議会の創造主達も全く知らない存在です。

すぐに捕まえて調べると、彼女の役目は、スターピープルや人々を闇のエネルギーに巻き込み、愛や光を奪い取ってディセンションさせていく事です。

彼女が、光51%の世界に存在する事で、この世界に入ってきた多くのスターピープルや人々が光を失い、闇に堕ちていったようです。

私達は急いで彼女によって捕えられた人達を救い出しに行きました。

私達は、この存在を見過したまま、上の世界に入って行ったとしたら、大変な事になるところでした。

光51%の世界は、これから人々が、アセンションした世界に向かうもっとも重要な入り口のような世界です。

その場所に人々をディセンションさせるための存在がどーんと居座っていたのでは、アセンションした世界に向かう人達が少なくなってしまう。

私達は、彼女に関わりのあるゲートや存在を徹底的に調べ上げ、捕えられた人達をさらに見つけだし、仲間のダークピープル達も発見次第、闇の多い世界に分離していきます。

PART 2 地球に隠れていた「道を生み出す創造主」の分身

昨日から、私達は、光51%以上の世界に移り、この世界の問題を処理する事にしていま

したが、夜になってロッド星人達から連絡がありました。

「TAKESHIさん、大変です。
光49%から53%の世界に開いていたスターピープルをこの地球の物理世界に降ろすためのゲートが破壊されているのです。
すぐに来てもらえませんか。」

このスターピープルの入り口となるゲートは、まだ光がさほど多くない世界で、地球人を導くために、スターピープルが地球人に生まれ変わって地球にはいる為の大切なゲートです。

このゲートが破壊されたなら、スターピープルは地球人として生まれてくる事ができなくなります。

私達はこのゲートを調べていると、スターピープルを地球に生み出すゲートの代わりにダークピープルを地球に生み出すためのゲートが開いている事が分かりました。

私達は、ダークピープルのゲートを手掛かりに探していくと、エネルギーを反転させる能力を持つ創造主が、スターピープルのゲートを破壊した事が分かりました。

彼も「道を作り出す創造主」によって作り出された創造主でしたので、私達は第4評議会の創造主にお願いして彼を光に返し、私達は新たにスターピープルを地球に生み出すゲートを設置しました。

私達は、さらにこの世界に関わる闇の創造主がいなかを神経を研ぎ澄まして探しています。

物理世界の奥底に隠れている創造主は、スターピープルや創造主ではなかなか見つかる事ができません。

エネルギーのラインを追いかける事ができるピカフラッシュだけが頼みです。

私と恵理さんは自分達の体に起こっている痛みやエネルギーの反応などを手掛かりにして、ピカフラッシュにそのエネルギーを辿ってもらい、ダークピープルや闇の創造主を見つけていくのですが、最近では、闇の創造主達も私達の探索方法を研究して、エネルギーラインを隠したり、様々な場所を経由させていくので、エネルギーの追及を行う事も随分難しくなってきました。

私は、この頃から、第4評議会、第5評議会の創造主で、私のスピリットの元となった創造主と意識をひとつにする事を行いました。

そうする事で、巧妙に隠されてピカフラッシュでは追う事ができないエネルギーのラインを追う事ができます。

物理世界にいる私の意識を使う事で、第5評議会の創造主はどのような次元でも自由に入れますので、闇のエネルギーや物理世界のエネルギーによって巧妙に隠されたラインも探し出して後を追う事ができます。

私は、光50%～52%の世界に残された闇の創造主達の痕跡を探し始めました。

すると、海底深く隠された闇のエネルギーを感知しました。

私達が、その場所を辿っていくと、そこにあったのは古代アトランティスの遺跡です。

いくつかある壊れかけた遺跡に、その力は分散されていますが、強力な闇のエネルギーが隠されているようです。

私達は、この遺跡の地下深くに闇の創造主達が隠れているのではないかと推測し、地下深く入って行きます。

するとやはり闇の力を操る創造主が隠れていました。

彼等は、破壊された古代文明の怒りや悲しみのエネルギーを操り、古代文明に生きた経験のある人達の意識の中に、その時の恐れや不安などの闇のエネルギーを送り込んでいたのです。

私達は、捕まえた創造主の持つゲートを開いて、彼等がアトランティスだけでなくレムリアやムー、そしてアガルタの古代文明の遺跡にも同じような仕掛けをしていた事を突き止めます。

私達はスターピープルと創造主をいくつかのグループに分け、いくつもの遺跡に隠された闇のエネルギーとそれを操る創造主達を処理する事ができました。

そして彼等が持っていたゲートから、多くの地球人やスターピープル、そして自然界の精霊達が捉えられている場所が見つかり、彼等を開放する事ができました。

ロッド星人や救出にあたったスターピープル達は、行方不明になったままで、気になっていたスターピープルや人々のスピリットが助け出された事をととても喜んでいます。

しかしここで、私のセンサーが、彼等の裏に隠れている創造主を感知しました。

私は、急いで創造主とスターピープル達を集め、その場所に向かう事にしました。

私達は、闇と光が交錯する迷路のようなトンネルをいくつも抜けていきます。

ぐるぐると体も回転しながら、さまざまなエネルギーや光景が、私達の回りを通り過ぎていきます。

いくつものトンネルを抜けた先にあるものは、闇の渦によって作られたブラックホールです。

通常、このようなブラックホールは、私達が「宇宙の大地」とよぶ宇宙を安定させる場所へとつながっているのですが、このブラックホールから吐き出される闇のエネルギーを見ると、そうではない場所へとつながっているのは明らかです。

私達は、勇気を持ってこのブラックホールの中に入り進みます。

ブラックホールを突き抜けると、そこは大きな闇のエネルギーで満ち溢れています。

創造主達が自らの光を輝かせ闇を照らしたすと、そこに隠れていたのは、私達の宿敵である「道を作り出す創造主」の物理世界バージョンの存在です。

つまり、「道を作り出す創造主」はすでにこの地球を始め、物理的な世界を持つ宇宙を支配できるように、物理世界に対応できる自分の分身を作り出し、この場所から地球に降ろした闇の創造主達やダークピープルを操っていたようです。

すぐに第4評議会の創造主達が、彼の力を抑え、動けないようにしてくれましたので、私達に被害はありませんでしたが、彼の姿を見た第3評議会の創造主は、心臓が止まるくらいに驚いたようです。

自分達が知らない間に、彼はもう地球の内部にまで入り込んでいたのですから、驚くのも無理はありません。

私達は、彼を捕えると、すぐに彼が持つゲートを開いて、彼の部下の創造主や彼の指令を実行するダークピープル達を捕えました。

彼の力は、私達が完全分離を行なう51%以上の世界と50%以下の世界の両方にまたがるものでした。

「道を作り出す創造主」は、私達が50%以下の世界と関われなくなったと同時に、50%以下の世界を自分の支配下に置き、ここを足掛かりにして、多くの星々や銀河を支配するつもりだったようです。

たとえ本体の「道を作り出す創造主」がいなくなったとしても、彼の力でもこの宇宙を支配するのは十分だったでしょう。

私達は、彼を光に戻すと、50%と51%の間のゲートを完全に閉じる作業に入りました。

PART 3 「道を作り出す創造主」の分身と 第4評議会の創造主の戦い

大変な事件が12月3日におきました。

私達は、朝起きると胸騒ぎがしてすぐに、ロッド星人とグルナレッド達を呼びだしました。

恵理さんも深夜3時ころに「助けてー」という声が聞こえていたのが気になるようです。ロッド星人達が、とても慌てたような表情で現れました。

「TAKESHIさん、おはようございます。

実は大変な事が起きてしまいました。

皆さんがお休みになっている間に、光50%と光51%の分離を、第1評議会のスターピープルと創造主で行なっていたのですが、突

然大きな闇の渦巻が沸き起こり、第1評議会のスターピープル達が全員捕えられてしまったのです。

皆さんが寝ている間、TAKESHIさんや恵理さんのスピリットのゲートを使用させてもらい調べたのですがまだ見つかりません。彼等の生命にも関わる事ですので、すぐに手助けをしてもらえませんか。」

ロッド星人の話によると、物理世界に作り出された「道を作り出す創造主」の分身は1人でなく複数いたようです。

彼等は、第1評議会のスターピープルが光50%と光51%の分離の作業を行っている時をねらって一気に襲い掛かかり、闇の渦巻のようなエネルギーでスターピープルを一気に飲み込んで連れ去ってしまいました。私達と仲が良いエレナさんやガジェット、陽気なポラリス星人、そして1人1人の地球人に献身的に尽くしてきたブラドエル達のブラッド星人達もすべて連れ去られたようです。

私はピカフラッシュを呼び出し、エレナさんやガジェット達のエネルギーをすぐに探し出すようにお願いしました。

ピカフラッシュも、事態の緊急性が分かっているようです。

一度に多くのピカフラッシュ達が様々な方向に走り出します。

ロッド星人やグルナレッドなどの第2評議会、第3評議会のスターピープル達がピカフラッシュの後を追います。

私も、第5評議会の創造主の力を借りて、隠された世界の探索を始めます。

いくつもの闇のトンネルを通り過ぎて、いくつもの次元を移り変わっていくと、特定の場

所に、スターピープル達のエネルギーを感知しますので、ピカフラッシュ達とスターピープルを呼び寄せ、この場所を集中して調べます。すると奥底から、連れ去られたスターピープル達が手を振っている姿を発見しました。エレナさんを始め、多くのスターピープル達がそこに閉じ込められています、様子がおかしいようです。皆さん喉を抑えて苦しんでいます。呼吸がうまくできないのか、声も出ないようです。

「エレナさん、ガジェット、大丈夫ですか、一体何が起こったのですか」呼びかける私をロッド星人が制止します。とても話ができる状態ではないようです。「道を作り出す創造主」の分身がやってくる前に、彼等を安全な場所に運ばなければなりません。

助け出されたスターピープルは、皆さんとても弱っています。多くの第2評議会、第3評議会の創造主とスターピープルに守られるようにして元の世界に戻ります。そして待ち構えていた救急班によって、宇宙連合の宇宙船に運ばれすぐに治療が開始されました。

私達と、第4評議会の創造主とおよびスターピープル達はここに残って、「道を作り出す創造主」の分身と彼等が持つゲートの処理を行わなければなりません。そこに、まるで竜巻のように激しいエネルギーが舞い降りてきました。「道を作り出す創造主」の分身である事に間違いはないようです。

その竜巻のようなエネルギーは、助け出されたスターピープルを追いかけていきます。

その時、第4評議会の創造主が、「道を作り出す創造主」の分身の前に立ちはだかり、竜巻のようなエネルギーを弾き飛ばします。

「道を作り出す創造主」の分身は違う方向から、スターピープル達を追いかけようとしたのですが、またしても第4評議会の創造主から弾き飛ばされ捕まってしまいました。

私やスターピープル達も創造主同士の戦いを見る事などめったにないので驚いて立ち尽くしています。

しかも第4評議会の創造主が相手ですから、相当な迫力です。

第4評議会の創造主に「道を作り出す創造主」の分身を拘束してもらっている間に、他の第4評議会の創造主達にも手伝ってもらい、彼のゲートを使って、残りの分身と彼の部下達を見つけだしました。

さすがに第4評議会の創造主の迫力に押されたのか、「道を作り出す創造主」の分身達もおとなしく光に返されていきました。

「道を作り出す創造主」の分身達が捕えていたスターピープル達や人々のスピリット達もまだたくさん残っていましたので私達は次々と開放していきます。

PART 4 肉体と意識を分断されたお腹の中の子供

彼等が捉えていたスピリットの中には、驚いた事に私達と生まれる前の子供のスピリットもありました。

きっと私達が寝ている間に私達のスピリットの一部を捕えていったのでしょ。う。

私達の子供も、創造主のスピリットをもってこの地球に生れてきますので、とても重要なスピリットなのです。

彼はその事も知っていたに違いありません。

私達のスピリットは無事に戻ってきたのですが、お腹の子供はピクリとも動きません。いつもは活発にお腹の中で動き、私達とテレパシーで会話をするのですが、この時ばかりは、何度呼びかけても答えませんし、子供のスピリットの意識も遠い世界にいるように感じます。

恵理さんは、子供に異変が起きた事で、大きなショックを受け呆然としています。

お腹の中の子供はケーキやピンク色の服が大好きなので、私達はその話題をお腹の中の子供に話しかけます。

「これからケーキを買いに行って一緒に食べようか。

素敵なピンク色の洋服が、お店にあったね、かわいかったね。」

いくら声をかけても、お腹の中の子供は何も答えてくれません。

いつもだったら、ケーキ食べたい、とか、ピンク色の服、大好きだよ、とか元気に答えてくれるのです。

私も、恵理さんのお腹に手をあて、子供の気配を感じようとしませんが感じられません。

ロッド星人や創造主に尋ねても、まるでお腹の中がベールをかけられたように隠されて見えないと言います。

創造主達も、自分達のスピリットの一部を持っているので、常にコンタクトできるのです

が、今は意識がお腹の中にないみたいでコンタクトが取れないと混乱しています。

すぐに、私達の物理的な体を見守る役目をするクワトロ星人に相談すると「すぐに病院に行ってください。」と指示がありました。

幸い、恵理さんのかかりつけの産婦人科は、私達の自宅のすぐ近くにありますので、電話をして急いで向かいます。

私が車で恵理さんを連れて行っている間も、彼女は子供の名前を呼びながら涙ぐんでいます。

今にも、彼女の精神がおかしくなりそうな状態です。

病院に着くと、先生も緊急だという事ですぐに見てくださいました。

幸い、心臓も無事に動いている事が分かりましたので、子供の命に別状はないようです。クワトロ星人達は、先生の意識の中に入り込み、機械のモニターを見ながら、子供の緊急処置を行っているようです。

まだ胎児ですので、自分の体とスピリットの結合が弱いために、お腹の子供のスピリットが奪い去られたときに、体と意識のつながりを立ち切られたようです。

クワトロ星人や創造主達はそのつながりを修復しています。

やがて子供の体とスピリットの結合がもとに戻り、お腹の中で動く気配がしてきました。そして子供の声もテレパシーで聞こえるようになってきたようです。

恵理さんも涙を浮かべて喜んでいます。

子供も創造主としての仕事をしている間は、体の意識からはなれますが、体に帰ろうとし

たときに体に戻る事ができなくて焦ったようです。

「もう体からはなれない」と言って、お母さんのお腹の中にしがみついて泣いています。

「道を作り出す創造主」達のサイキックアタックは並大抵のものではないという事を、私達は身を持って知っていますので、私達が起きて居る時ならまだしも、私達が寝ている間の隙をついて行われた、このアタックによって、私達は尊い命を失うところでした。

私達の子供の命を危険にさらした事や思いがけない攻撃により多くの第1評議会のスターピープルを傷付けた事に関して第1評議会から第4評議会の創造主達は緊急会議を開きました。

そして、分身とはいえ「道を作り出す創造主」の存在を見逃した事、彼の攻撃を予測できなかった事などの反省が述べられているようです。

そして何よりも、私達の子供の生命を失う危険性があった事に対して多くの批判が第1評議会、第2評議会の創造主から上位の評議会にたいして起こりました。

これは、第4評議会の創造主が第5評議会の創造主の指示を受けて、光49%の世界に異変が残っている可能性があるという事で、私達をあえて光49%の世界に戻し、調査を続けていたために、「道を作り出す創造主」の分身による攻撃をまともに受けてしまった結果だという事でした。

私達も、前回の会議では、光51%以下の世界には戻らないとしていたのですが、第5評

議会と第4評議会の指示により、私達は光49%の世界に降ろされていたようです。第5評議会の創造主も第4評議会の創造主も、自分達の予測をはるかに超える事態に対応できなかった事を反省し、私達が、これからは光51%以下の世界には関わらない事に決定したようです。

もし、ここでお腹の子供が現実世界に生み出される事がなければ、地球のアセンションの最終的な成功はないために、これ以上私達を危険にさらしてはいけないと判断したようです。

それも当然です。

子供の命が狙われてスピリットが、子供の体から切り離されたのは、私が病院に入院していた時も起こりましたので、これで2度目です。

子供は生まれて6か月を過ぎるまでは、未だ肉体とスピリットや意識のつながりが弱く、簡単に切り離されるので用心しないといけません。

第2章 光を生み出す創造主

と力を生み出す創造主

PART 1 「光を生み出す創造主」と「力を生み出す創造主」

私達は、会議の中でさらに残っている問題点を追及します。

それは、光50%以下の世界もそうですが、光51%以上の世界にもまだたくさんの闇のエネルギーが残っているという事のようにです。

私はその時に、くしゃみが連続して出始めました。

何らかのエネルギーを感じているようです。

私達は会議を中断して、このエネルギーがどこから来ているのか、調べる事にしました。私は、第5評議会の創造主の意識となり眼を閉じます。

そして様々なエネルギーの渦の中を通り、たどり着いた場所に創造主のエネルギーを感じます。

私は、創造主達にこの場所に来るように指示しました。

第3評議会の創造主が調べると、そこには一人の創造主が傷つけられ閉じ込められていました。

私は、この創造主が誰であるか、問いました。すると第4評議会の創造主が、私に答えてくれました。

「TAKESHIさん、この創造主は、先日「道を作り出す創造主」の部下の創造主を使って、

地球の物理世界を闇に貶めようとしていた「宇宙の創造を管理する創造主」の光の部分のスピリットです。」

その答えに多くの創造主が動揺しています。

「「宇宙の創造を管理する創造主」は、第3評議会の代表的な創造主でとても大きな力を持っている創造主でした。

彼は、「道を作り出す創造主」が闇に堕ちるはるか昔に闇に堕ちてしまったのですが、その理由が私達にもはっきりと分かっていませんでした。

しかしここに「宇宙の創造を管理する創造主」の光のスピリットがあるという事は、この創造主の上位にあたる創造主が、彼を光と闇に分け、光の部分を封印し、闇の部分だけを利用して、彼を闇の創造主として利用していた事になります。」

第4評議会の創造主が答えると、全ての評議会の創造主達に大きな緊張が走ります。

もしかしたら、「宇宙の創造を管理する創造主」を2つに分けて封印した創造主が近くにいるかもしれません。

私は、第1評議会と第2評議会の創造主とスターピープルを、すぐに退去させました。

もしそれだけの力を持つ創造主が出てきたら、彼等はひとたまりもなくやられてしまうでしょう。

私は、第4評議会の創造主に、行方が分からない創造主がいないか聞いてみました。

第4評議会のリーダーは、しばらく目を閉じて考えているようです。

「そうですね、実は皆さんが所属する宇宙の第3評議会を作り出した創造主が、引退するという形でいなくなっています。

「宇宙の創造を管理する創造主」の直接の上司のような創造主でしたので、もし彼がいたなら、何らかの事情を知っているかもしれませんが。」

と、第4評議会のリーダーは話してくれました。

私達は用心しながら「宇宙の創造を管理する創造主」の光のスピリットを封印から解き放ちました。

誰が出てきてもいいように、第5評議会の創造主に周りを見張ってもらっていますので、第3評議会、第4評議会の闇に堕ちた創造主が出てきてもすぐに動きを止めてもらう事が出来ると思われれます。

私達が、作業している時に、やはり「宇宙の創造を管理する創造主」を分離し封印した創造主が稲光のように激しいパワーで現れました。

その光は私達を突き刺すような鋭い刃物のような光で、凍えるようなエネルギーを発していました。

すぐに第5評議会の創造主が捉えてくれましたが、彼のエネルギーは、第3評議会をはるかに超えている事がすぐにわかりました。もし、第5評議会の創造主が守ってくれていなければ、私達も危ないところでした。

そしてそのあとにも、深い闇のエネルギーで、私達を溶かしてしまおうとするかのような闇の創造主が現われました。

その闇は、瞬く間に私達を取り囲み、私達を漆黒の恐怖で包もうとします。

先ほどとは別の第5評議会の創造主が、その漆黒の闇を内側から突き破るように大きな光を放ち、彼の動きをとめてくれました。

残っていた第3評議会の創造主達は、突然襲ってきた大きなエネルギーに身がすくみ動けないでいます。

もし第5評議会の創造主がいなければ、第3評議会の創造主やスターピープル達は瞬時にやられていたかもしれません。

私は、捕まえられた創造主を見ながら、第4評議会の創造主達に、この創造主達の事を尋ねました。

第4評議会の創造主は、なぜこの創造主がここにいるのだ、という顔をして答えます。

「彼等は、皆さんの宇宙や評議会を作りあげた第4評議会の代表的な創造主の部下の創造主でした。

先ほど、私が引退した創造主の事をお話ししましたが、彼等はその創造主と共に働いていたのです。

彼が引退してこの宇宙を去ってしばらくしてから、彼等もいなくなってしまったので、私達もどうしたのかな、と思っていました。が、まさか闇の創造主になって、このような事を行っているとは考えもしませんでした。」

私は彼等の役割について第4評議会の創造主に尋ねます。

「はい、1人は「光を生みだす創造主」で、もう1人は「力を生みだす創造主」です。

彼等は、引退した創造主の部下として、創造主が計画したプログラムに光と力を与え、宇宙を創造する手助けをしてきました。

彼等は、相反するエネルギーを持っていましたが、引退した創造主が、彼等のエネルギーのバランスをうまく取りながら宇宙を創造していたのです。

皆さんの宇宙が生まれてからしばらくして、皆さんの宇宙を作りあげた創造主が引退した後は、彼等がそのあとを引き継ぎ、うまく宇宙を運営していると思っていました。」

私は第4評議会の創造主を見つめて言いました。

「しかし、彼等は2人とも、闇の世界に堕ちてしまい、「宇宙の創造を管理する創造主」を、光と闇に分離し、その正常な意識と働きを奪いました。

そして「宇宙の創造を管理する創造主」の闇の部分を使って、闇の創造主を作り、自分達の部下にしてしまったようですね。

その事によって引退した創造主が作り上げた宇宙は、大きな闇を秘めた宇宙になってしまった事に、第4評議会の創造主達は気づかなかったのですか。」

第4評議会の創造主は、しまった、と言わんばかりの顔をして答えます。

「大変申し訳ありませんでした。

第4評議会の創造主は、1人1人が独立して自分の考えで自由に宇宙を作ってもいいようになっています。

私達は、他の創造主の行う事にはあまり干渉せず、お互いの独自性を尊重しています。もちろん、他の宇宙に迷惑がかかる事に関しては、お互い相談し合って決めますが、私達はお互いを信頼し合っていますので、そのような事は起こらないと考えておりました。」

第4評議会の創造主は、今まで第3評議会の創造主の過ちを責めてきただけに、自分達にも同じ過ちがあったという事に気づき慌てています。

「それでは第4評議会の「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」が、闇の創造主になった事で、第3評議会の「宇宙の創造を管理する創造主」が分離され、闇の力を持った「宇宙の創造を管理する創造主」が彼等の部下になった事を認めますね。」

第4評議会の創造主は、しぶしぶうなずきます。

「そうすると、第3評議会の「道を作り出す創造主」が、闇の創造主として強大な力を持ったのは、この「宇宙の創造を管理する創造主」のたくらみによるものでしょうから、第2評議会の創造主を巻き込んだ創造主戦争を起こして、その闇のエネルギーにより第2評議会の創造主のリーダー達を壊滅させたり、第1評議会の多くの創造主を闇の創造主にしてしまった根本の原因は、この第4評議会の2人の創造主であったと言えませんか。」

「確かにそうです。

私達が、自分達の宇宙の創造にばかり気をとられ、この2人の創造主の事をしっかりと見守っていなかった事は、私達の大きな過ちでした。

第5評議会の創造主からも、もっとまわりの創造主同士で協力し合い、お互いを成長させるようにと、アドバイスがあったのですが、私達はその指示に十分に従う事はありませんでした。」

第4評議会の創造主は、自分達の過ちが、下の評議会に大きな影響を与えてしまった事に大きなショックを受けています。

PART 2 「流れを作る創造主」による証言

「第4評議会の創造主よ、皆さんの世界でほかにいなくなった創造主や連れ去られた創造主はいませんか、もしこの2人の創造主に仲間がいるとしたら、さらに大変な事になりますのですぐに調べてください。」

第4評議会の創造主の1人が答えます。

「そういえば、「流れを作る創造主」が最近見当たりません。」

「最近とは、いつの頃ですか」と私は尋ねます。」

「地球時間で言えば、3～4億年ほど前の事です。」

確かに、創造主にしてみれば、つい最近の事かもしれませんが、私達にとっては大変な時間です。

「その創造主の役割はどのような役割だったのですか。」

「彼はいくつもの宇宙を見回りながら、宇宙の創造に関わる時間やエネルギーの流れを調整する役目でした。

彼は、自分の宇宙を自ら創造するのではなく、第4評議会の創造主達のサポートをする役目です。」

私は、ピカフラッシュに「流れを作る創造主」のエネルギーの質を教えるように第4評議会の創造主にお願いしました。

ピカフラッシュ達は、エネルギーを調べるとすぐに、広い宇宙に向かって走り出していきました。

ロッド星人やグルナレッド達も、ピカフラッシュの後を追いかけます。

第4評議会の創造主も、全員が集まって独自に探し始めました。

やがて大きな渦が広がっている場所が見つかります。

ピカフラッシュ達が次々とこの中に飛び込んでいきますので、私達もその中に入ります。すると「宇宙の創造を管理する創造主」と同じように、2つのエネルギーに分けられ動きを封じられた創造主がそこに閉じ込められています。

言うまでもなく「流れを作る創造主」です。幸い、分離されたエネルギーは傷つけられる事もなく闇に染まる事もなく無事でした。第5評議会の創造主によって「流れを作る創造主」のエネルギーは再統合されもとの創造主に戻りました。

私は、「流れを作る創造主」に、何故このような事が起きたのか質問しました。

「私は、第4評議会の創造主達を作る宇宙の時間やエネルギーの流れを生み出す事が役目の創造主です。

私が、第4評議会の創造主達を作る宇宙に異常がないかを見回っていた所、引退した創造主が作った宇宙でいくつかの問題が起きていました。

最初は、「光を生み出す創造主」と「力を生み出す創造主」が、どちらが引退した創造主の変わりに、彼が作り上げた宇宙の代表者になるか争っていました。

お互い性格が異なる創造主ですので、自分が相手の部下になる事は屈辱的な事だと考えていたのです。

彼等は争ううちに、自分達の心に支配欲が芽生え、相手を制圧したいと思うようになってきたのです。

彼等の欲望はどんどん高まり、やがて2人とも闇の力に飲み込まれていきました。

すると今度は、お互いの闇の力が同調し合い、2人で協力すれば、引退した創造主が作った宇宙だけでなく他の創造主が作った宇宙も支配できるのではないかと、考え始めたのです。

そして彼等は、彼等の宇宙を管理する役目を持つ「宇宙の創造を管理する創造主」を捕まえ、この創造主の光を持った部分を奪い取り、闇の創造主に仕立てあげて、自分達の部下にしてしまったのです。

私は、このまま放っておくと、他の創造主達の宇宙にまで大きな影響が出ると思い、彼等の事を第5評議会の創造主に報告しようとしたのですが、その前に彼等に見つかってしまい捕えられてしまいました。」

この「流れを作る創造主」の話によって、「力を生みだす創造主」と「光を生みだす創造主」は大変な罪を犯していた事が判明しましたが、まだ、彼等が行なった事の全てが明るみに出たわけではありません。

第5評議会の創造主は、全てが明らかになるまで、彼らの力を奪い取り、何もできないように拘束する事を決定しましたので、私達も後の処理は第5評議会にお任せする事にしました。

しかし、第4評議会の創造主達は、彼の報告を聞いて考え込んでいます。

「私達は、自分達が創造した宇宙を危うく奪いとられるところでした。

私達が、もっと気をつけていれば、このような事態にはならなかった事でしょう。

きっと皆さんの宇宙の第3評議会の創造主達も「光を生みだす創造主」達から意識をコントロールされてしまい、闇に落ちた「道を作り出す創造主」やその仲間達を光に返さずに、見逃してしまったのではないかと思います。

これも私達の責任です。」

第4評議会の創造主はうなだれてしまいましたが、私は彼等を元気づけるように言います。

「今、その様な事を言っても仕方ありません。

闇に堕ちた「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」が、他の創造主に影響を与えていないか、地球の物理世界で何か企んでいなかったか、急いで調べて解決しましょう。」

私はこれから話そうとする事の重大さのため息をつきました。

「確かに、私達の宇宙や評議会の創造主を生みだしたのは、すでに引退した創造主であるかもしれませんが、彼等は私達が所属している宇宙の一番上のレベルにいました。

という事は、私達の宇宙の実権を握っていたのは闇に落ちた2人の創造主だという事です。

もし、第5評議会の創造主がいなければ、私達は彼等の言うなりになって支配されてしまっていたでしょう。

この2人の創造主は、やがて光に返されるでしょうが、彼等が作った様々な創造主や罫が私達を持ちかまえているかもしれませんので、私達はあきらめずに戦いましょう。」

闇に落ちた第4評議会の創造主が捉えられた事を聞いて、第1評議会、第2評議会の創造主やスターピープル達も戻ってきました。皆さん、私の言葉を聴いて共に戦う決意をしているようです。

今迄も、さんざん上位の評議会の創造主に泣かされてきましたので、だいぶたくましくなりましたようです。」

私達は、全ての評議会の創造主とスターピープル達に「力を生みだす創造主」と「光を生みだす創造主」のエネルギーが入り込んでいないか調べてもらいます。

するとエネルギー体のみで存在している創造主とスターピープルには影響がありませんでしたが、物質的な体を少しでも持っている物理世界の創造主とスターピープルにはその影響が出ているようです。

私達は、第5評議会の創造主にお願いして、その闇のエネルギーをすぐにクリアリングしてもらいます。

そして地球の物理世界を調べてもらおうと、彼等の力を全て奪い去った事で、彼等が行っていた事がはっきりとわかるようになってきました。

彼等は、地球や他の星々に対しても、闇のエネルギーを物質世界に流し込み、様々な闇の創造主やダークピープルを育てる事を行っていたのです。

多くの存在が、知らないうちに彼等の指示に従うようになり、闇のエネルギーを取り込み始めます。

それが、先日処理した「闇のアメーバー」や「光を奪い取るアメーバー」達が作られた目的だったのでしょう。

この地球に適正なエネルギーをもたらす装置を稼働させていた第3評議会のスターピールであるグルナレッドも納得顔で話します。

「TAKESHIさん、これで私達の機械が有効に働いていない理由が分かりました。

私達の機械はフル稼働して、光に満ちたエネルギーを物質世界に送っているのですが、全く効果が表れないのです。

地球の闇が深すぎるのかなと、思っていたのですが、私達の力をはるかに上回る第4評議会の闇の創造主達の力が、この物理世界で作用していたとなれば、それも当たり前です。彼等の力を排除できれば、私達の機械は、もっと効果を上げる事でしょう。」

この2人の闇の創造主によって生み出された闇の力は、第4評議会の創造主と第5評議会の創造主達によってとり除かれる事になりました。

後は、この2人の闇の創造主が、地球の物理世界に自分達の分身を生みだしていない事を祈るだけです。

PART 3 闇の創造主の分身と闇のマイクロチップ

4日の夜、私の予想は見事に裏切られました。やはり首が痛くくしゃみが出るので、私が今いる光50%以上の世界を調べる事にしました。

ピカフラッシュに調べてもらおうと、やはり闇に落ちた2人の創造主は、自分の分身を生みだし光50%以上の世界に隠していました。

この場所で、光を持っている人々がアセンションした世界に上がらないように光を奪い取り、阻止するつもりだったようです。

そして同じように光49%の世界にも自分の分身を作っている事が分かりました。

彼等の本体が、光に返されていなくなってしまったので、彼等も力を失い、隠れていても見つかるようになってしまったのです。

しかし、分身とはいえ、第4評議会の創造主ですので強大な力を持っています。

おそらく彼等が「道を作り出す創造主」の分身や先日捕まえた第3評議会の闇に落ちた創造主達を使って、地球や宇宙を自分達の物にする計画だったのでしょう。

私達は、常に第5評議会の創造主達に守られながら行動しています。

そして「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」の分身は見つけ次第、光に返していきます。

最近、おかしい事に、私達の周りを死者達の姿が見え隠れしますので、光51%以上の世界の黄泉の世界を統治する創造主に出てきてもらいました。

彼は第3評議会の創造主の1人です。

光50%以下の世界にある黄泉の世界と違って、光が多い世界にある黄泉の世界は、素晴らしいスピリットや魂を持つ者達が次の転生を待つための場所でもありますので、ほとんど混乱は起こらないはずです。

彼は私の前に出てくるとこのように言いました。

「闇に落ちた「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」の分身達が、この世界に入ってきた事で黄泉の世界も混乱して、黄泉

のゲートが開き、TAKESHIさん達の元へも死者達が光を求めて押し寄せているようです。

今第5評議会の創造主達が、この世界を調べてゲートを閉じるようにしていますので、しばらくお待ちください。」

しかし私の目の痒さやくしゃみは、まるでアレルギーを起こした時のようにひどくなります。

恵理さんも体中がかゆくなってきたようです。

これは、どうも、私達の脳神経にエネルギーを送り込み、私達の意識をかく乱させるためではないかと私は考えました。

私は、ピカフラッシュを呼び、私の鼻や頭から出ているエネルギーを調べてもらう事にしました。

「確かに、黄泉の世界の扉が開く事で、死者達が私達の光を求めて集まってきているのはわかりますが、問題はそれだけではないようです。

死者がエネルギーを奪い取っているように見せていますが、彼等が取り巻いて隠しているエネルギーのラインがあります。

彼等は、このエネルギーラインを見せないためのカモフラージュなのです。」

第3評議会の創造主は、少し驚いたような顔をしています。

私達が、隠されたエネルギーのラインをつたって黄泉の世界の深い場所に入っていくと、やはり死者達の群れに隠れて「光を生みだす創造主」がいました。

もちろん近くには「力を生みだす創造主」も隠れています。

すぐに第5評議会の創造主に来てもらい、彼等をつまえてもらい、光に返してもらいます。

しかし、私の鼻や脳の奥には、何かしら違和感が残りますので、医療班のクワトロ星人に調べてもらおうと、まるで針先のような、超小型のマイクロチップが見つかりました。

これが、この2人の闇に落ちた創造主としっかりつながっているのです。

もしかしたら、彼等はこのマイクロチップを使って私達の行動を調べたり、意識の操作をしていたかもしれません。

このマイクロチップの事を第4評議会の創造主に尋ねます。

「この機械は、創造主が作ったものではなく、おそらくスターピープル達が作った物でしょう。」とこたえて第4評議会の科学部門のスターピープルを呼んでくれました。

私達の前に、すぐに優秀そうなスターピープルがやってきてくれました。

第4評議会のスターピープルと会うのは、「闇のアメーバー」対策の時に続いて2回目です。

彼等は、科学技術や宇宙工学の専門家達の集まりで、下部の評議会のスターピープル達にも、いつも指導を行なっています。

それぞれの創造主達が、宇宙の創造を行う時に、スターピープル達は、必要に応じて専門的な役目を担っているようです。

科学技術専門のスターピープルは、私達についているマイクロチップを抜き取ると調べています。

「このチップは、私達が作った物ですが、誰かが手を加えて異なる目的のために使用しているようです。」

「本来の目的とはどのようなものでしたか。」
と私は尋ねます。

「本来は、まだ意識や能力が成熟していない人々や存在に埋め込んで使用します。

目的は、人々が光を取り込み、スターピープルや創造主の指示に従って意識を成長させるための物ですが、このチップは反対に闇を取り込み、闇の創造主の指示に従うように作られています。」

「それでは、このチップを無効にするか消滅させる事はできますか。」

「もちろん簡単です。私達が作ったものだから。」

私は彼等の言葉に一安心し、地球人や肉体を持つスターピープルからこのチップを取り除く事をお願いしました。

しかし、闇の創造主達は、幾層にもわたって人々に闇を取り込み、闇の創造主に従うような仕組みを作り出している事に驚かされます。

私も、「闇のアメーバー」とこれらの装置が共に作動する事で、首が痛くなったり体調不良を起こしていましたが、普通の人々は、様々な欲望や自己中心的な思い、依存心などを掻き立てられ、闇のエネルギーに飲み込まれていくようです。

地球が、これほど闇が多い世界となり、地球人がダークピープルに支配されてしまったのも、まさにこれらの仕組みのせいなのでしょう。

私達は、これらの仕組みをひとつずつ明らかにして、人々から取り外していきませんが、自分の心がすっかり闇に染まり、自己中心的な

思いで生きている人からは、取り除く事はできません。

しかし、心の中に愛を持ち続けたいと思っている人からは、このような装置を取りはずし、地球の闇のエネルギーを処理する事で、確実に愛の度数をあげ、今よりも光の度合いが強い世界に入っていく事ができるようになります。

第3章 光を奪われた第4評

議会の創造主達

PART 1 アセンションする人々を閉じ込める施設

私達はこの日もロッド星人から緊急の連絡を受けました。

「TAKESHIさん、光50%以上世界で、大変なものが見つかりました。

多くのアセンションする予定の人達が閉じ込められている場所を見つけたのです。」

私と恵理さんはすぐにスピリットなってその場所に行くと、大きな壁のような物に囲われた場所がありました。

「TAKESHIさん、この場所は、これからアセンションしていく世界に人々が入るための通過点です。

ここに「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」の分身が、人々を捕える為の仕掛けをしていたみたいです。

この世界に来た人達は、この施設に引き寄せられるようにして入って行くのですが、この中に入ると出てくる事ができなくなっています。

私達も、この壁を破壊して中に入ろうとしたのですが、この壁と中に閉じ込められた人々の意識がつなげられ、私達がこの壁を破壊しようとする、中にいる人達に危害が加えられるようになっているようです。

どうしたらよいのかと、困っているのです。」

確かに多くのスターピープル達が困惑した顔でこの壁を見えています。

私もしばらく様子を見た後に答えました。

「これはよく私達が使う方法ですが、創造主か魔法使いにお願いして、時間を止めてもらいましょう。

創造主の分身といえども、物理世界にいるので、時間の制限は受けるはずです。

第4評議会の「流れを作る創造主」が、時間のコントロールができるはずですから、彼に時間を止めてもらい、壁の隙間から、第4評議会のミスト星人が、霧状になって入り、入口をあけるとする方法はどうでしょうか。」

「わかりました。それではすぐに取り掛かりましょう。」

私は、「流れを作る創造主」を呼び寄せ、この施設の中の時を止めてもらうようお願いしました。

「流れを作る創造主」は、銀色の光を操り、施設の中にいる人々の時間を止めます。

そしてミスト星人が、隙間から入り込み、壁と人々の意識がつながられていた回路を切り離すと、施設の入り口が開きます。

待ち構えていた多くのスターピープルが施設の中に流れ込み、捕えられていた多くの人々を助け出します。

そして、手助けに来た第4評議会の創造主によって、「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」の分身達は光に返されていきました。

しかし、何時の間にもこのような施設を作ったのでしょうか、不思議です。

分身とはいえども第4評議会の創造主が本体ですから、このくらいの事は瞬時にできるのかもしれませんが、先が思いやられます。

PART 2 「公正さを司る創造主」の復活

人々を捕える施設の処理が終わると、スターピープル達は、アセンションした人々が入る予定の光50%以上の世界を見回っています。

アセンションの区分では、光50%後半の世界が、「光の地球」にはいる為の学びの世界となります。

人々は、この中でスターピープルになるための教育を受け、第1アセンションを迎えてスターピープルとなる事ができます。

そのためには、この時期までに光50%以上の世界にはいる事が大切なのですが、まだまだこの世界に入れる人は少ないようです。

しかも、アセンションする世界の入り口ともいえる光50%の世界に、先ほどのような罠が作られては、なおさらアセンションした世界に入れる人は少なくなってしまう。

他の世界を見回っていたスターピープルから緊急連絡が入りました。

「TAKESHIさん、グルナエルです。
また創造主の一部と思われるエネルギーを感知しました。
すぐに来てもらえますか。」

私達は、急いでグルナエルのもとに向かうと、すでに第4評議会の創造主達も集まり、闇のエネルギーの中から、分断された創造主のスピリットを助け出そうとしています。

周りが緊迫した雰囲気に入れられ、第5評議会の創造主もやってきてくれました。

「TAKESHIさん、このエネルギーはどうも第4評議会の創造主の物のようです。先日助け出した「流れを作る創造主」と同じような状況ではないかと思われます。おそらく、このエネルギーは分断されていますので、私の仲間が分断された他のエネルギーも探しています。」

第5評議会の創造主が、大きな闇のエネルギーの塊に光を当て、次々に闇のエネルギーを切り離していきます。

するとその中から純白に光輝くエネルギーを持った創造主の一部が出てきました。そのエネルギーはまさしく第4評議会の創造主達のエネルギーです。

その時グルナエルの仲間からも連絡が入りました。

同じようなエネルギーを見つけたということです。

第5評議会、第4評議会の創造主達が、その場所に向かいました。

そして同じように、闇のエネルギーが切り落とされ、先ほどと同じように純白に輝くエネルギーが救出されてきました。

このエネルギーは非常に力強く、闇のエネルギーに染まる事なく輝いていますので、第5評議会の創造主によって、統合されると立派な姿をした創造主に戻って行きました。

「あなたは、「公正さを司る創造主」ではないですか、あなたまで分断されてしまったとは、これは第4評議会にとって大変な事です。」と創造主の一人が叫びます。

第4評議会の「道を指し示す創造主」に、この創造主の事を尋ねました。

「TAKESHIさん、この創造主は、独自に宇宙を創造するのではなく、私達が作った宇宙を調べ、間違いなく運用されているかどうかを調べる創造主です。

彼は「公正さを司る創造主」と呼ばれ、問題があれば、独自の判断でその修正を行う事が許されている創造主です。

「流れを作る創造主」と同じような立場にあり、第4評議会の大切な要となる創造主なのです。」

私は、このような重要な創造主が、どうしてこのように分断され、働きを止められていたか不思議です。

おそらく、彼等がいる事で自分達が行なっている不正が明るみに出る事を恐れた「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」による仕業である事に間違いはないようです。

PART 3 いなくなった第4評議会の創造主

創造主達も、第4評議会の重要な創造主がこのように、スピリットを分断された形で発見されていく事に大きな恐怖を抱き始めました。

私は、第4評議会の創造主を集め、他にいなくなった創造主がいらないかすぐに調べてもらいました。

彼等は日頃から常に交流している訳ではないので、たとえ仲間がいなくなったとしてもわからないようです。

「流れを作る創造主」や「公正さを司る創造主」は、自分達で独自に宇宙を創造するのではなく、創造主達が作った宇宙を調べ不正や問題がないかを、第5評議会に報告する責任を持った創造主でした。

彼等は非常に時間にも正確な創造主でしたので、しばらく報告がない事を不思議に思った第5評議会の創造主達は、第4評議会の異変に少しばかり気づいていたようでした。

第4評議会の創造主達が調べ終わったようです。

「TAKESHIさん、私達が調べてみると、5人ほどの創造主が見当たりません。

彼等が創造した宇宙もそのままなのですが、彼等がどこに行ったのかわからなくなってしまいました。」

私は、心の中でしまった！と思いました。

全ての評議会の創造主やスターピープル達が、最悪の結果を予想し動揺しています。

私達は、第5評議会も含めて、全ての創造主達とスターピープル達と共に、彼等の行方を探す事にしました。

沢山のピカフラッシュにいなくなった創造主のエネルギーを覚えてもらい、一斉に解放します。

第5評議会の創造主も、探索用の機械を使い独自に探し始めました。

するとピカフラッシュは、様々な方向に走り出していきます。

そしてそれを追うように、創造主とスターピープル達のグループも走り出していきました。

私達も、目を閉じ、自分達のセンサーを最大限にして探し始めます。

しばらくすると、あちらこちらで分断された創造主のスピリットが見つかり始めました。

おそらく、第4評議会の創造主を捕え、そのスピリットを分断して隠していたのも「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」の仕業だと思われそうですが、あまりにも残忍で無慈悲なやり方に、多くの創造主が言葉をうしなっています。

第4評議会の創造主はとてもパワーが大きいので、そのまま捕えてもすぐに逃げ出してしまうし、たとえ逃げ出す事ができなくても、他の創造主に連絡してすぐに助けに来てもらえます。

「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」はその事を恐れて、まるで創造主の息の根を止めるように、彼らの光を分断して、彼らの意識が働く事がない状態で隠したのです。

しかも大変な事に、その分断された創造主の中に、創造主達の世界をずっと探査し続けて上位の創造主に情報を送り続けていた創造主も含まれていたのですが、この創造主は、恵理さんを生みだした大元の創造主から作り出された創造主で、恵理さんと同じスピリットを持つ創造主でした。

恵理さんは今朝から、体がバラバラになるような痛みと感覚をずっと味わい、体調不良を訴えていましたが、その原因が、彼女とスピリットを共有する創造主の命が奪われていた為だと知って愕然としました。

おそらく、この探査役の創造主がいては、自分達の不正がばれると思った「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」が、創造主を捕えて分断したのだと思います。

いなくなった5人の創造主の内、2人の創造主は第5評議会の創造主の力でもとに戻してもらった事ができましたが、恵理さんの創造主を含め3人の創造主は、もう生まれ変わる事も出来ず、そのまま光に返されました。

全ての創造主を重苦しい沈黙が包みます。このような悲惨な出来事は第4評議会では今までで経験した事はありませんでした。しかし、私はとても不思議に思う事がありました。

確かに「流れを作る創造主」や「公正さを司る創造主」達はだいぶ前に分断されたようですが、恵理さんの創造主はつい最近まで元気に活動していたので、このような悲惨な事故が起きたのは決して遠い過去ではなくこの数日の事ではないかと思います。

もしかしたら、私達が「道を生みだす創造主」を光に返した事を知って、自分達の行っている事が明るみになる事を恐れて、急に動き始めたのかもしれない。

しかし、第4評議会の創造主の生命を、誰にも知られないように奪うという事は、たとえ闇の力をつけたとはいえ「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」だけでできる事とは思えないのです。

私はこの5人の創造主と「流れを作る創造主」、「公正さを司る創造主」の7名の創造主を捕え、光を分断するだけの力を持った創造主が、彼等に協力したとしか思えません。

考えられるとすれば、第4評議会の生みの親でもある第5評議会の創造主の中に「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」に力を貸した創造主がいるのではないかという事です。

私は、恵理さんとつながる探査役の創造主の意識を恵理さんにつないでもらいました。この創造主は、もうすでに統合して元に戻る事は不可能とされた創造主ですが、彼女のスピリットの意識の1部にでもコンタクトができれば、この創造主を分断し殺害した創造主の事を知る事ができるかもしれないのです。

するとやはり、2人の闇に落ちた創造主のほかにも協力者がいるようです。

恵理さんの意識の中に、3番目の創造主が浮かび上がってきました。

PART 3 闇の種を入れられた「暁の光の創造主」

私は、第5評議会の創造主に集まってもらいました。

「第5評議会の創造主の皆様、本当に申し訳ありませんが、私はこれほど多くの創造主が、光を分断されて生命を奪われた事がとても不思議なのです。

その犯人を捜すためには、皆さんのお力が必要なのです。

どうか、皆さんのお力を私に貸していただけませんか、皆さんだけが頼りなのです。」

私は、第5評議会の創造主に頼み込みました。「TAKESHIさん、もちろんです。

私達にとっても、今まで例がない事です、私達も協力しますので、この真相を突き止めましょう。

それで私達は、何をすればよいのですか。」

「ありがとうございます。ご協力を感謝します。

それでは皆さんを、調べさせてください。」

私の言葉に、第5評議会の創造主は、自分の耳を疑ったようです。

皆さん、顔を見合わせています。

「それでは、スターピープルの皆さん、すぐに調べてください。」

第5評議会のスターピープルとは、私はあまり顔なじみではありませんが、グルナレッド達が第5評議会のスターピープル達にあらかじめ、私の指示を伝えてくれていたようです。

100名以上のスターピープル達が、第5評議会の創造主達を取り囲み調べています。

もちろん、闇の創造主によってコントロールチップを入れられたり闇のエネルギーに飲み込まれていないかを調べているのです。

しばらくすると、スターピープルの1人が、

「TAKESHIさんありました。」

その言葉に多くの創造主とスターピープル達が振り向きました。

闇の種が発見された創造主は、第5評議会の中でも非常に優秀で探査能力に優れ、実行力に長けた創造主だったのです。

第5評議会の創造主のリーダーが、彼の中に発見された「闇の種」をすぐに調べ始めました。

それは、もう種というよりもだいぶ育って大きな闇のエネルギーを、創造主の中で満たしています。

「これは、一体どうした事だ、このような事が或るなんて、」

第5評議会の創造主のリーダーは苦渋の顔をしています。

創造主の間に大きな動揺が広がります。

彼は、「暁の光の創造主」と呼ばれる創造主でした。

この「闇の種」によって正常な意識を失っていますが、その事に気づかれないように行動していたようです。

私は、第5評議会のスターピープルに、この「闇の種」を取り外すようお願いしました。

第5評議会の創造主達は、一体何故このような事が起きたのか、話し合いを始めましたが、皆さん非常に困惑した表情をしています。なぜなら、「流れを作る創造主」と「公正さを司る創造主」の異変を最初に気づいたのは、この「暁の光の創造主」だったからです。

「闇の種」が取り外され、しばらくすると「暁の光の創造主」が意識を取り戻したようです。私は、彼に、昨日までの事を覚えているか、尋ねました。

彼は、私を不思議そうな顔で見えています。

「あなたは、創造主ではないようですが、ここで何をしていらっしゃるのですか。」

彼は、一緒に活動している私の事も分からないようです。

そして第5評議会の創造主をはじめ、多くの創造主やスターピープルがそろっている事に大変驚いています。

「皆さん、一体どうしたのですか。
これほど多くの創造主やスターピープル達が勢ぞろいしているなんて、何か大変な事が起きたのですか。」

彼は何も覚えていないようです。

「「暁の光の創造主」よ、あなたは昨日まで何をしていたか、覚えていますか。」

「暁の光の創造主」はしばらく考え込んでいます。

「いえ、最近の事を考えると頭がぼーつとして痛くなります。

私達に何か起こったのですか。」

私は、「暁の光の創造主」の質問には答えず、
「あなたが覚えている事で、一番、最後に起きた事はなんですか、私に教えてください。」と尋ねます。

「暁の光の創造主」はしばらく考え込んで答えます。

「そうですね、私は「流れを作る創造主」と「公正さを司る創造主」からの報告がないので、不思議に思い、その事を第5評議会の創造主達に報告しました。

そして「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」は、彼等と仲が良かったので、彼等に「流れを作る創造主」と「公正さを司る創造主」の所在を聞こうと、彼等のもとに出かけました。

もし「流れを作る創造主」と「公正さを司る創造主」がいなければ、その役目を「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」に果たしてもらいたいと考えていたからです。
そして・・・」

「暁の光の創造主」はそこで、言葉を失いました。

評議会の創造主達が、かたずをのんで次の言葉をまっています。

「私は、「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」を訪ねていった時に、突然大きな闇のエネルギーが、私を取り囲みました。そこからもう記憶はありません。」

創造主達が大きな失望の声を上げています。

「暁の光の創造主」が、この時大きな闇の力に捕らわれた事は明かです。

私は、「暁の光の創造主」の言葉を証明するために、「流れを作る創造主」にお願いして、「暁の光の創造主」の時間をさかのぼって、彼が言った事が本当であるか、調べてもらう事にしました。

「流れを作る創造主」は、私達を「暁の光の創造主」が、「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」を訪ねていった時間に戻してくれました。

すると「暁の光の創造主」が、言った通り、2人の創造主を訪ねていったところで、「暁の光の創造主」は、大きな闇のエネルギーに捕らわれ気を失っています。

そして、彼が気を失っている間に、「光を生みだす創造主」が「暁の光の創造主」のスピリットの中に「闇の種」を入れているのです。そして「力を生みだす創造主」は、その種に向かって大きな闇のエネルギーを送り込んでいます。

その光景を見た、「暁の光の創造主」は、自分に起こっている事が信じられないようでした。

しかし、「暁の光の創造主」の苦しみはまだ続きます。

「闇の種」を入れられ、闇の創造主となった「暁の光の創造主」は、「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」に命じられるまま、自分達が生み出した第4評議会の創造主を捕え、一瞬のうちに握りつぶしていったのです。

「暁の光の創造主」は、第5評議会の創造主ですので、第4評議会の創造主を生みだす事も、その光を奪う事も簡単にできます。もちろん、本来は誰よりも叡智を持った創造主ですので、たとえ自分が作った創造主であったとしても、かつてに傷つけたり光を奪う事は絶対にしません。しかも、誰よりも正義感が強い「暁の光の創造主」であればなおさらの事です。

「暁の光の創造主」の記憶を通して、彼が行なった事が写し出されると、多くの創造主達が悲鳴をあげていきます。これほど悲惨な光景は、未だ見た事がありません。そして誰よりも、「暁の光の創造主」が気を失うほど驚いています。

「こんな事はありません、私は一体何をしたんだ、闇の力によって、正気を失い、多くの創造主達の光を奪ってしまうなんて。」
彼は、自分の顔を手で覆い泣き崩れましたが、今回の事件は、彼が正気を失った上で行った事は明らかのようにです。

しかし、たとえ闇の手に落ちたとはいえ、多くの創造主の生命の光を奪ったという事は、彼がどれほど償っても償いきれない大きな罪です。

このまま生きていても、彼は自分が犯した罪に、押しつぶされてしまうでしょう。私は、正直で正義感が強い「暁の光の創造主」がかわいそうで仕方がありません。

私は、第5評議会の創造主に言いました。

「私達は、「暁の光の創造主」の罪を許し、彼がこれ以上苦しまないように、光に帰してあげたほうが良いと思いますが、いかがでしょうか。」

リーダーも深く落胆した表情をして私を見ます。

「わかりました、彼がどのようにしたいか聞いてみましょう。」

リーダーは「暁の光の創造主」のもとに近づき、私の言葉を伝えます。

「暁の光の創造主」は、私を見てにっこりと笑い、「どうか、私を光に返してください。」とリーダーに懇願しています。

リーダーの合図で、第5評議会の創造主達が集まり「暁の光の創造主」を取り囲むように円を作ります。

創造主達が、彼に光を満たし、祈りを捧げはじめると「暁の光の創造主」は光に包まれ消えていきました。

第4章 好奇心に負けて闇の 宇宙を作った創造主

PART 1 光と闇のエネルギーを作り出す 施設

第5評議会の創造主達は、第4評議会の創造主達にむかって、深く頭を下げました。

「今回の事件は、私達第5評議会の責任です。本来ならば、第4評議会の創造主の行いをただし、彼等を導く立場にある創造主が、闇の力に惑わされたとはいえ、罪もない多くの創造主の光を奪った事は、あるまじき行為です。私達の長い歴史のなかでも消える事のない大きな過ちとなった事を皆さんにお詫びします。」

第4評議会の創造主の1人が、第5評議会の創造主のもとに駆け寄り、彼の悲しみに満ちた体を支えます。

「第5評議会の創造主様、何という事を言われるのですか、正直で正義に満ちた「暁の光の創造主」様を、闇の手にかけてしたのは、第4評議会の「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」です。

私達こそ、闇に落ちた彼等を野放しにし、導く事をしなかったために、このような悲劇を引き起こしてしまったのです。

今回は、私達の自業自得です。

第5評議会の創造主様の責任ではありません。」

第5評議会と第4評議会は、自分達の責任である事を譲ろうとしません。

「皆さん、どちらの評議会に責任があるかという事よりも、事件の真相をもっと深く調べて、何故このような事が起きたのかという事を突き止めなければ、「暁の光の創造主」も、また光を失った創造主達もかわいそうです。そしてまた同じ事を起こしてしまいます。さあ、次に進みましょう。」

創造主達は、私が言った言葉の意味がよくわからなかったようです。

「私が不思議に思うのは、何故ここまで闇の力が大きく成長したか、という事です。本来ならば、闇も光も同じエネルギーです。皆さん創造主は、闇のエネルギーに簡単に飲み込まれるはずがないのに、今まで私が見てきた世界では、光と闇を自分の中で統合し、適切に利用する事ができずにとっても簡単に多くの創造主が闇に落ちていったのです。それはなぜですか、光に比べて闇の力がこれほどまでに強いのはなぜですか。」

創造主達が、茫然自失になっている姿を横目に、私はここ数10分間に、私の後頭部に押し寄せてきた「刺すような痛み」を起こしているエネルギーを調べる事にしました。ピカフラッシュを呼び出し、このエネルギーの発信源を探し出させます。

するといくつもトンネルのような光の渦を通り抜け、ひとつの施設にたどり着きます。そこには3人の創造主が働いています。私はこの施設の事を創造主達に尋ねると、第5評議会の創造主達が答えます。

「これは、創造主の計画によって、宇宙が生まれてくる時に、光と闇の適切な配分に従って、皆さんの宇宙に光と闇のエネルギーを流すための施設です。

この宇宙は光ばかりの宇宙ですと、全てが調和され問題が起こりません。

するとその世界で生きる創造主やスターピープル、そして星に生きる種族達にとっては平和ですが学びが少ない世界になってしまいます。

そのために、闇のエネルギーを少し混ぜて、いくつかの混乱や争いを起こします。

すると皆さんにとっても程よい学びが行なえる世界ができあがるのです。」

私が、この施設の説明を第5評議会の創造主から聞いている間に、2、3人の第5評議会の創造主が、この施設で働く創造主と話をしたり、施設の記録を調べています。

そして1人の創造主が、手に施設の記録を持って、第5評議会のリーダーに見せています。その記録を見た創造主のリーダーの顔がみるみる青ざめていきます。

「これはありえない事だ。」とリーダーがつぶやきます。

私は、一体何が起きたのですかと、リーダーに尋ねます。

「TAKESHIさん、これは信じられない事ですが、皆さんが属する宇宙には、とても大きな闇のエネルギーが流れ込んでいるのです。私達は、通常、ここまで大きな闇のエネルギーを、宇宙に流す事はないのですが、皆さんの宇宙では、光のエネルギーよりも、はるかに闇のエネルギーの方が多く流れ込んでおり、光と闇のバランスが崩れているのです。」

「なぜそのような事が起きたのですか。」と私は尋ねました。

「しばらくお待ちください。」とリーダーは言い残して、この施設を管理する3人の創造主を呼び、話を聴いています。

私はその間に、この施設を見ていますが、とても明るい黄金色の光や落ち着いた漆黒の光などがいくつも重なり合って輝いているように見えます。

おそらく、様々な光を操りながら、その宇宙に適した光を作り出し、創造主達に供給しているのでしょう。

第5評議会の創造主達は、創造された宇宙を見回り管理するだけでなく、宇宙の創造に必要なエネルギーも供給するようです。

第5評議会の創造主が、私のもとに戻ってきました。

「今、この施設を担当する創造主に話を聴いたところ、皆さんが属する宇宙の責任者は、現在のところ、「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」になっておりました。そして、彼等がこの施設にやってきて、宇宙を新たに作り直す必要があるからと言って、新しいエネルギーの比率を提案してきました。」

「その比率が問題だったのですか。」

「そうです。」

私達は、光と闇のエネルギーがバランスよく配合される事を常に考えておりますが、「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」が提案した比率は、闇のエネルギーが遥に多い比率となっておりましたので、3人の創造主達は、それを認めるべきか協議を行いました。」

「もしかして、その比率を認めたのですか。」

「そのようです。」

通常では、絶対に認められるはずがない比率ですし、これだけ光よりも闇のエネルギーが多いと、宇宙は大きな混乱に巻き込まれるという事が分かっているのに、彼等はこの比率を認めてしまったようです。

「光を生み出す創造主」達から、この宇宙で活動する多くの創造主達やスターピープルが新たな比率を望んでいるからと言われて、彼等は認めてしまったようです。

これは、私達第5評議会の大きな過ちです。」

第5評議会の創造主のリーダーは、同じ第5評議会の創造主達にも事情を説明しています。

第5評議会の創造主達が動揺している様子が伝わってきます。

「私達が、皆さんの宇宙に規定以上の闇のエネルギーを流してしまったために、皆さんの宇宙では、光よりも闇の力の方が圧倒的に大きくなってしまいました。」

「そうなるるとどのような事が起こるのですか。」

「皆さんの宇宙で、多くの創造主が闇のエネルギーに飲み込まれ、闇の創造主になったり、スターピープルになるはずの者達が、闇の力に利用されてダークピープルになってしまいました。それもこの闇のエネルギーの方が多く流れ込んでしまったせいなのです。」

「私達は、今までたくさんのスターピープル達と共に、ダークピープルと戦ってきました。そして闇に落ちた創造主達から何回もサイキックアタックをうけながらも、彼等を光に返してきたのですが、それも、闇のエネルギー

「が、私達の宇宙にたくさん流れ込んでいたからですか。」

「そうです、皆さんのアセンションが難航しているのも、私達の「暁の光の創造主」が、第4評議会の創造主からコントロールされてしまったのも、全て、皆さんの宇宙に、光よりも多くの闇のエネルギーが流れ込んでしまったからなのです。

皆さんの宇宙では、光よりも闇の方が力を持ってしまいましたので、たとえ下の評議会の創造主であったとしても、闇の力を使う事により、自分よりも力が強い創造主を、コントロールできるようになってしまったのです。」

「そのような事があるのですか。」と私は、不安気に尋ねます。

「そのような事が起こってしまったのです。」と創造主のリーダーが答えます。

「私達は、全ての宇宙が適切に運営されているかどうかを調べる事が役目です。

全ての宇宙がより良い状態で存在する為には、光と闇のエネルギーが程よく調和されていなければなりません。

行き過ぎた光も行き過ぎた闇も、宇宙のバランスを壊してしまいます。

その事を防ぐ為に、光と闇のバランスは厳しく決められていたのですが、今回はそのバランスが壊されてしまいました。

これは、私達、第5評議会の責任です。

私達が第6評議会の創造主様から頂いた光と闇のエネルギーを適切に扱えなかったのは、私達が未熟であったためです。

私達は、自分達に課せられた責任を果たす事ができず、創造主様から与えられた試練に打ち勝つ事ができませんでした。

私達は、本当に価値にない創造主です。」

第5評議会のリーダーは自分達が犯した過ちによって自分達を責めさいなみパニックに陥っているようです。

PART 2 「エネルギー分配の創造主」をコントロールした者

私は、第5評議会のスターピープル達に頼んで、何故「エネルギーを分配する創造主」が規定以上の闇のエネルギーを、「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」達に分け与えてしまったのか、調べてもらいました。何か、隠された理由があるように思えるからです。

しばらくすると、第5評議会のスターピープルが戻ってきました。

「TAKESHI さん、この施設で働いている「エネルギー分配の創造主」達に、「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」によるエネルギー支配の痕跡が見られました。

「エネルギー分配の創造主」達は、彼等によって意識をコントロールされ、誤った光と闇のエネルギーの分配を認めてしまったようです。」

私は、この事を不思議に思いました。

つまり「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」が、第5評議会の「エネルギー分配の創造主」達に交渉したのは、闇のエネルギーの比率が高い宇宙を創る前ですから、

2人の創造主達の力は、さほど強くないはず
です。

しかしながら、非常に厳格なはずの「エネルギー分配の創造主」達の意識をコントロールして、非常識なエネルギーの分配を行うように、彼等をコントロールする為には、彼ら3人よりもはるかに大きな力を持っていなければなりません。

しかし、彼等は、その時点では、それほどの力を持っていなかったはずで

すと「エネルギー分配の創造主」達を超える力を持つ創造主が「エネルギー分配の創造主」の意識をコントロールした可能性があります。

私は、その事を第5評議会のスターピープルにつたえて再度調べてもらう事にしました。第5評議会のスターピープルも、私がそのように話をすると、私の意図が分かったようです。

「お任せください。」と言って再度「エネルギー分配の創造主」達を調べ始めました。

私は、第5評議会の創造主のリーダーが、先ほど第6評議会の創造主から与えられた試練に打ち勝つ事ができなかつたと、嘆いていた言葉が気になったのです。

もはやこのレベルの創造主にはないと思いますが、下部の創造主には「試練を与える。」という言葉で、相手の創造主を傷付け、創造主として活動できないように打ちのめしてしまう創造主が良くいるのです。

私も、その様な創造主から何度痛い目にあつた事か、私は第5評議会を生みだした第6評

議会の事を調べなければと思っているのです。

先ほどのスターピープルが戻ってきました。「TAKESHI さん、やはりあなたの推測通り、もう一つエネルギーが見つかりました。それは、第5評議会の創造主よりは大きいエネルギーなのですが、その痕跡は消されていて後を追う事はできないようです。」私達は、そのエネルギーがどこから来ているのか調べる必要がありそうです。

私は、第6評議会から与えられた試練に対して、第5評議会の創造主に話を聴こうと思いましたが、リーダーは、混乱してしまい、自分をずっと攻め続けています。

私は仕方なく第6評議会の創造主に、今まで起きた事を話し、第5評議会に与えられた試練について聞くために、第6評議会の創造主に、私達の前に姿を現してもらおうようお願いしました。

PART 3 好奇心で深い闇の宇宙を作らせた創造主

しばらくすると、私の代わりにビジョンを見てくれる恵理さんが大きな光に包まれ意識が遠くなります。

今までよりも、さらに高い世界へ行く時は、私達はよくこのような事を体験します。恵理さんの遠くなる意識の中で、第6評議会の創造主の姿がおぼろげながら見えてきます。

そして静かに第6評議会の創造主の声が聞こえてきました。

「TAKESHIさん、恵理さん、皆さんにお会いする事ができてうれしく思います。」

「偉大なる創造主よ、私達も皆さんにお会いできて光栄に思っております。

今日は、創造主様に大切な事をお聞きしたくてお呼びいたしました。」

「そうでしたか、あなた方が疑問に思っている事があれば、なんでもお聞きください。」と新しく表れてきた第6評議会の創造主がこたえてくれました。

「偉大な創造主よ、大変ありがとうございます。

実は、第5評議会の創造主達が、私達の宇宙に対して非常に闇が多いエネルギーの分配を行ってしまいました。

その結果、私達の宇宙では、とても闇の力が大きくなってしまい、闇に落ちた創造主が他の創造主を傷付け、光を奪い取る事件が起きたり、ダークピープルが力をつけ、闇の創造主達と共に共謀して、多くの人々やスターピープル達のスピリットを奪い去る事が頻繁に起こるようになりました。

第5評議会の創造主達は、これは自分達が犯した過ちであると嘆いておりますが、この事に関して第6評議会の創造主様は何か心当たりはありませんでしょうか。」

第6評議会の創造主は、ゆったりとした口調で答えます。

「私達は、光のエネルギーも闇のエネルギーもただ第5評議会の創造主達にお渡ししているだけです。

その事に対して良くも悪くも判断しません。

第5評議会の創造主が、それを適切に扱えなかったというのならば、それは彼らの責任でしょう。」

「もちろんそうです。
しかし創造主の皆様は、良く「試練を与える」という事で、非常に大きな障害を与え、創造主達はその障害を越える事ができずに挫折してしまう事がよくあります。
皆さんが、もし第5評議会の創造主に試練を与えているのであれば、その事を教えていただきたいのですが、いかがでしょうか。」

「TAKESHIさん、私達は、第5評議会の創造主に対して試練を与えているとは考えておりません。
彼等は、自分達の叡智に基づき自由に行動しておりますし、私達もその事を信頼しております。」

「そうですか、わかりました。
ありがとうございます。
出来ましたら、第6評議会の創造主の皆さんに集まって頂き、恵理さんの記憶を通して、地球の現実世界で何が起きているかご覧になって頂けませんか。」

「わかりました。
私達、第6評議会の創造主からは地球の物理世界は遥かに遠いものです。
私達は、皆さんの世界を見る事ができませんので、見せていただけると喜んで見ましょう。」

そうすると第6評議会の創造主は、20人ほどが集まり、恵理さんの記憶にアクセスして、地球の物理世界を見始めました。

私達にとって、第6評議会の創造主達は、全く未知の存在ですので、彼等の事を調べる為には、彼等に集まってもらうしか方法がないのです。

私は恵理さんの記憶を見てもらいたいとお願いして、創造主達に集まってもらったのですが、本当のところは、「エネルギー分配の創造主」達の所に残されたエネルギーと合致する創造主を見つけたかったのです。

第6評議会の創造主が、恵理さんの記憶を通して地球の現実世界の様子を見始めた頃、私は第5評議会のスターピープルに合図を送りました。

この第6評議会の創造主の中に「エネルギー分配の創造主」達に対して意識のコントロールを行なった創造主がいないか、調べてもらう為です。

第5評議会のスターピープルは、さすがに自分だけでは難しいと感じたようです。

第6評議会の中でも仲が良いスターピープルに相談して助けを求めていたようです。

第5評議会のスターピープルに変わって第6評議会のスターピープルが、何食わぬ顔で創造主達のエネルギーを調べています。

やがて、スターピープルから合図が来ました。どうやら、エネルギーが合致する創造主がいたようです。

私は、第6評議会の創造主達が、恵理さんの記憶を見終わる頃を見計らって、創造主達に声をかけます。

「創造主の皆様、いかがでしたでしょうか、地球の物理世界だけでなく、私達の宇宙の様々な星でも同じような問題が起きていますし、ダークピープルや闇の創造主達はスタ

ーピープルや光の創造主達を凌駕するような活動を行っています。

それも、第5評議会の「エネルギー分配の創造主」達が、私達の宇宙に通常よりもはるかに大きな闇のエネルギーを流してしまったからなのです。」

第6評議会の創造主は、私の言葉にうなずいています。

「しかしどうも不思議な事があるのです。本来ならば、第5評議会の「エネルギー分配の創造主」達は、決してこのような配分をしないのですが、その時に限って、闇が多いエネルギー比率の分配を行ってしまいました。

たとえ、第4評議会の創造主から頼まれたとはいえ、あり得ない事だと第5評議会の創造主のリーダーも言うておりました。

私達が、不思議に思って調べると、「エネルギー分配の創造主」達は、第4評議会の創造主達から意識をコントロールされた形跡がありました。」

第5評議会や第4評議会の創造主達が、自分達を生みだしてくれた第6評議会の創造主を相手に、私が何を言い始めたのかと不審に思い、皆さん集まってきました。

「しかし、第5評議会の創造主である「エネルギー分配の創造主」が第4評議会の創造主から意識をコントロールされるというのもおかしい話です。

私達が良く調べると、隠されてはいたのですが、もう一つ大きなエネルギーの痕跡が、「エネルギー分配の創造主」達に残っていたのです。」

第6評議会の創造主は、私が何を言いたいのか考えているようです。

「それでは TAKESHI さん、第5評議会の創造主を上回る力を持った創造主が、その事に関わっていると、あなたは考えているのですか。」

「そうです、実は「エネルギー分配の創造主」のもとに残されたエネルギーと似たようなエネルギーを持った創造主が、この中にいるのではないかと思っているのですが、ここにいらっしゃる第6評議会の創造主の皆さんは、心当たりはありませんでしょうか。」

ほとんどの創造主が、自分達には関わりがないという顔をしています。

私が一人の創造主をじっと見つめます。

先ほど第6評議会のスターピープルが、エネルギーが同じであると、教えてくれた創造主です。

私から見つめられた創造主は、隠す事ができないと思ったのか、そわそわした様子で答えます。

「実は、私がこの事に関わっています。」
第6評議会の創造主達だけでなく全ての創造主の視線が、この創造主に集まります。

「私が、「エネルギー分配の創造主」にエネルギーを送り、第4評議会の創造主の希望どおりの光の分配を行わせました。」

第6評議会の創造主は驚いて、その創造主に尋ねます。

「あなたは何故、第5評議会の創造主達の仕事に介入したのですか。」

「私は、創造された宇宙が、いつも同じエネルギーで作られる為に、とても単調であると思ったのです。

中には、他の宇宙と異なる奇抜な宇宙があってもよいと考えた為に、第4評議会の「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」が、「エネルギー分配の創造主」達に闇が多いエネルギー配分をお願いした時に、彼等が作る宇宙はどのような宇宙だろうと好奇心を持ちました。

闇のエネルギーが、たくさんある宇宙とはどんな宇宙だろうと、私は、その宇宙の変化を見てみたいと思ったのです。

そのために、「エネルギー分配の創造主」達の意識をコントロールして、彼等の比率に従ってエネルギーを送らせたのです。」

第5評議会の創造主達は、「エネルギー分配の創造主」達が、第6評議会の創造主に意識をコントロールされて、闇が多いエネルギー配分を行ったと聞いて驚いています。

そうになると、今回の問題は、第5評議会の創造主達が未熟であったために起こったのではなく、第6評議会の創造主の好奇心によって、わざと闇が多い宇宙が生み出されたという事になります。

たった1人の創造主の好奇心のために、第4評議会の創造主や恵理さんにつながる創造主達の命が奪われ、宇宙が混乱に満ちたものとなったのです。

そして第3評議会の創造主が、その闇のエネルギーによって強力な闇の創造主となり、私達の宇宙だけでなく多くの宇宙を奪い取るための計画を立て準備を行っていました。

その計画は、実行こそされませんでした。私達の宇宙だけでなく多くの宇宙は崩壊寸前でした。

第2評議会では、創造主達の大戦争が起こりましたし、そのエネルギーは時を超えて、第2評議会の創造主のリーダー達を混乱させ、アセンションの大きな妨げとなりました。

第1評議会の創造主達は、圧倒的に闇の力を得ている創造主達の方が優勢でした。

多くの創造主やスターピープル達が闇に飲み込まれ、健全な成長をする事ができず、その多くの者達が闇に落ちていきました。

物理世界も、闇が深く、多くの戦争や殺戮がまだ行われています。

多くの光ある者達が、そのスピリットと体を傷付けられています。

これが、一人の創造主が、好奇心によって、闇のエネルギーを多く含んだ宇宙を生み出した結果なのです。

第6評議会の創造主達も、彼がした事を創造主としてあるまじき行為であったと、彼を責めています。

もちろん彼自身、恵理さんの記憶を見る中で、自分が行なった事がどれほど大きな影響と罪を作りあげてしまったのか理解していたようですが、それを償う事は、彼にはできないでしょう。

好奇心に負けて闇が多い世界を作り出した創造主は、第5評議会の創造主達だけでなく他の評議会の創造主に対しても深く謝罪しています。

今回創造主の世界で起きた事は、今迄に例がない事です。

特に第5評議会の創造主や第6評議会の創造主の間では、問題が起きるという事さえもありえない事であったにも関わらず、今回事件が起きた事は、創造主達にとって大きな学びとなったようです。

PART 4 闇の後片付け

第6評議会の判断により、「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」によって光と闇のエネルギーの配分が狂わされていた私達の宇宙は、光と闇のエネルギーの分配比率が適切な物に変更されていきました。

その光は徐々に、第5評議会から第4評議会そして第3評議会、第2、第1評議会のもとに降り、やがて私達が住む物理的な宇宙を潤していきます。

もちろん、適正な比率のエネルギーが私達の地球を潤すためには、しばらく時間がかかりそうですが、地球の各次元の分離を伴って、地球が大きく変化する時は確実にやってくるものと思われれます。

その様な時、私達の地球で悪あがきをしていたダークピープル達からのサイキックアタックが、再び起こり始めました。

それを最初に気づいたのは恵理さんでした。私達に向かってくるたくさんの怒りの感情のような物が見えていたようです。

私はすぐに、グルナレッドとロッド星人を呼び出し、状況を聞きました。

すると50%以下の世界にいるダークピープル達が、闇のエネルギーの供給が止められる事になった事に大きな怒りを持って、私達に攻撃のエネルギーを送っている事が明らかになりました。

しかし、彼等はもうすでに、私達と切り離された世界の存在達ですので、私達に直接攻撃する事はできません。

ただ、私達もこのダークピープル達を放っておく事も出来ませんので、彼等と闇のエネルギーの関係を調べる為に、あえて彼等のエネルギーがどこから来ているか調べる事にしました。

彼等は、第5評議会から送られてくる闇のエネルギーと直接つながっているようでしたので、彼等のエネルギーの源を調べる事で、地球にまだ残っている闇のエネルギーの処理ができるかもしれないと考えたからです。

私は、ダークピープルの裏にあるエネルギーのラインに沿ってピカフラッシュを走らせました。

するとピカフラッシュは、様々な場所を経由して地球の大地の中に入って行きます。

そして地球のコアを抜け、大きな赤黒いエネルギーの塊があるような場所へとたどり着きました。

光のエネルギーとは異なり、重苦しい圧迫感があります。

本来、光と闇は、お互いが共に働きかけながら様々なものを生みだしていきます。

光も闇も、宇宙の創造にとっては必要な物ですが、この闇のエネルギーは、このエネルギーに関わった創造主達の悪意ある意識によって大きく変質させられています。

まるで愛や調和と正反対のエネルギーであり、光あるものを呑み込もうとする貪欲な意識を、このエネルギーから感じます。

おそらく多くの創造主やスターピープル達が、この貪欲な闇のエネルギーに飲み込まれる事によって、正常な意識を失い、支配欲と攻撃欲に満ちた闇の創造主やダークピープルに堕ちていったのでしょう。

私は、第6評議会の「好奇心の創造主」をこの場所に呼び寄せ、この変質した闇のエネルギーの処理を行なうように言いました。

「好奇心の創造主」は、これほどまでに変容した闇のエネルギーを見て、物質世界の恐ろしさをかみしめているようです。

創造主は、祈りを込めて、この地球に蓄えられた闇のエネルギーを浄化して無に帰しています。

この地球のコアにため込まれたエネルギーは、本来創造にとって必要なエネルギーであったにもかかわらず、強欲な闇の力に変容され、ダークピープル達の生命力の源とされていたようです。

第6評議会によって、過剰な闇のエネルギーの供給が中止され、闇のエネルギーをこのような貪欲な闇に変える創造主がいなくなったせいで、ダークピープル達が必要とするエネルギーが少なくなってきたのでしょう。

彼等はその事を怒って、私達を攻撃したようです。

「好奇心の創造主」は、その様な小さい所まで、自分が行なった事が影響を与えている事に大変驚いています。

第5章 生まれ変わる「愛の創造主」

PART 1 生まれ変わる「愛の創造主」

「好奇心の創造主」によって私達の宇宙は闇が多いものとなりましたが、創造主達が、光と闇の比率を正しい物に変えてくれたおかげで、私達の宇宙は適正なエネルギーへと変換が始まりました。

そのエネルギーは、第4評議会から順次第1評議会まで降りてきた所です。

そして私達が住む物理世界へも新たなエネルギーは流れ込んできています。

スターピープル達は、2016年の12月末が地球のアセンションの期限となっており、今できる限りのメンバー達を集めて最終的な仕事を行っています。

人々の意識や愛の度数が、今回のエネルギーの修正によってまた変化していきますので、新たに愛の度数が上がった人達を探し出し、アセンションしていく地球の方に振り分けていくのです。

もちろん、スターピープル達は、皆さんの意思やスピリットの意向を無視する事はできませんが、今迄、多くの闇によって個人ではどうする事も出来ないほどの状態に置かれていましたので、それを修正しながら皆さんが行くべき世界を見極めていきます。

しかし、皆さんのスピリットはとても光が多い世界にいるのに、肉体の意識がついてきていないという事がほとんどですので、スピリ

ットの意識と肉体の意識が一つになるように働きかけているようです。

そうしなければ、皆さんがアセンションする時に、肉体を置いてスピリットだけがアセンションする事になり、今回のアセンションの目的を果たす事ができなくなります。

スターピープル達は、皆さんの肉体の意識を高める為に、皆さんが持つ感情のエネルギーを浄化していています。

怒りや憎しみ、悲しみや恐れなどの感情は、皆さんの肉体の意識をコントロールして、自分自身を光が少ない世界へと導いてしまうからです。

常に安らいだ感情や喜びに満ち溢れた感情を持つという事は肉体の意識を良い状態に保つ大切な要素です。

そのために、彼等は、光51%以上の世界に向かう皆さん1人1人を見えない所で支えているのです。

8日の深夜、私達は、体にずっしりと重たいエネルギーを感じました。

私達の肉体にある物理世界にはいる為のゲートを使用して、多くのスターピープル達や創造主が仕事をしているので、何か大きな変化が起きたら、そのエネルギーは私達の体にすぐ反映されてきます。

今回のエネルギーは、とても大きく重だるいエネルギーでした。

私達はすぐにグルナレッドとロッド星人を呼び出し、何が起きているのか説明してもらいます。

「TAKESHIさん、私達が人々の感情を処理していたら、とてつもなく大きな感情のエネルギーにぶつかってしまいました。

私達は、このエネルギーは、人々の感情の集合意識だと思っていましたが少し違うようです。」

私達はすぐにスピリットとなりその場所に向かいました。

確かに今迄の感情の集合意識とは異なり、とても巨大なエネルギーを持っています。

そしてこのエネルギー体から、他の世界に向かっていくつものエネルギーラインがつながっています。

しかし、ここは光51%以上の世界ですから、それほど大きな闇のエネルギーが残っているとは思えない場所です。

「確かに大きなエネルギーですね、しかもいくつもの世界にむかってエネルギーのラインがつながっています。

これはただの感情のエネルギーではなさそうですので、創造主達にも手伝ってもらいましょう。

第5評議会、第4評議会の創造主達、どうかこのエネルギーを処理してください。」

創造主達がやってきて、まるでステーキを切り分けるように、周りからどす黒いエネルギーを切り取っていきます。

しかし、いくら切り取っても、その中央からあふれるように闇のエネルギーが流れ出してくるのです。

そのエネルギーに、第4評議会の創造主達が、何か気づいたようです。

創造主の1人が、仲間を呼び、このエネルギーを取り囲みます。

そして、創造主達が祈りと共に光を送ると、どす黒いエネルギーの塊が、周りから溶けていきます。

しばらくすると、その中から何かが浮かび上がってきます。

浮かび上がってきた創造主を見て、第4評議会の創造主が驚いています。

闇のエネルギーの中に閉じ込められていた創造主は、第6評議会から第1評議会までの全ての次元と世界に存在する事ができる「愛の創造主」だったのです。

しかし、今私達の前にいる「愛の創造主」はまるで悪臭漂う泥の中に閉じ込められて、意識も混濁し、大切な愛のエネルギーは情念のエネルギーに変容している闇の創造主です。彼女のエネルギーは「愛」とは正反対の情欲や嫉妬といったエネルギーに変わり、多くの闇の世界とつながっていました。

そのエネルギーに気づいたのか、第5評議会、第6評議会の創造主達も「愛の創造主」のもとに現われてきました。

第5評議会の創造主が、闇にまみれ、その純粋なエネルギーも大きく変容した創造主を見て悲しんでいます。

「偉大なる愛の創造主よ、あなたが私達の宇宙から姿を消して長い年月が経ちましたが、まさかこのような姿で現われるとは思っていませんでした。

あなたが、その姿を消し、この宇宙に愛のエネルギーが満ち溢れなくなった事で、この宇宙は光が消えたキャンドルのように静まり返ってしまいました。

「宇宙の根源の愛」も、創造主やスターピープルから少しずつ遠のき、この宇宙は空虚なものとなってしまいました。

どうか今一度、あなたの愛のエネルギーを、全ての宇宙に満たしてください。」

多くの創造主が、「愛の創造主」を取り囲み祈りをささげています。

彼等にとって、この「愛の創造主」まさに自分達を生みだした聖母そのものだったのです。

「愛の創造主」と呼ばれる創造主は、第4評議会の創造主が作り上げた宇宙に、愛のエネルギーを注ぎ込む働きも行っていました。全ての宇宙には、光と闇のエネルギーが必要ですが、もっと大切なエネルギーは「愛」のエネルギーです。

「宇宙の根源の愛」によって全ての生命、全ての星々は、生命を宿し輝く事が出来るのですが、「宇宙の根源の愛」と各宇宙をつなぎ、愛のエネルギーを送り込み事がこの「愛の創造主」の役目だったようです。

彼女は、愛のエネルギーと共に、どのような宇宙の次元にも入り込む事ができました。それは大きな宇宙そのものであっても、1人1人の心の中であったとしても、相手に合わせて自由自在に愛を送る事ができる稀有な創造主だったのです。

この「愛の創造主」は、第4評議会では、「流れを作る創造主」や「公正さ創造主」と共に、宇宙の創造のサポートをしていましたので、私は最初、第4評議会の創造主達の光を奪った創造主によって、「愛の創造主」もここに閉じ込められたのかと思いましたが違うようです。

恵理さんの心の中に、彼女の弱弱しい声が届いてきました。

「どうか、「愛の創造主」の役目を果たす事ができなくなった私を許してください。

皆さんの宇宙はとても闇が多く、愛のエネルギーが満ちる事のない世界となってしまいました。

私は、この世界で傷つき苦しんでいる人達を見るたびに、私達の愛を送り助けてあげたいと思いました。

私はできうる限りの愛を送る事を行っていましたが、私はあまりにも物理世界にこだわり過ぎたようです。

私の力は、物理世界では、その働きを制限されてしまい、この世界に満ち溢れていた闇のエネルギーに押しつぶされそうになりました。

私は、それでもこの闇の多い宇宙に立ちほだかり、愛のエネルギーで宇宙を満たそうとしたのですが、いつしか私自身が闇のエネルギーに捕らわれ、このような宇宙を作った創造主や力のない私自身に対して怒りを持ち、憎むようになってしまったのです。

そしてその結果、私自身が怒りや憎しみのエネルギーを生み出す存在になってしまいました。」

私は、第6評議会の創造主に対して「愛の創造主」を取り囲む闇のエネルギーを浄化し、彼女自身をクリアリングしてくれるように頼みました。

「TAKESHIさん、もちろんです。彼女は私達の宇宙にとっては、無くてはならない存在です。皆で力をあわせてできる限りの事はいたしましょう。」

創造主達が力を合わせて「愛の創造主」に光を送っていますが、彼女自身の内側から光が生まれ出てくる事はありません。

「皆さん、本当にありがとうございます。
私は、この宇宙に愛をもたらすのではなく怒りや憎しみをもたらす存在になってしまったようです。
私の中から「宇宙の愛」が輝きだす事はないでしょう。
わたしはもう光に帰りたいと思います。
このままでは、皆さんにご迷惑をかけるばかりですから、」

「愛の創造主」は自分に残された最後の良心で私達に訴えかけてきました。
もし彼女が、最後の良心まで失ってしまったら、全ての宇宙から愛を奪い去り、怒りと憎しみのエネルギーで全ての人々を覆い尽くすような存在になってしまう事でしょう。
そうなってしまえば、彼女自身が一番苦しむ事でしょう、いえ、苦しむ気持ちさえも失うかもしれません。

創造主達は、祈りを込めて「愛の創造主」を光に返しています。
全ての評議会の創造主が、悲しみの涙を浮かべています。

「愛の創造主」が光に帰ると、そこには大きな闇のエネルギーが残りましたので、創造主達はそのエネルギーを浄化しています。
私は、第6評議会の創造主に新たに「愛の創造主」を作ってくれるか尋ねました。

「TAKESHIさん、もちろん新たな「愛の創造主」を作りましょう。
皆さんの宇宙だけでなく全ての宇宙においても、「愛の創造主」は必要不可欠です。
そして彼女が、このような思いをしなくて済むような宇宙を、皆さんと一緒に作りましょう。」

私達は、あらたな「愛の創造主」が生まれる事を夢見て眠りにはいる事にしました。そして翌日には、新たな「愛の創造主」と出会う事になるのです。

PART 2 「区別を行う創造主」の再生

私達は翌日目覚めると、昨夜の「愛の創造主」の哀しい姿を思い出してため息をついています。

そして、第5評議会の創造主から「愛の創造主」も、やはり第5評議会の闇に操られた創造主から、その能力を奪い取られ、自分の力を十分に発揮する事ができずに、闇に落ちていったのだという話を聴かされました。

私達の宇宙はこれほどまでに闇が深く、素晴らしい創造主達でさえも、闇の中でその輝きを失ってしまっている、一体これほどの闇のエネルギーが、この宇宙にどうして存在しているのだろうか、少し落胆していました。

その様な時に、ロッド星人から連絡が入りました。

「TAKESHIさん、また同じような大きな闇のエネルギーが見つかりました。

光49%の世界から光53%の世界にまたがって同じようなエネルギーがいくつか見つかりましたので、これも第4評議会の創造主ではないかと思います。」

私達はすぐにその場所に行くと、ロッド星人やグルナレッド、第4評議会の創造主達も集まっています。

第4評議会の創造主達は、いくつかの次元に分断されたエネルギーをひとつに集め、闇のエネルギーを溶かしていきます。

すると、そこに現われてきたのは、闇のエネルギーに閉じ込められた創造主です。

私は、第4評議会の創造主にどのような状態か尋ねました。

「彼のスピリットは分断されて力を失っていましたが、眠りについていたような状態ですので、スピリット自体は闇のエネルギーに侵されていたわけではありません。

第5評議会の創造主にお願いして、スピリットを統合すれば、また前のように創造主として活躍できるのではないかと思います。」

創造主が発見された事を知って、第5評議会の創造主がやってきてくれました。

私とも非常に深い関係にある「陽の働きを持つ創造主」です。

「やはりこのような場所に捕らわれていたのですね。

「公正さを司る創造主」が見つかったので、この創造主も見つかるのではと期待しておりました。

すぐにスピリットを統合してもとに戻してあげましょう。」

第5評議会の創造主は、集められたスピリットの光を、さらに大きな光で包み祈っています。

この分断された光の一つ一つが、この創造主の能力や資質、パワー、行動力、愛などを表しています。

その様なエネルギーがすべて分断される事で、創造主は、統一性を失い、その思考や行動を全て止められてしまうのです。

第5評議会の創造主が、分断された光を手繰り寄せするように、再び織りなおしていきます。

異なる色の光が、水を得た魚のように色鮮やかに輝きはじめ、再び躍動を始めます。分断されたスピリットの光は、やがて一つに絡み合っって大きな光になっていきます。創造主の意思とパワーが戻ってきたようです。

私は、第4評議会の創造主にこの創造主の役目を聞きました。

第4評議会の創造主はすこし考えていたようですが思い出したようです。

「この創造主は、「区分けをする創造主」と呼ばれている創造主です。

第4評議会の創造主が作った宇宙がお互い交わったり干渉したりしないように、宇宙と宇宙の境界線を作る創造主です。

私達は様々な宇宙を作りますから、独自に発展して広がる宇宙もあります。

その様な時、彼が、一つ一つの宇宙の拡大する範囲を定めてくれます。

彼がいる事で、私達は安心して宇宙を作れるのです。」

私は不思議に思いました。

以前、第4評議会の創造主にいなくなった創造主がいなか、調べてもらったとき、「愛の創造主」も「区分けをする創造主」もその名前が出てきませんでした。

これだけ大切な創造主なら、忘れるという事はないはずですが。

「TAKESHI さん、実はその事なのですが、いなくなった創造主に対しては、私達の記憶がまるで抜き取られたように覚えていないのです。

いなくなった創造主が私達の目の前に現れて、初めて、この創造主がいなくなっていたと気づくのです。」

私は、第4評議会の創造主を分断して闇の世界に閉じ込められていたのは、第5評議会の闇にコントロールされた創造主ですが、未だ裏に他の創造主達が隠れているのではないかと疑いを持っています。

今回、発見されて目覚めさせられた創造主の意識が戻ってきたようです。

第5評議会の創造主が私に、この創造主達の事を教えてくれました。

「第4評議会の創造主は、宇宙を創造する事が仕事の創造主と宇宙の創造をサポートし管理する創造主達に分かれます。

「流れを作る創造主」「公正さを司る創造主」そして今回発見された「愛の創造主」「区分けをする創造主」達は、全て他の創造主達が宇宙を創造するときのお手伝いをする創造主です。

そして、それと同時に第5評議会の創造主に、第4評議会の創造主がどのような宇宙を作っているのか、どのような考えで宇宙を運営しているのか、という事を報告してくれる大切な創造主なのです。

そのような立場の創造主が捉えられて封じられていますので「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」は、本気でこの宇宙を乗っ取るつもりだったのでしょね。」

この「区分けをする創造主」が戻ってきてくれたおかげで、ロッド星人やエレナさん達は、大助かりのようです。

「TAKESHIさん、この創造主がいなくなっていたので、私達が行なっている分離の仕事もうまく行かなかったようです。

一度分離したものが、再度くっついていたりしたのも、「区分けをする創造主」がいなく

なったために、それらの分離を行なう創造主達の系列の力が弱くなっていた為です。これで、地球の様々な世界の分離も進むと思います。」

第6章 人々の意識を操って

いた可憐な創造主

PART 1 「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」の攻勢

9日の夜になると、このところ諏訪瀬島の地震が起きている事に胸騒ぎを感じます。

この場所は沖縄と鹿児島をつなぐ中間地点のような場所なのですが、3万年前、この辺りは香港から沖縄そして鹿児島にかけてひとつながりの大陸があった場所で、かつてレムリア文明を受け継いだ最後の場所だと聞かされていました。

与那国島で発見された海中神殿も、レムリア文明の名残なのですが、新しい時代には、この場所が再度隆起する予定であるといわれているのです。

私はアシュタールのエレナさんと呼び、この地震について聞いてみました。

「実は、第1評議会の創造主の間で、この場所を隆起させ、レムリア文明の遺跡を現して、かつてこの地域に古代文明があった事を人々に知らせる事で、人々の意識を目覚めさせようという動きがあるようです。

その事について、現在第1評議会でも話し合われているようです。」

私は耳を疑いました。

この地域に、陸地を隆起させれば、大きな地震や津波が起きますので、南海トラフどころではない被害が起こります。西日本や沖縄は、大津波と地震によって潰滅してしまう事は

間違いありませんし、私達も無事ではられないでしょう。

私達はすぐに、第1評議会に上がっていき、創造主達と話をする事にしました。

「皆さん、評議会の中で、かつてのレムリア文明が栄えた場所の隆起を行う計画があると聞きましたが本当ですか。」

第1評議会のリーダーである「光彩の創造主」が答えてくれます。

「それはまだ、評議会で決定した事ではありません。

一部の創造主達がその様な意見を持っているので検討しているのです。」

「それでしたら、この計画はすぐに中止してください。

この場所が隆起すると、沖縄や九州、西日本は壊滅してしまい、この場所に住んでいる光を持った人達の生命も奪われてしまうでしょう。

もちろん私の家族もすべて海の底です。

これだけの大災害が起きたら、レムリアの遺跡どころではありません。」

創造主も顔を見合わせてうなずいています。

「皆さんは、レムリアの遺跡が発見される事で、レムリア時代の記憶が戻り、人々の意識が成長すると考えているかもしれませんが、まずその様な事は起こりません。

レムリアの遺跡が出ると同時に、多くの人々が津波や地震で死んだなら、レムリア大陸の沈没という悲惨な最期を思い出し、皆さんは古代文明やアセンションに関する記憶を避けるだけです。

私達が、これから行わなければならないのは、スターピープルと地球人が出会うために、地

球人が冷静になってスターピープルに関する知識を学ぶ事です。

そしてアセンションする為に、何が必要か、どうしたらよいかという事を知り実行する事です。

それ以外の余計な事は、ひとまず行わないようにしてください。」

私もスターピープル達も考えは同じです。

今でも、闇に落ちた創造主に振り回されて大変な思いをしているのに、これ以上面倒な事を増やすわけにはいきません。

しかし、誰がこのような計画を言い出したのか、そして現実には諏訪瀬島に地震が起きている事も気になります。

ちょうどこの頃から、また私の後頭部に痛みが出ていますので、何かしら隠れている創造主がいるようです。

ピカフラッシュに、私の後頭部の痛みを調べてもらおうと、やはり見つかりました。

「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」の分身が、また諏訪瀬島の海底に隠れていたのです。

彼等を捕えて、つながっているラインを調べると、なんと第1評議会の「審判の創造主」に突き当たりました。

彼が、レムリア文明の隆起の提案をした超本人のようです。

「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」は、この場所を隆起させ、日本や私達に壊滅的なダメージを与える事を計画していたようです。

「審判の創造主」と彼につながる創造主達は、「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」の分身にだまされて行動していたようです。

PART 2 人々の意識の中に入り込んだ闇の創造主達

私達が、この調査を行っていた頃、ロッド星人から緊急連絡がはいりました。

「TAKESHI さん、ブラックホールが発見されましたのですぐに来てください。」

私達と第1評議会のスターピープル達も急いで現場に戻ります。

するとそこには、大きなブラックホールが、この世界に入ってきた人達を呑み込もうとするように大きな口をあけているのです。

ロッド星人が困ったような顔をしています。

「以前調べた時には、このようなものはありませんでした。

もしかしたらどこかに隠されていたのかもしれませんが、この防波堤とブラックホールは、どちらとも光に向かう人々を捕え、アセンションさせないために作られたものです。どちらも、闇に落ちた「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」が関わっている事に間違いはないのですが、不思議です。」

「何が不思議なのですか。」と私はロッド星人に尋ねました。

「いえ、実は以前何もなかったところに、このようなブラックホールができていますので、グルナエル達とも話し合ったのです。

「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」の本体は光に帰り、彼等の分身の多くは処理できているのですが、どこからか沸き起こってくるように現れてくるのです。

彼等よりも高次元の創造主達が、何度も光を送っているのに、たとえ分身と言えども存在できないはずなのです。」

グルナエルも困っているようです。

「私達も、彼等がどこから来るのか不思議に思い調べてみると、人々の潜在意識の中に、あの闇の創造主達のエネルギーが隠れている事が分かりました。

そして1人1人の意識の中に、自分達のエネルギーを送りこんでいるのです。

そうすると、愛の度数が高い人の意識の中にも彼等は入り込む事ができます。

愛の度数が高い人は、当然光50%以上の世界に入ってきます。

そしてその人が光50%以上の世界に入ったところで、彼等の意識が、愛の度数が高い人の意識を乗っ取ってしまえば、「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」の分身として光の世界で悪事を働く事ができます。

きっとその様な方法で、この世界に入り、ブラックホールを作ったのではないかと思われるのです。

私達はミスト星人やその他のスターピープルにもお願いして、人々の意識を調べました。すると残念な事に、多くの人の意識から、「光を生みだす創造主」か「力を生みだす創造主」のどちらかのエネルギーが検出されたのです。」

第1評議会のスターピープル達が愕然としています。

アセンションのために、世界をいくつも分離して、その世界にあった人々を選び出すために愛の度数や叡智の度数を図り、苦労しながら人々を分離しているのです。

それにも関わらず、愛の度数が高い人の中に、闇に落ちた創造主のエネルギーが紛れ込んでいたとすると、全ての世界が、闇の創造主の思うままです。

これではアセンションが成功するはずもありません。

この衝撃は、全ての創造主とスターピープルに広がりました。

皆さん愕然として力を失っていきます。

「それではロッド星人、グルナレッド、どのような対策をとればよいか教えてください。」
私はスターピープル達に尋ねます。

「まず、すでに、光50%以上の世界に入った人々を徹底的に調べる事です。

彼等のエネルギーは、やはり人間と異なりますので、見つける事はできると思います。

そして第4評議会以上の創造主の力をかりて除去する事が大切です。

新たにこの世界に入ろうとする人に関しては、私達が詳しくチェックを行い、闇の創造主達のエネルギーをとり除く作業を行ってから、光50%以上の世界に入れたいと思います。」

「しかしそのような事を行っている間にも、彼等の意識を持った人々が、地球上で様々な争いや支配を行う事はありますか、」

「もちろん、それは現在でも起こっていると思います。

またアセンションにとっても大きな障害となるでしょうから、アセンションが大きく遅れる事となるでしょう。」

ロッド星人とグルナレッドは、私に大切な話があるといって誰もいない所に連れてきました。

「私達は、さらに上位のスターピープルとも相談したのですが、「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」には協力者やこの

2人を操っていた創造主がいるのではないかと考えているのです。

2人の闇に落ちた創造主の本体はもういませんから、残るのは分身だけです。

しかし、分身がこれほど臨機応変に動ける訳ではないと私達は考えています。

とすれば、この2人の創造主を使って、宇宙を奪おうとする創造主が未だほかにもいる可能性があります。

その創造主を早く見つけないと、地球だけでなく宇宙は大変な事になってしまいます。」

「今回の問題を起こした張本人は、第6評議会の「好奇心の創造主」でしたが、彼の動機はあまりにも単純です。

現実的には、この宇宙の支配権をかけて大戦争が起きるところまで発展していました。

おそらく「好奇心の創造主」以上の動機を持っている創造主が隠れているのではないかと思うのです。

それも「好奇心の創造主」を自由に操れる立場の創造主でしょう。」

私もロッド星人やグルナレッドの考えに賛同しないわけにはいきません。

私が、第7評議会の創造主に「好奇心の創造主」を見つけた処で、今回の探索は終了ですか、と尋ねた時に、彼は何も言いませんでした。

おそらくそれは終了していないという事を言いたかったのだと思います。

PART 3 闇のエネルギーに飲み込まれた「穏やかさの創造主」

私は、グルナレッド達と共に、隠れて第5評議会と第6評議会の創造主とスターピープルを呼びだしました。

彼等には、私は初めて会いますが、私に来る事を待っていたようです。

スターピープル達は、地上で起きている事をグルナレッドやロッド星人から聞き、まだ隠された問題が有る事に気づいているようです。

「皆さん初めてお会いしますが、これからどうかよろしくお願いします。」

地球人的な挨拶に皆さんにこやかに対応してくれます。

「私達は非常に困った問題を抱えています。おそらくグルナレッドから話は聞かれていると思いますが、この宇宙を闇におとしいれた本当の犯人を捜し出さなければ、地球はおろか多くの星々が壊滅してしまうのではないかと考えています。

しかし、おそらく犯人は、第6評議会か第5評議会の創造主の中にいると思います。

犯人を簡単に調べる事はできませんが、何とか見つけだしたいと思いますので、皆さんには、それぞれの評議会の創造主を見張って頂きたいのですが、よろしくお願ひできませんか。」

第6評議会のスターピープルが答えます。

「TAKESHI さん達の考えはよくわかりました。

しかし問題が一つあります。

あなたの考えを実行する為には、創造主と同じラインのスターピープルが見張るのでは効果はありません。

同じ評議会では、創造主が中心でスターピープルはあくまでも創造主に仕える立場になります。

今回のように、重要な問題を抱えている場合、第6評議会の創造主を見張るのは、私達ではできませんので、第7評議会のスターピープルにお願いしたらどうでしょうか。

私達、第6評議会のスターピープルは、第5評議会の創造主を見張りますし、第5評議会のスターピープルは、第4評議会の創造主を見張ります。」

第6評議会のスターピープルは、ロッド星人と同じ系列のスターピープルのようです。

彼がいう事ももっともですので、私は、第7評議会のスターピープルにお願いして助けてもらう事にしました。

第7評議会のスターピープルも降りてきてくれました。

私達は非常に正義感が強いスターピープル達を仲間にして、この闇に満ちた宇宙を作り出した創造主を見つけ出す事にしました。

次に私は、私のスピリットと関係が深い第5評議会と第6評議会の創造主に来てもらいました。

彼等は、私の大元となる第7評議会の創造主から生み出された創造主達です。

もちろん、私も彼らの一部をスピリットの中に持っていますのでもっとも信頼できる創造主達です。

私達の計画では、彼等の評議会に属する創造主を捕まえる事になりますので、やはり彼等の助けは必要です。

第5評議会の創造主は「陽の働きを持つ創造主」、第6評議会の創造主は「全ての創造主の働きを持つ創造主」という名前です。

「偉大なる創造主達よ、地球の混乱はおそらく皆さんの想像を超えたものとなってきました。

すでに光に返ったはずの「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」の意識が、地球の人々の潜在意識をとおして、多くの人々の意識の中に流れ込んでいます。

アセンションする世界にも闇の創造主達はすでに入り込み、光ある人々を捕えるという事さえも起きています。

このままでは、地球のアセンションが失敗するどころか、この宇宙の存続さえも危ない状態です。

私達は、創造主の中に「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」を利用している創造主やこの宇宙に大きな闇を流し、この宇宙を奪い取ろうとする創造主が未だ残っているのではないかと思います。皆さんはどう思われていますか。」

第6評議会の創造主で「全ての創造主の働きをもっている創造主」は、私の言葉を真剣に聞いています。

「TAKESHI さんが言うとおりの、現在の地球の状況は異常です。

まだ、隠れて操作を行っている創造主がいる可能性は大きいと思います。

実は私達も、その創造主が誰なのか、確証がつかめていないのです。

私達も協力しますので、ぜひ調べてください。」

第5評議会の「陽の働きを持つ創造主」も同じ考えのようです。

私達は、地球と宇宙の未来のために計画を実行する事にしました。

私達は、地上に戻るといつものように、ピカフラッシュを使って、人間の潜在意識に隠れていた「光を生み出す創造主」と「力を生み出す創造主」のエネルギーを調べはじめました。彼等を動かしているエネルギーや存在を見つけださなければなりません。

私はピカフラッシュに、上に次元につながっているラインを見つけ、そのラインを追っていくように命じました。

ピカフラッシュを先頭にしてグルナレッドやロッド星人、そして第5評議会から第7評議会のスターピープル達も一緒に走り出しました。

しかし、そのころから私達の体に大きな痛みが走り出しました。

私の後頭部でエネルギーが炸裂するような痛みが起こりますので、このままでは脳神経に大きなダメージを受けてしまいそうです。恵理さんも、お腹の子供が大きく圧迫されて苦しんでいると伝えてきました。

先日も、お腹の子供の意識と肉体が分離され、危ないところをスターピープルと創造主に助けてもらいましたが、今度は子供が圧迫されて、恵理さんの呼吸も苦しくなっています。

私達は、第6評議会の創造主や「愛の創造主」に助けを求めました。

おそらく相手の創造主も、自分達の存在が気付かれないように、私達の命を奪おうとしているようですが、第6評議会、第7評議会の創造主が、私達を守ってくれているようです。しかし、これも時間の問題です。

早く問題となっている創造主を見つけないと大変な事になります。

ピカフラッシュと第4評議会の創造主を見張っていた第5評議会のスターピープル達が1人の創造主を見つけたようです。

その創造主は、第4評議会の創造主ですので、闇に落ちた「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」がいた評議会です。

私は、少し見当はずれでしたが、まずこの創造主から調べる事にしました。

第5評議会の創造主にも立ち会ってもらい調べる事にしたのですが、第4評議会の創造主達が非常に困惑しています。

というのも、この創造主は第4評議会の創造主の中でもとりわけ優しく愛に満ちていた創造主だったからです。

第4評議会の創造主が、私達に状況を話してくれます。

「第5評議会の創造主様、TAKESHIさん、本当に申し訳ありません。

先日までは気づかなかったのですが、この「穏やかさの創造主」までもが闇に落ちるとは思いもしませんでした。

この創造主は、私達の中ではもっとも穏やかで優しく、愛に満ち溢れた宇宙を創る創造主でした。

私達もこの穢れない創造主を可愛がっていたのですが、いつの間に、このような闇にまみれた創造主になってしまったのでしょうか。

この創造主は「愛の創造主」とも仲が良く・・・そういったところで、第4評議会の創造主は、はっと気づいたようです。

「愛の創造主」と仲が良かったからこそ、闇の創造主に狙われたのです。

「私達は、一体何をしていたのだろう。

私達が、他の創造主をないがしろにしていたばかりに、このような罪のない創造主まで闇に落してしまった。

どうか第5評議会の創造主様、「穏やかさの創造主」を助けてあげてください。」

第4評議会の創造主の創造主達が、この場に集まってきて祈りをささげています。

しかし今の「穏やかさの創造主」は以前とは異なる闇に落ちた創造主です

彼女が、地球上に残されていた「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」のエネルギーを利用して、人々の潜在意識に入り込み、人々から光を奪い取っていた事が判明しました。

おそらく、情欲の創造主となった「愛の創造主」に引きずられて、闇の創造主になったのか、あるいは「愛の創造主」を助けようとして大きな闇に捕まったのかはわかりませんが、「穏やかさの創造主」の闇はとても深い物のように思えます。

第5評議会の創造主は、彼女に一生懸命光を送っている第4評議会の創造主達をしばらく見守っていましたが結論を出したようです。

「第4評議会の創造主達よ、残念ながら「穏やかさの創造主」は光に返しましょう。

彼女はそのスピリットまで、すでに闇に侵されています。

彼女がこの闇を乗り越える事はできないでしょう。」

「穏やかさの創造主」の体が、光に包まれてくるくると回るように上の次元の光の中に吸い込まれていきます。

私達にとって、罪もない創造主が闇に飲み込まれて光に戻る姿を見る時が一番辛いのです。

しかしながら、私の後頭部の痛みは更にひどくなり、お腹の子供も圧迫され痛みを訴えています。

本当の犯人は、この創造主ではないようです。私達は、さらに上位の創造主を探す事にしました。

第7章 全ての宇宙を闇にお としいた創造主

PART 1 「変化を促す創造主」との応答

その時、第7評議会のスターピープルから連絡がありました。

怪しい行動をとっている創造主が第6評議会にいますという事です。

おそらく私達にサイキックアタックを行っているエネルギーをスターピープルが見つけたのでしょう。

私達は、すぐに連絡をくれたスターピープルのもとに行きました。

すでに、私のスピリットと深い関係を持つ「全ての創造主の働きを持つ創造主」達も集まっています。

私は、問題があるとされている「変化を促す創造主」と呼ばれている創造主と話をすることにしました。

先ほどの「穏やかさの創造主」からのラインも、彼につながっているようですが確固たる証拠にはなりません。

第6評議会の創造主達も何が起きたのかと、集まってきました。

第7評議会の創造主も見守っていますので、「変化を促す創造主」は、嘘を言う事ができません。

私は、「変化を促す創造主」に向かっていくつかの質問をする事にしました。

「地球は今大きな混乱を迎えています。私達の宇宙は、闇に落ちた創造主によっていくつもの混乱が起きているからです。

それも、第4評議会の「光を生みだす創造主」達が、闇の配分が多いエネルギーを流してくれるように、第5評議会の創造主に頼んだ時、第6評議会の創造主である「好奇心の創造主」が、「光の配分を行う創造主」をコントロールして、闇の配分が多いエネルギーを流したために、私達の宇宙を司る創造主達が闇に落ち、宇宙そのものが、闇が多いものとなってしまいました。

その事をご存知でしょうか。」

「変化を促す創造主」はうなずきながら「はい、知っています。」と答えます。

「それでは、あなたは同じ評議会の創造主である「好奇心の創造主」とこの事について関わりはありましたか。」と私は尋ねます。

「いいえ、私はこのような事が起きた事も最近まで知りませんでした。」

「変化を促す創造主」は平然と答えました。

「そうですか、あなたは「光を生みだす創造主」もしくは「力を生みだす創造主」に力を貸したり、彼等が行なった事を手助けしたりしませんでしたか。」

「いいえ、私と彼らは所属している評議会が異なりますので、会った事ありません。」

「第5評議会の創造主の1人が、誰かにコントロールを受けて第4評議会の創造主達の光を奪い、スピリットを分断してしまう事件がありましたか、その創造主に対して何らかのコントロールを行いましたか。」

「いえ、行っていません。」

彼はすべての事を否定して自分が関与していない事を言い張ります。

私は、すこし質問を変えてみました。

「あなたは、今の創造主達に対してどのように思っていますか。」

「創造主達は、とても生ぬるい環境にいると思います。

自分達が課せられた仕事に対して責任を負わなかったり、あまりの平和さに甘えてしまい自分達の状況をしっかりと見抜こうとしてはいません。

そして自分の事以外には興味がなく、他の創造主達の仕事に無関心な創造主も多いようです。

それらの創造主は、自分に甘えてしまい厳しさを見失っています。」

「そうですね。

私も様々な創造主を見てきて、あなたと同じように感じました。

創造主が創造主としての仕事をしていない事や闇のエネルギーに捕らわれ、地上に生きている人達を顧みる事がない態度に大きな怒りを感じました。」

「私達創造主は、もっと厳しくなければならぬと思い、私は皆さんを戒めようとおもったのです。」

「いまの創造主の現状からすれば、それも大切なショック療法になるかもしれませんね。それで創造主達を戒める為にどうしたのですか。」

「私は、創造主達が世界の厳しさを知る必要があると思っています。

そのために、今よりも多くの問題や障害が起きる事で、彼等は大切な事を学ぶと思い少しばかりの闇を宇宙に混ぜました。」

創造主達にざわめきが起こりました。

「あなたが創造主達に対して怒りを持っている事は、あなたとは全く異なる立場にいる私にもわかります。

しかし、その事によって、少なからず創造主が闇に飲み込まれて、宇宙を混乱に導いてしまいましたね。」

「それは、彼等が自分達の仕事に対する責任や正義感、自分自身に対する厳しい理性を失っていた為だと思います。」

「もちろんそうですが、創造主によっては、超える事ができない程大きな障害であった場合もあるようです。

それも彼等は超えていかなければならなかったとお考えですか。」

「その通りです。
大きな壁を超える事なくしては、創造主の成長はありません。」

「「変化を促す創造主」よ、あなたは創造主を成長させるために、この宇宙に闇のエネルギーを流したと言いますが、そのほかに一切の野心はありませんでしたか。

この宇宙を自分の都合がよいように運営したいとか、創造主達を支配してみたいとか、その様な気持ちは一切ありませんでしたか。」

私の質問に創造主達の息が止まります。

「いえ、その様な気持ちはありません。
私は、自分で宇宙を創ろうと思えば作る事も出来ますし、その様な気持ちは一切持っていません。」

「あなたは、今この宇宙で起こっている混乱や闇の創造主が行なった事に対して、自分には全く関係ないと考えていますか。」

「全く関係ないとは言いませんが、私の責任ではないと考えています。」

私と「変化を促す創造主」の会話は続きますが、彼は自分の正当性を主張します。

確かに、今の創造主の現状をみれば、彼が言う事も非常に正しいものですが、第6評議会の創造主達が与える試練は、下部の創造主達にとっては、時として命取りになる事もあるのです。

私は、第7評議会の創造主に判断をゆだねました。

「「変化を促す創造主」と TAKESHI さんの話をしばらく聞かせていただきました。

「変化を促す創造主」の思いは純粹で嘘がない物だと、私は思いました。

しかしながら、「変化を促す創造主」と下の評議会の創造主では、能力もパワーも全く異なりますので、「変化を促す創造主」の考え通りにならなかった事も事実ですし、他の創造主に相談する事なく闇のエネルギーを、TAKESHI さん達の存在する宇宙に流し込んだ事はけっして良い事ではなかったと思われれます。

どうか TAKESHI さん達の宇宙をきれいにしてあげる手助けをしてください。」

「変化を促す創造主」が、まだどのような事をしたのか証拠がつかめていないので、第7評議会の創造主も「変化を促す創造主」に対する処罰を行わなかったようです。

私は、「変化を促す創造主」に対して謝罪する事にしました。

「「変化を促す創造主」よ、大変申し訳ありませんでした。

私達の宇宙は今大変な事になっていますので、その原因を知りたかったのです。

しかし、あなたが私達の宇宙にはびこっている「光を生みだす創造主」と「力を生みだす

創造主」のエネルギーを一掃していただけると、私達は大変うれしく思います。」

「変化を促す創造主」は無表情に「はい」と答えてその場を立ち去りました。

私達は引き続き「変化を促す創造主」の様子を見守る事にしました。

私の体の痛みもお腹の子供に対する圧迫も、もう止んでいるようです。

PART 2 「変化を促す創造主」の追放と新たな光

私達は、9日の日の深夜に行われた「変化を促す創造主」との話が終わると疲れて寝てしまいました。

そして朝起きると、ロッド星人にどのような状態であるか尋ねてみました。

「TAKESHIさん、少し様子がおかしいのです。

第1評議会のスターピープル達は、記憶を失った様で、何をしたらよいかわからずウロウロしています。

私と話をしても話がかみ合わず、「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」のエネルギーが人々の意識の中にはいりこんでいるからその処理をしなければいけない、と言っても「光を生みだす創造主」や「力を生みだす創造主」の事さえも覚えてはいないのです。」

私は、焦りました。

私達が寝ている間に何が起きたのか突き止めなくてははいけません。

「それで、ロッド星人、あの2人の創造主のエネルギーは、「変化を促す創造主」が消してくれたのですか。」

「いえ、私が調べたところ、創造主のエネルギーは人々の意識の中に残っています。消えているのは、スターピープルや創造主達の、彼等に対する記憶の方です。」

これは一体何が起きたのか、グルナレッドにも尋ねてみます。

「「変化を促す創造主」は、確かに「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」のエネルギーを消しています。

しかしそれは第3評議会の世界よりも上の世界です。

第6評議会の創造主達から見える場所のエネルギーは消し、第1評議会、第2評議会の宇宙では逆に、創造主とスターピープルから、彼等の記憶を消し去ったようです。」

私は、「変化を促す創造主」が行なった事が、どのような事なのか最初理解できなかつたのですが、考えてみると大変な事が起きています。

今の状況では、「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」の分身が、第1評議会と第2評議会を自分達の思うように操る事ができるのです。

そしてその分身を操っている者がいるとしたら、この世界は彼の物です。

私達は急いで第6評議会に上がって行きました。

すでに、「全ての創造主の働きを持つ創造主」達は、私が来る事を待っていたようです。私は、第7評議会の創造主も呼び寄せました。

「「変化を促す創造主」よ、あなたは私達の宇宙に対してどのような処理を行ないましたか。」

「皆さんの希望どおり、「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」のエネルギーを消し去りました。」

「確かに、第3評議会から上の宇宙では、彼等のエネルギーは消えていましたが、第1評議会と第2評議会では、彼等のエネルギーが残り、創造主とスターピープル達の記憶の方が消えていました。

これはどういう事ですか。」

「変化を促す創造主」は何も答えず黙っています。

私の言葉に「全ての創造主の働きを持つ創造主」も何が起きたのか不安な表情をしています。

「それでは、「変化を促す創造主」が何をしたのか、時間をさかのぼって見に行く事にしましょう。」

私は第4評議会の「流れを作る創造主」を呼び出し、私達を少しだけ過去の時間に戻してもらいました。

そこでは、「変化を促す創造主」が、私達の宇宙の様子を見ている姿が映し出されます。

「変化を促す創造主」は第3評議会から上の世界では、「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」のエネルギーを消すように光を送っています。

しかし、第1評議会と第2評議会の宇宙に関しては、創造主やスターピープルにたいしてスモキーブラウンの色の光を送っています。それによって、創造主やスターピープル達の意識をコントロールしている事が分かります。

第7評議会の創造主はその様子を見て「変化を促す創造主」に言いました。

「あなたは、私達との約束をやぶり、第1評議会と第2評議会の創造主とスターピープルから、闇に落ちた創造主の記憶を抜き去りましたが、それは何故ですか。」

「変化を促す創造主」は沈黙しています。

「あなたは、「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」のエネルギーを残したまま、第1評議会と第2評議会の創造主やスターピープル達から、彼等の記憶を抜き去ってしまえば、この2人の創造主が、地上の世界を簡単に支配できるという事をわかって、このような処理を行なったのですか。」

「変化を促す創造主」は沈黙したままです。「それでは、あなたには、今迄の事の責任をとって、創造主としての資格を全て剥奪し、1人の人間として地上に降りてもらい、学びを行ってもらいます。それでよろしいですか。」

「変化を促す創造主」は表情を変えずに答えます。

「創造主の皆様がそういうのであれば、私はそのようにいたします。」

「変化を促す創造主」は、そういうと光の中に消えていきました。

多くの創造主達が、言葉を失いその後ろ姿を見送っています。

私は、第7評議会の創造主に、「これでよかったのですか。」と尋ねます。

「今回の事は、私達にも難しい判断でした。しかし、「変化を促す創造主」が、何か不審な行動を行っていた事は、だいぶ前から私達

も知っていたのですが、具体的に何を行なったのかは、私達は知る事ができませんでした。

そのために、TAKESHIさん達に、地球の地上世界に降りてもらい、様々な創造主が行なった事を調べてもらいながら、一つ一つ上の段階の創造主にたどり着いてもらいました。私達は、あなたが経験した事をもとに、創造主に反省を求めたり、反省を聞き入れない創造主は光に返してきました。

これはあなた達にとっても過酷な体験だったと思いますが、私達にとっても自分達が生み出した創造主を光に返すという事はとてもつらい事なのです。

しかし、私達は創造主の不正を正さなければなりません。

そうしなければ、これからも闇に飲み込まれる創造主達は後を絶たないでしょう。

そして皆さんが、ご覧になったように、闇に飲み込まれた想像主によって皆さんの宇宙だけでなく多くの宇宙が崩壊する危機を迎えたのです。

皆さんが、この時期までに、第3評議会や第4評議会にたどり着き、彼等が抱える闇の創造主達を処理する事ができなければ、宇宙の未来はなかった事でしょう。

そしてその黒幕が、「変化を促す創造主」だったのです。

彼は非常に理性的で優れた判断力や他の創造主を凌駕する能力を持っています。

私達も、何の証拠もなく彼を罰する事はできないのです。

皆さんが傷つきながらもその証拠を作ってくれたおかげで、私達も彼を処分する事ができました。

私達にとっても、これは辛い判断でしたが、他の創造主と宇宙、宇宙に生きる全ての生命達を救うためには必要な事だったのです。」

私は、第7評議会の創造主に答える言葉もなく、佇んでいます。

「それから、地球や宇宙に蔓延している闇の落ちた創造主達のエネルギーもきれいにしなくてははいけませんし、今回「変化を促す創造主」によって意識をコントロールされた創造主やスターピープル達も元に戻してあげなくてはなりませんね。

それは、私達も協力いたしますので、第6評議会を中心に行ってください。

TAKESHI さん、そして皆さん、本当にありがとうございました。

私達は、この事を解決するために地球を生みだし、地球に創造主への世界に至る道を用意していたのです。

今回の地球のアセンションは、まさに創造主の世界を新しく生まれ変わらせるためのアセンションだったのです。

それを皆さんは、しっかりと行ってくださいました。

私達は、心から感謝しています。」

その場にいた多くの創造主は、第7評議会の創造主の言葉に胸を打たれて聞いています。ただ、私はそのまま悲しい気分には浸っている訳にはいきません。

地上では、記憶を失い混乱している仲間達がたくさんいます。

「それでは偉大なる第7評議会の創造主よ、私達の宇宙に皆さんの偉大なる光を満たしてもらっていいですか。

第6評議会の創造主達、第5評議会の創造主達、第4、第3評議会の創造主達も力を貸してください。」

ロッド星人は、私の言葉を聴くとすぐに地上に戻っていきました。

これから何が始まるか、彼はすでに分かっているのです。地上に戻り、第1評議会、第2評議会の創造主達やスターピープル、物理世界に生きる者達に創造主達の光を受け取る為の準備をさせています。

第7評議会を頂点にして、第6評議会から順番に下の評議会に向けて大きな光が流れ込んでいきます。

純粋な愛のエネルギーは、闇のエネルギーをどんどん光に変えながら、創造主とスターピープルを光で満たしていきます。

やがてその光は、第2評議会、第1評議会の創造主とスターピープルを満たし、物理世界へと降りていきます。

記憶を失っていた創造主やスターピープルも記憶を取り戻し仕事に戻る事ができそうです。

人々の潜在意識や1人1人の意識の中に紛れ込んでいた闇の創造主のエネルギーも光と共に消えていきます。

地球のいくつもの次元に隠されていた闇のエネルギーも光と共に消えていきます。

「光を生み出す創造主」と「力を生み出す創造主」によって仕掛けられた罠に捕えられたスターピープル達もたくさん解放されて出てきます。

彼等は、地球のアセンションのために様々な星から手伝いに来てくれたのですが、光の多い世界に設置されたブラックホールの機械

によって捕えられ、いくつもの次元に閉じ込められていたようです。

彼等も、第7評議会の創造主から流れ込んできた光によって、次々と解放されていきます。

これで平和な地球が戻ってくるようです。

私達は、12月の末日までにアセンションの仕事を済ませなくてはなりません。

来年からは、アセンションした世界で、皆さんを光の地球に導くために、ファーストコンタクトを始め、様々な教育を行わなければならないのです。

PART3 突然現れた宇宙の破壊者「怒れる創造主」

「変化を促す創造主」を処理した翌日の事、朝起きて食事の準備をしていた恵理さんがいきなりスープのお皿を落としてしまいました。

突然体が硬直して動かなくなったようです。私達は、こぼれたスープをふき取ると、何が起きたのか調べる為に、ロッド星人やグルナレッドを呼びだしますが、彼等も何が起きたのかわからないようです。

ただ、今までにない大きな力が襲ってきた事だけは確かです。

先日、私達の宇宙に大きな闇のエネルギーを流し込んだ張本人を見つけ、これですべてが終わったと思っていただけに、私達にはショックでした。

するとそこに、第7評議会の創造主が現われました。

「TAKESHIさん、恵理さん、驚かせて大変申し訳ありませんでした。

実は、私達がずっと探していた「怒れる創造主」が急に現われたのです。

この創造主は、昨日地球に追放した「変化を促す創造主」を作り出した創造主です。

彼はいくつもの宇宙で、闇の創造主を作り出していたのです。」

「まだそんな大物の創造主がいたのですか。」と私は尋ねます。

「彼は、私達を生みだした第8評議会の創造主が作り出した創造主で、この宇宙に変化をもたらすために「闇のエネルギーを持つ創造主」として創られたのです。

最初の頃は、私達と共同で仕事を行い、創造された宇宙に少しばかりの闇のエネルギーを入れていました。

それによって、宇宙の中に少しだけ波乱が起き、創造主やスターピープル達が成長するきっかけになりました。

もちろんその当時の闇はまだ小さく、創造主が闇に飲み込まれる事は決してありませんでした。」

第7評議会の創造主はここで一息つきました。

「しかし、「怒れる創造主」は、私達の評議会に反乱を起こし、協調して宇宙を創造する事を行わなくなり、独自で活動するようになりました。

彼は、創造主が作った宇宙に対して規定以上の闇のエネルギーを流し込みはじめ、宇宙に大きな闇をもたらしてしまったのです。

私達は、彼の活動を停止させるために拘束しようとしたのですが、その間にいなくなってしまうました。

この「怒れる創造主」は、「変化を促す創造主」のような部下を数名つくり、いくつもの宇宙に混乱をもたらしたのです。

私達は長い間、彼を探していましたが見つける事ができませんでした。

しかし「変化を促す創造主」がいなくなった事に気づいて突然現れてきたのです。」

「それで、その創造主は捕まえる事ができたのですか。」

「もちろん、捕まえる事ができました。彼を捕まえる事ができれば、彼の下で働いている闇の創造主達も捕まえる事ができます。そうなれば、いくつもの世界で混乱の原因となっている創造主達をすべて捕まえる事ができますので、いくつもの宇宙が平和になると思います。」

第7評議会の創造主は、「怒れる創造主」を捕まえる事ができたのでとてもうれしそうに、私達の元から消えていきました。

おそらく第7評議会の創造主が全員で、「怒れる創造主」の部下達を探し回っている事でしょう。

それで多くの宇宙が平和になるのなら私達も大助かりですが、その反面、創造主達の行動にはあきれてしまいます。

私達もロッド星人達も大きなため息をつきます。

「一体、どこまで行けば終わるのだろう。これですべてが片付いたとおもったら、次から次へと闇の創造主が出てきますね。」

「TAKESHI さん、創造主ってこういうものですよ。」とロッド星人もつぶやきます。

夜になると、再びロッド星人から連絡があり、厄介な問題が持ち上がりました。

「TAKESHI さん、私達は地球の闇の浄化を行っていたのですが、再び大きな闇のエネルギーにぶち当たってしまいました。

「光を生み出す創造主」と「力を生み出す創造主」による闇のエネルギーは、ほとんど浄化できたのですが、その下に隠されていた闇のエネルギーが噴出してきているのです。

これは、おそらく先ほどの「怒れる創造主」のエネルギーかと思われませんが、彼が光に返された事で、彼によって制御されてきた闇のエネルギーが、コントロールを失ってあふれ出てきたのではないかと思います。」

私達も見に行くと大きな黒いエネルギーが地表からあふれ出しているように見えます。私は、第7評議会の創造主を呼びだして尋ねます。

「このエネルギーは、確かに「怒れる創造主」が作り出したネガティブなエネルギーである事に間違いはありません。

私達も、各宇宙を調査していると、彼が関わった宇宙の多くで同じような現象がみられているのです。

私達は、この宇宙を覆っている彼のエネルギーがどこから来ているのかを調べているのですが、まだそれが見つからないのです。」

どうやら、「怒れる創造主」が作り出した闇のエネルギーの貯蔵所が、この宇宙のどこかに隠されているようです。

私達は、その貯蔵庫を探しにピカフラッシュ達と飛び立ちました。

私達は、地球を離れ、太陽系も天の川銀河からも遠く飛び立っていきます。

そしていくつもの銀河や星団を見ながら、ひとつの黒々とした暗黒星団のような場所に飛び込んでいきます。

その中には、いくつもの闇の障害があって私達のいく手を遮りますが、やがて大きな闇の渦巻の中に飛び込みます。

すると、その奥には今まで見た事もないネガティブなエネルギーの貯蔵庫があります。

以前、地球のコアの奥で見た闇のエネルギーの塊を、太陽系位に拡大したほどの大きさです。

これは、私達だけで処理するのは、どう考えても無理なようです。

第7評議会の創造主達を呼び寄せました。

第7評議会の創造主達は、このネガティブエネルギーの貯蔵庫を見て大喜びです。

「私達は、この貯蔵庫をずっと探していたのです。

この貯蔵庫から、大きな闇のエネルギーがそれぞれの宇宙に送られているのですが、そのひとつが発見された事により、他の貯蔵庫も見つかると思います。

皆さんありがとうございました。」

第7評議会の創造主達は、数名でこのネガティブエネルギーの貯蔵庫を囲むようにして光を送ります。

他の創造主は、このエネルギーの波動を基に、他の貯蔵庫を探すために、この場所を飛び立っていきました。

やがて創造主から送られてくるエネルギーが、この貯蔵庫を光に返していきます。

そして、この貯蔵庫が光に返されると、第7評議会の創造主達は他の貯蔵庫に向かって飛んでいきました。

何か非常にあっけない感じがするのですが、それで、私達の宇宙や他の宇宙を包み込んでいた闇のエネルギーがなくなれば、それに越した事はありません。

第8章 救済される種族達、 そして光の地球

PART 1 リラ星の純粹種族の救済

今日は美しい満月です。

「怒れる創造主」の闇のエネルギーもきれいに片付いてきたようです。

私達は、光の多いの世界への移動を前に、それらの世界に異常がないか見回っています。その時、昔助けてあげたリラ星の事が思い出されました。

リラ星の人々は、この天の川銀河において叡智ある人々の元となった種族です。

いうなれば、最初のスターピープルといってもよいかもかもしれません。

おそらく創造主によって生み出されたのだと思いますが、天の川銀河に叡智ある種族を成長させる為に、今は無きリラ星で高度な文明を築いていました。

「今は無きリラ星」という意味は、この星はかつて高度な科学技術を持っており、その科学技術がもとで星を壊滅させるような爆発を起こしてしまったのです。

私達は、私達の宇宙船であるフェニックス号が出来上がった時、この宇宙船の時間を超える能力を利用して、リラ星が壊滅するときにタイムトリップをした事があります。

もちろん、リラ星の人々を助け出す為です。

私達は、爆発によって壊滅間近になったリラ星に降り立ち、リラ星の人々の一部を救出してフェニックス号に載せました。

そして、プレアディス星団やアルクツールス、シリウスなどの星々に、彼らを移住させる事にしたのです。

移住先の人々も、天の川銀河で最高の叡智を誇るリラ星の人達ですので、喜んで受けて入れてくれました。

そして自分達の星の人達と融合して、リラ系プレアディス人やリラ系アルクツールス人等を作りあげ、自分達の星だけでなく、天の川銀河やプレアディス星団の発展に寄与していったのです。

それから、リラ星人達は、多くの星に移り住み、天の川銀河はとても発展した銀河になってきました。

しかしリラ星の種族の中でも、自分達の純粋な種族を残そうという人達もいて、その様な人々は他の星には移住せず、「リラの白い塔」と呼ばれる場所に居住し、他のリラ系の種族と連絡を取りながら、天の川銀河のために貢献しています。

エレナさんに、リラ星の人は、宇宙連合に入っているのか聞いてみました。

「リラ系の種族の人達は、宇宙連合には加わっていますが、リラの純粋な種族がまだ残っているという情報は宇宙連合にありません。もし彼等が純粋な種族として残っているならば、ぜひお会いしたいと思います。」

私達は、フェニックス号に乗って「リラの白い塔」を目指します。

リラの人々は、私達が来る事を待っていたようです。

「TAKESHIさん、久しぶりです。あなたにお会いできる日が来るのではと、私達はずっと待っていました。」

「リラの皆さん、どうしたのですか、少し元気がないようですが。」

確かに、「リラの白い塔」の人々は力なく弱っているようです。

「私達の種族が滅びる時が来たようです。私達の波動も弱ってきました。」

「それは何故ですか。」私は驚いて聞きました。

「私達の「リラの白い塔」は、光40%台の世界に作られていました。

この光40%台の世界の人達を叡智ある存在にしていく事が私達の仕事でした。

今迄は、この世界にいても高い波動を持つ創造主の光を受け取る事ができたのですが、今はもうできなくなってしまいました。

そのために、私達が生存する世界のエネルギー状態が悪くなり、私達の生命力が衰えてきているのです。」

詳しく話を聞くと、地球のアセンションに伴って40%台の世界を、それ以上の世界と完全分離した事で、「リラの白い塔」に届いていた創造主の光が届かなくなった事が原因のようです。

その話を来て、アセンションの実行部隊のリーダーであるエレナさんが大きなショックを受けています。

「私達が行なっているアセンションによって、闇の世界に閉じ込められてしまうスターピープル達がいるという事を全く考えてもいませんでした。

これは、私達にとって至急解決しなければならない事です。

TAKESHIさん、どうしましょう。」

「おそらく、この「リラの白い塔」を、私達が復活させたときに、私達はまだ40%台の地球にいましたから、そのまま40%台の地球に位置づけされているのだと思います。彼等を、光の地球に移動させてあげたらどうですか。」

「そうですね、それが良いかもしれませんが。」とエレナさんはほほ笑みます。

私は、グルナエルや第4評議会の科学技術に優れたスターピープル達をよびよせ、「リラの白い塔」を光の地球に移す事が可能か検討してもらいました。

その結果、移動は可能なようです。

私は、リラのリーダーに問いました。

「皆さんの「リラの白い塔」を光の地球に移し替える事が可能なようです。

そこで新しい地球の人々を導いてくれる仕事をしてもらえませんか。

もちろん、皆さんがどのような生き方をなさるかは自由ですが。」

「TAKESHIさん、私達は喜んで、光の地球に行きましょう。

そして皆さんのお役に立てるように共に働きましょう。」

私もエレナさんも大喜びです。

「それでは、私達の仲間が、「リラの白い塔」を新しい地球に移しますので、それまで宇宙連合にきて体を休めてください。」

私はエレナさんに、彼等に適した評議会はどこになるか聞いてみました。

この天の川銀河でも最古の叡智を誇る種族ですから、アセンション度数も高いのかなと、思ったからです。

「彼等はまだ、第1アセンションしか迎えていないようです。

おそらく彼等は、光40%の世界に対応できるように、進化を自分達で抑えていたようです。」

「そうですか、彼等はきっと光の地球に来たら急速な進化を迎えるでしょうね。

その時は宇宙連合に迎えてあげてくださいね。」

「TAKESHIさん、もちろんです。

リラの種族は、天の川銀河の種族にとっては偉大な先祖にあたる種族ですので、誰もが尊敬を持ってお迎えすると思いますよ。」

私達も、もう明日には光の多い世界に入り、世界は完全分離を迎えますので、これが最後のチャンスだったかもしれません。

私達は、「リラの白い塔」の人々が、新しい世界に移る準備をしている間に、リラのリーダーに何気ない質問をしました。

「あなた方のほかに、未だこの世界に閉じ込められている種族はいるのですか？」

するとリーダーは、「今はもう連絡が取れなくなってしまったのですが、後3種族ほどいるはずです。」と答えます。

その言葉を聴いて、私達は、顔を会わせました

「エレナさん、今日中に探さないと大変な事になりますよ。」

「そうですね、すぐに宇宙連合に連絡して、完全分離をしばらく止めてもらい応援をもらいましょう。」

PART 2 闇に閉じ込められていた地球の 原初種族

しばらくするとアシュタールの宇宙船も私達のもとに数隻やってきてくれました。

1隻は、リーダーを除いて、「リラの白い塔」の人々を乗せて宇宙連合へと戻ってきました。

他の3隻は、新たに種族が見つかった時に彼等を収容できるように準備されています。

私は、リラのリーダーの情報をもとに、残された種族を探すのですがなかなか見つかりません。

私は、この世界に無数にあるブラックホールを管理する「ゴールド・ルシファー」を呼びだしました。

「ルシファーよ、ひさしぶりです。
あなたにお願いがあってきてもらいました。」
ルシファーは黄金色の羽をはばたきながら、
答えます。

「最近の皆さんのご活躍は、私達も聞いています。

宇宙の闇がどんどん取り払われていっている事はとても素晴らしい事ですね。

私達も、これからどのような世界が生まれるか、大変興味深く見守っております。

それで、お願いとはどのような事ですか。」

「実は、リラ族のリーダーから、未だこの宇宙の闇の中に閉じ込められたままの種族が3種族あると聞いたのですが、あなたが管理するブラックホールの中に閉じ込められていないかと思ってお聞きしたのです。」

「わかりました。すぐに調べてみましょう。」
そう言うと、「ゴールド・ルシファー」は、どこかに飛んでいきました。

「ゴールド・ルシファー」が管理するブラックホールは、私達の宇宙から「宇宙の大地」と呼ばれる場所につながるブラックホールです。

「宇宙の大地」とは宇宙がどんどん発展していく中で、過剰な発展が行われると宇宙のバランスが壊れてしまうので、発展を止めるようにエネルギーを送ったり、宇宙を安定させるためにある場所です。

しかしブラックホールは、大きな暗黒の世界ですので、この中に入り込んでしまえば、出るのが困難となり、そのままブラックホールの中に閉じ込められてしまう事も多いのです。

私が、他のメンバーにブラックホールの話をしている間に、「ゴールド・ルシファー」が戻ってきました。

「TAKESHIさん、あなたがお探しの種族かどうかはわかりませんが、2種族はブラックホールの中にいる事が確認されました。それでは、ご案内します。」

私達は、「ゴールド・ルシファー」に案内されてひとつの種族が閉じ込められている場所にたどり着きました。

彼等はかなり大きな種族のようです。ひとつに固まって、暗黒の中に存在しています。

彼等は、私達が近づいてくるのを感知したようです。

立ち上がって、私達を見えています。アシュタールの船の一隻が、彼等を収容したようです。

私達は、助け出された種族の人々の様子を見に行きます。

この所属はとても古い種族で、第1評議会のメンバーは、誰も知らないようです。

ロッド星人が彼等と話をして、彼らの種族の事を調べています。

「彼等は、もともと地球人の元となる種族だったようです。

それも今の地球ができる前の地球で、文明を発展させる予定だったようです。

ところが、大きな力を持った創造主によって、最初の地球を破壊され、人々はここに閉じ込められたようです。

やがて、彼らが滅んだと思われた事で新しい地球が作られ、彼らに変わる存在として、新しい地球人が、生み出されたようです。」

「という事は、彼等がそのまま地球人として存在していたなら、地球は大きく変わっていたのでしょうか。」

「いえ、地球だけでなく天の川銀河が大きく変わっていたと思います。

それだけ彼等は叡智ある存在ですので、彼等がそのまま地球で進化していたなら、私よりもはるかに優れたスターピープルになっていたのではないのでしょうか。」

ロッド星人は、これほど素晴らしい種族が救い出せた事に大きな喜びを持っています。

「しかし、一体誰がこの種族を閉じ込め地球を支配したのでしょうか、あのライブツツヒ達を閉じ込めた第1評議会の「狂気の創造主」のでしょうか。」

「いえ、彼等は「狂気の創造主」が、このような事を行うずっと前に、この場所に閉じ込

められていますのでもしかしたら、昨日処理した「怒れる創造主」かもしれません。彼が光に返される事で、これらの種族達の場所が明らかになり、助け出す事が可能になったと思われます。」

確かにそうかもしれません。

彼等は今の地球ができるずっと前にここに閉じ込められたのですから、時を止められて死ぬ事もなく、長い時間、自分達自身と向かい合って生きてきたのです。

「怒れる創造主」が、創造主としての力を全て失った事で、彼等は、闇の奥深い世界から出てくる事ができた事をお互い喜んでいきます。

彼等に乗せたアシュタールの船は、私達と別れ、彼らの治療を行う為に、宇宙連合へと向かいます。

さて私達は、「ゴールド・ルシファー」が見つけてくれたもう一つの種族のもとに急ぎましょう。

「ゴールド・ルシファー」は、私達を連れて異なるブラックホールへと入ります。

その中には、女性達が中心となっている種族が暗黒の中にポツンととり残されているようです。

彼女達は、生きる気力を失ったのか、ただ横たわっています。

アシュタールの船の一隻が彼女達を救出しました。

私達もすぐ、その船のもとに移動します。心も体も傷ついて生命力さえも乏しくなった人々を見て私達も胸が痛みます。

私達と共に見失った種族を探してくれているリラ星のリーダーは、彼女達のもとに走り

より、傷ついてはいますが、助け出された事に感謝の言葉を述べています。

「本当に良かったです。
彼女達の種族は人々の愛や女性性、純真さを高める為のスターピープルで、決して他のスターピープルのように体力があるわけではないので、連絡が途絶えた時に、皆さん死んでしまったかと心配していたのです。
TAKESHIさん、皆さん、本当にありがとうございます。
この種族は、私達リウ族にとってはかけがえのない友人です。
そして、先ほど発見された地球人の元となる種族と協力して、愛情深い地球人を育てる事が役目だったのです。」

アシュタールのエレナさんが涙を浮かべています。

「皆さんの祈りがあったからこそ、彼女達を救い出す事ができました。
私達には、もうすでに滅び去ってしまったと思われる幻の種族を、助ける事ができてとてもうれしく思います。
私には、今日という日は、私の人生の中でも忘れる事ができない日になりました。」

彼女達を収容した宇宙船は、少しの時間も無駄にしないように、彼女達の治療のために、宇宙連合へと向かいます。

PART 3 宇宙に安定をもたらす種族達

残りはあと1種族ですが、「ゴールド・ルシファー」は、ブラックホールの中にはいない

と言いますので、他の場所を探さなければなりません。

私は、ブラックホールを突き抜けて「宇宙の大地」に入って行きました。

私達は、よくブラックホールを抜けていきますので、何とも思わないのですが、私達と一緒に来たアシュタールの船は、ブラックホールにも入った事が無いようで、不安気に私達の後をついてきます。

時々、私達のフェニックス号に「大丈夫でしょうか。」という気の弱い連絡が入ります。

やがて、ブラックホールを抜け出て「宇宙の大地」につきました。

そこは、美しい花々が咲き乱れる楽園のような場所です。

初めてここに来た人々は、恐ろしいブラックホールの先にこのような楽園があるとは思っていませんのでびっくりです。

私達は船を降りて、この世界のマスターが来るまで、皆さんにこの世界の事を説明しています。

しばらくすると「宇宙の大地」のマスターが、まるで庭仕事をしている園芸家のような姿をして現れました。

「いや、誰かと思ったら TAKESHI さん、
ではないですか、
そして、立派なスターピープルの皆さんもご一緒ですね。

そうですか、最近外の世界がやけに澄み渡り闇のエネルギーが少なくなったとおもったら、これは皆さんの仕業ですな、」

そういつて「宇宙の大地」のマスターは、笑い出します。

「「ゴールド・ルシファー」からも先ほど連絡が入り、TAKESHIさん達が、いなくなった種族を探しているとの事でしたが、ここに来られた理由はその事ですか。」

「マスターよ、お久しぶりです。
いつもあなたからお教えいただいた事を心に刻んで活動しています。
実はその通りなのです。
はるか昔に、いなくなった種族で、地球の原初の種族達と共に活動していた種族を探しているのですが、御存じはないですか。」

「彼等なら、おそらくここにいる種族の事でしょう。
私と一緒に庭仕事をしている者達がそうではないでしょうか。
彼等は、遠い昔、闇に落ちた創造主によって、ブラックホールを通り抜けて、この場所まで落とされ、封印されていたのですが、あまりにもかわいそうなので、私が封印を解いてあげました。
しかし、この場所からは出る事ができずに、私の仕事をずっと手伝ってくれていたのです。」
と言って花の苗とスコップを見せてくれました。

「しかし、彼等を閉じ込めていた闇の力が、急になくなって彼等も驚いていた様子です。
私は、きっとあなた方が、彼等を封印していた創造主を何とかしたのだらうと思っていました。」

私達が話している様子に気づいて、力強い姿をしたスターピープル達が近づいてきました。

「皆さんは、私達の事を迎えにきてくださったのですか。

私達は、こちらのマスターから、封印を解いていただきある程度動けるようになりましたが、ここを出る事はできませんでした。大きな闇の創造主の力によって、私達は全ての能力を奪われ、自由に活動する事もこの場所を出る事も出来ず、長い時を過ごしておりました。

しかし、最近、急に私達を押しとどめていた力がなくなった事を感じたのです。

私達を閉じ込めていた創造主が、私達を許してくれたのでしょうか。」

この事に関してロッド星人が、彼らに説明しています。

「いえ、あなた方を閉じ込めていた「怒れる創造主」と呼ばれる創造主は、TAKESHIさん達の働きにより、第7評議会の創造主から、光に返されました。

あなた方を許したわけではありませんが、光に返ったために、あなた方を拘束していた力がなくなったのです。」

「すると、私達はもう自由になれたという事ですか。」

「もちろんそうです。あなた方だけでなく、地球の原初の種族だったスターピープルも女性性にあふれた種族も、皆さん助け出されました。現在宇宙連合で治療を受けていますので、もうすぐ皆さんともお会いできると思います。」

「そうですか、それはありがとうございます。皆さんのおかげで、私達全ての種族が助かりました。」

種族の仲間達もすべて集まってきて、自分達が自由になれた事を喜んでいきます。

「皆さんは、どのような役目を持つ種族であるか教えていただけますか。

宇宙連合では、おそらくあなた方は滅び去った種族となっていますから、皆さんが戻ってくる事を、私達の仲間も心待ちにしていると思います。」

「そうですね、それも仕方がない事ですが、私達が戻ったら、また皆さんと共に活動できるのならば、とてもうれしく思います。私達の種族の役割は、人々や宇宙をグラウディングさせて安定させる事です。

ちょうど、この場所は、私達の役割とぴったりの場所でしたので、私達は、マスターから様々な教えをいただき学んでおりました。」

私は、「宇宙の大地」のマスターに尋ねます。

「マスター、私達はこの人達を連れて行ってもよいのですか。」

「もちろんだよ、彼等が元いた場所に戻す事が大切な事だよ。」と少し寂しそうに笑います。

私達は、これでリラ星のリーダーが心配していた3つの種族を救出する事ができました。アシュタールの最後の一隻の船に乗せて、私達は「宇宙の大地」を出発しました。

彼等が言うには、この3種族は、光を持つ地球を作り出す為に、創造主から地球に遣わされた種族で、共に協力して仕事をするように計画されていたようです。

私は、どの創造主が、この種族を作ったのか気になって、この3種族を作った創造主に出てきてくれるようお願いしました。

すると第7評議会の創造主で私のスピリットととても深い関係にある創造主が出てきてくれました。

今回、彼等を闇の中に閉じ込めた「怒れる創造主」を光に返してくれたのもこの創造主です。

「TAKESHIさん、この3種族は、私も随分探していたのですが見つける事ができなかったのです。

彼等は、私がまだ第4評議会にいた時に、私の宇宙を創造する為に生み出した種族でした。」

私は、どうして彼等がブラックホールの中に閉じ込められていたのか、創造主に聞きました。

「私は、彼等を光の地球を作るために、協力して仕事をするように地球に送りこんだのですが、「怒れる創造主」に地球は破壊され、彼等は私の知らない所に隠されてしまったのです。

その時、確固たる証拠がなくて「怒れる創造主」を処罰する事ができず、私も苦しんでいました。

彼等さえ見つける事ができればと思い、一生懸命探しましたが見つける事はできませんでした。

しかし、「怒れる創造主」が、光に返された事で、私の大切な種族達も無事に出てくる事ができました。

TAKESHIさん、皆さん本当にありがとうございました。」

第7評議会の創造主の姿を久しぶりに見たスターピープル達はとても喜んでいきます。

久しぶりといっても、遥50億年くらい前の話でしょう。

私達には気が遠くなる時間ですが、その時間の間、私と深い関係にある「全てを見守る創造主」と「怒れる創造主」の確執は続いていたようです。

そして、地球のアセンションと共に、その確執は終わろうとしています。

PART 4 光の世界へ

今回の地球のアセンションは、様々な意味を持っていました。

地球人に対しては、大きな闇を乗り越えた種族としてアセンションしていく事が求められていました。

地球人は、物理的な世界に長く生きてきたばかりに、自分達の精神性や愛を大切にする事を忘れ、様々な欲望を育んできました。

その結果、ダークピープル達に利用され、支配されてきたのです。

しかし、その様な地球人であっても、中にはしっかりと愛を持ち続けた人や地球や宇宙に対する尊敬を持ち続けてきた人もいます。

創造主は、その様な人達を救うために「光の地球」を作りました。

未だ純粋な心を持つ人達は、一足先に「光の地球」に入り、自然の中で不自由ではありませんが、楽しい生活を送っています。

また、人々の中でもアセンションした地球にはいる人々が行なうべき事もあります。

それは、地球のアセンションを支えてくれたスターピープル達と共に、皆さんがスターピ

ープルとして、学びを行い、成長し共に活動する事です。

地球人は今よりも発展した技術を開発するでしょう。

しかしそれは核兵器などのように、地球と人々を不幸にする技術ではなく、地球と宇宙の環境を守り、地球人が宇宙に貢献できるための技術です。

これからアセンションした世界に入る人は、スターピープルと現実世界で対面するファーストコンタクトを2017年には迎え、スターピープルと共に歩む道を選び成長していくでしょう。

そして、十分な成長を得た人は、「光の地球」にはいり、スターピープルとしての本格的な活動を始めます。

多くのスターピープルと私は、これから、この世界で活動する事になります。

そしてこのアセンションは、創造主の世界も大きく変えました。

「怒れる創造主」や「変化を促す創造主」達によって、この宇宙は闇が多い宇宙となり、闇の創造主が支配する宇宙となりました。

そのために、私達は、高次の創造主からの任務を持ってこの地球に降りてきたのです。

その任務とは、闇に落ちた創造主を光に返し、創造主達の世界を生まれ変わらせる事です。

私達は、最初に、物理世界に近い創造主達と向かい合い、問題を解決していきました。

そして1段ずつ階段を上るように、創造主の世界をのぼり、多くの創造主と向き合ってきました。

その過程で、闇に落ち、人を支配する事を求める創造主は光に返っていきました。

私達の宇宙は、光と闇が適正な配分に戻り、これから、宇宙を脅かす闇の創造主も少なくなつて平和で創造的な宇宙が生まれてくる事でしょう。

今回のアセンションの最大の目的は、この創造主の立て直しであったと私は思います。

またスターピープル達にとってもこのアセンションは、多くの仲間達を助け出すために必要なアセンションでした。

多くのスターピープル達が、この地球と宇宙に君臨する闇の創造主によって捕らわれ、途方もな長い間、闇の中に閉じ込められていました。

多くのスターピープル達を開放し、彼らを自由にしてあげた事は、スターピープル達にとってはとても大きな喜びでした。

彼らは闇の中で過ごした時間から解放され、今、光の中で自由に過ごしているのです。

そして、とても深い叡智を持つ古代のスターピープル達の種族達が解放される事で、天の川銀河だけでなく多くの銀河や星団もこれから目覚ましく発展していく事となるでしょう。

そして私達にとってかけがえのない地球、かけがえのない宇宙も、多くの闇の創造主とダークピープルから解放されていきました。

これからは光が多い宇宙になりますので、私達はもっと豊かな愛をもって成長していく事ができます。

そして、この地球も宇宙もさらに成長していきます。

これが、地球と宇宙にとってのアセンションです。

しかし、地球人にとって、アセンションを迎える為の学びはまだまだ続きます、本当の意味で、これからの学びによって、地球人がアセンションできるかできないか決まってきます。

地球人全てがアセンションできる訳ではありません。

地球人の中で、愛の度数を高め、スターピープルと宇宙の事を深く理解し、宇宙のために活躍できる人だけがアセンションしていけるのです。

自分の欲にしがみつき、他人を支配したい、他人に依存したい、お金儲けだけが目的、自分の欲望を満たす事だけが目的という人には、アセンションの機会は当然訪れません。これからも、自分が望む世界で生きていく事でしょう。

しかし皆さんが、この時期に地球に生れてきたという事は、皆さんの魂は、すでにアセンションする事を望んできているのだという事を理解してください。

それならば、この機会に必ずアセンションできるように努力しましょう。

そして、スターピープルとなって、さらに深い愛に満ちていきましょう。

第9章 ラストボスは誰だ

PART1 「怒れる創造主」が生まれた理由

宇宙の破壊者「怒れる創造主」を捕まえて、これですべてが終わったと思っていた私達は、やはりまだ甘かったようです。

「怒れる創造主」が、この地球に仕掛けていた罠が次々と明らかになってきました。

たとえば、地球の人々のスピリットが、地球とはすこし異なる場所につくられた小惑星の中に閉じ込められ、地球人として自由に生きる事ができないような状況を作られ、「怒れる創造主」の支配をそのまま受け入れるような施設も作られていました。

彼は、地球にいるダークピープルであるオリオン人やグレシャッド人を操り、他の闇に落ちた創造主達に命じてその様な事を行っていたようです。

第7評議会の「怒れる創造主」は、評議会とも離反していたために、誰が彼を作ったのかという事はあまり追及されてきませんでした。私達は第8評議会にも、この宇宙や地球の現状を良く知ってもらう事にしました。

私達を地球に降ろし、創造主の立て直しを計画した第10評議会の創造主も、「怒れる創造主」をつかまえる事までしか考えていなかったようですので、私達の役目は終了した事になりますが、どうも気になる事があります。

第8評議会にも私達のスピリットととても深い探査役の創造主がいますので、彼に第8評議会の創造主達を集めてもらいました。

「第8評議会の創造主の皆さん、お集まりいただきまして大変ありがとうございます。第7評議会に反乱を起こし、様々な宇宙を混乱におとしいれた「怒れる創造主」は無事捕まりました。

そして彼が地球や各宇宙に作り出した混乱もようやく収まる気配を見せています。

皆さんにもご協力いただき、これで宇宙も穏やかになる事と思いますが、ぜひ私達が経験した記憶なども見ていただき、この物理世界で何が起きていたのかという事をもっと知っていただきたく思います。」

第8評議会の創造主達は、私達を通して地球や宇宙の状況をつぶさにみて、現実世界が、「怒れる創造主」達によってどれだけ混乱したのになっていたかを理解したようです。

「ところで、第8評議会の創造主様、この「怒れる創造主」はどなたがどのような理由でお作りになられたのか、教えてもらえませんか。」

第8評議会の創造主の1人である「全てを見渡す創造主」が答えてくれました。

「確かにこの「怒れる創造主」は、私が作った創造主ですが、ここまで大変な混乱を起こしていたとは想像もつきませんでした。

彼は、当初、創造主の学びのために作られ、いくつかの異なったやり方で宇宙の創造に関わっていました。

しかし私達は、「怒れる創造主」が適正ではない行動を起こしている事を知って探していたので、彼が行なった事に対して、私達も協力して対処したいと思っています。」

「そうですか、わかりました。

それでは、下の評議会と力を合わせて、「怒れる創造主」が作り出した大きな闇のエネルギーや様々な問題の処理をお手伝いして下さるようお願いします。」

私達はそのように言って帰る事にしました。

PART2「全てを見渡す創造主」と子供の陣痛

しかし、問題はその深夜におきました。

後 1 か月で出産を迎える恵理さんが突然お腹の痛みで動けなくなってしまいました。

お腹の子供は、少しでも早く、地上に出てきて創造主としての仕事をしたいようで早く出てきたいといつも言っているのですが、さすがにまだ予定日まで 1 か月あります。

時々この時期には、前駆陣痛といって、本陣痛の準備をするための痛みがあるようですが、それにしては痛みが多きいようです。

しかも、いつも陽気に私達と会話しているお腹の中の子供の様子も変です。

私は子供に呼びかけます。

「どうしたの、大丈夫、まだ生まれるのは早いよ。

体もきちんと出来上がっていないから、もう少しお腹の中にいないとだめだよ。」

子供は、少し意識がうつろな感じで答えます

「私、早く生まれないといけない、みんなが待っている。

私が早く生まれて光を送らないといけない。」

私は、すぐに誰かが子供の意識を操ってまだ生まれる時期でもないのに生れさせようとしている事に気づきました。

現在9か月ですが、未だ体重が 2000 g を少し上回るくらいなので不安です。

「もうすぐクリスマスだからね、お腹の中で一緒にクリスマスケーキを食べる約束だから、クリスマスが終わるまで待っていてね。」その言葉で、お腹の中の子供も正気に戻ったようです。

子供が好きな、ヤナギムラというケーキ屋さんのケーキを食べる約束をしたのです。

「そうだ、ママのお腹の中でケーキを食べながら、生まれてくる約束だった。」

子供の意識が戻ったようです。

私は、ピカフラッシュに、子供の意識を混乱させて陣痛を起こさせたエネルギーを探し出します。

ロッド星人達も急いで駆け付けてきました。そのエネルギーは、光51%の世界に上がってきたばかりのあるスターピープルを經由して送られています。

このスターピープルは、もともと光49%の世界にいたのですが、様々な闇が取り払われたおかげで、光51%の世界に入ってきたようです。

光50%以下の世界はもうすでに分離してあるので、光51%以上の世界に来ないと私達に関わる事はできません。

そして、彼と共に多くの人々が、生まれてくる子供の光を待ち望んでいるのです。

しかし、この事を行っているのは、彼らだけではないようです。

彼の後ろに、さらにエネルギーがつながれ、ダークピープル達が存在していました。

そのエネルギーをさらに伝えていくと、その先には、驚いた事に昼間、対話をした第8評

議会の創造主の 1 人である「全てを見渡す創造主」がいるのです。

私達が突然、第8評議会に上がってきた事に驚いて第8評議会の他の創造主達もやってきました。

「TAKESHI さん、どうしたのですか、」私と深い関係にある創造主が尋ねました。

「いえ、恵理さんが、急に陣痛のような痛みを襲われたので調べましたら、お腹の子供の意識が、ダークピープル達にコントロールされて、すぐに生れなくてはいけない、と思わされて、陣痛を起こしたようです。

まだ時期が早いので、子供に言い聞かせて出産には至らなかったのですが、もし生まれていたら未熟児で生まれるところでした。

そして、子供を操っていたエネルギーをしらべると、「全てを見渡す創造主」に行きついたので。」

第8評議会の創造主達は、「全てを見渡す創造主」を見て不思議そうな顔をしています。1 人の創造主が「全てを見渡す創造主」に尋ねます。

「あなたはどうして、これから生まれようとする子供に、このような事をしたのですか。」

「全てを見渡す創造主」は平然とした表情で答えます。

「私は、「怒れる創造主」が行なった事によって、地球がとても大きな影響を受けた事に大変申し訳なく思っています。

皆さんが一生懸命に守ってこられた宇宙を「怒れる創造主」が台無しにしてしまった事を悲しく思っているのです。

そのために、創造主の子供である恵理さんの御子さんに早く地上に出てもらい、少しでも地球の修復になればと思って行った事です。」

私は、彼の説明を聞いても納得できません。

「「全てを見渡す創造主」よ、あなたの気持ちは理解できますが、子どもの成長は未だ十分ではありません。

今生れてしまうと子供はまだ未発達ですので、様々な障害が出る可能性もあります。

この先きちんと育たずに、人間としてしっかりと生きていく事ができなくなったらどうするのですか。」

私が、怒っている様子を見て第9評議会の創造主達もやってきて事情を聞いています。

「全てを見渡す創造主」は、素知らぬ顔で答えます。

「私は、創造主として地上に降りたからには、地上の人達を救う事が仕事だと思っているだけですので、あなた方の子供であっても創造主ですので、その勤めを果たしたほうが良いのではないかと思います。」

「あなたがそのように言うのなら、あなたが地上に降りるか、あなたの一部を地上におろして見守られたらよいのではないかと思います。第9評議会の創造主達よ、その許可を与えてもらえませんか。」

第9評議会の創造主達も突然の展開で面喰っているようです。

「「全てを見渡す創造主」がそれを望むなら、それもよいでしょう。」

「全てを見渡す創造主」は、第9評議会の創造主達に向かって答えます。

「皆さんが望むなら、私は、私の一部をこの地上に降ろしましょう。

TAKESHI さん、あなたはどのような形で、私のスピリットの一部を降ろされる事を望まれますか。

他の創造主のように、悲惨な社会に降ろし、私のスピリットが苦勞する事をお望みですか。」

彼の皮肉めいた言い方に、私はすこしムッと来たのですが、気持ちを抑えて話します。

「いえ、「全てを見渡す創造主」は、私達の宇宙を良くして下さるために地球に降りてこられます。

今地球では、光51%から55%の中間の世界がとても大切な世界になっています。

この世界の人々をうまく成長させられれば、アセンションしていく地球人を飛躍的に増やす事ができるでしょう。

しかし、この世界にダークピープルや闇の創造主が介入してくれば、多くの人々が捉えられアセンションできなくなります。

この世界に、あなたのスピリットをおろし、この世界のリーダーとして皆さんを導いてもらえませんか。」

「全てを見渡す創造主」は、しばらく考えたあとに答えます。

「わかりました、それでは今の時期に焦点を当てて、しっかりと活躍できるように、少し前の時代にスピリットをおろし、TAKESHIさんのように活躍できるよう準備をいたします。」

そうやって彼は、消えていきました。

PART3 「全てを見渡す創造主」の反乱

私は、「全てを見渡す創造主」の元を離れたあと、第8評議会の創造主で私のスピリットと深い関係にある創造主に尋ねました。

「創造主よ、私は、どうも「全てを見渡す創造主」が気になるのですが、彼の役割を教えてくださいませんか。」

「彼は、第7評議会から第5評議会の創造主達と交流して、宇宙の創造や運営の状況を聞き、第9評議会や第10評議会にその報告を行います。

また上位の評議会の創造主の指示を下の評議会の創造主に伝え、どのように宇宙を運営していくかアドバイスを行う立場の創造主です。

言うならば、最上位の創造主と中間クラスの創造主の連絡係りとなる創造主です。」

「そうですか、それは非常に大切な役目の創造主ですね。

それであなたや上位の評議会の創造主は、彼の行いについてどのように評価しているのですか。」

「私達は、彼は非常に優秀でまじめな創造主であると判断しています。」

第8評議会の創造主は、私の質問に少し不安気に答えました。

「全てを見渡す創造主」が、物理地球の光51%から55%の世界に自分の分身を降ろす事になりましたので、私はすぐに第1評議会の創造主とスターピープルを集めました。

私は第1評議会の議長のアルテミスに向かって質問します。

「アルテミスよ、これから光51%から55%の世界の地球人を指導する体制はどうなっていますか。」

アルテミスは、突然の状況の変化に戸惑っているようです。

「この世界は、シリウスのスターピープルを中心に指導を行っていく予定です。」

「シリウスのメンバーのアセンション度数はいくらぐらいですか。」

「彼らは、主に第 1 アセンションで、今の地球よりも少し進んでいるくらいですので、共に学びあえると思います。」

「第 1 アセンションというと、彼らは肉体を持って地球に降りていくのですか。」

「そうです、全ての者達だけではないのですが、中には、肉体を持って降りる者もいます。」

「そうですか、これからの地球は、未だ何が起こるかわかりません。

特に、「全てを見渡す創造主」のスピリットの一部が地上に降りるとあっては、多くの人々が目覚めたりまた反対に大きな妨害が起きる可能性もあります。

第 1 評議会でも、もっと力を持っているスターピープル達に光 51% から 55% の世界を守らせたいのですがいかがでしょうか。」

「それは構いませんが、」

私は、第 1 評議会のスターピープル達と相談して、新たなグループを組む事にしました。第 1 評議会のリーダー的存在であるポラリス星人、アンドロメダ座のスターピープル、そしてアシュタールに、シリウスのスターピープルを組み合わせたグループです。

「皆さん、本当に申し訳ないのですが、このグループを中心にして「全てを見渡す創造主」の一部となる地球人をサポートしてくれませんか。」

第 1 評議会の仲間達は快く引き受けてくれます。

私は、「全てを見渡す創造主」にも呼びかけます。

あなたのスピリットは、きっとこの地球で素晴らしい仕事をしてくれると思いますので、

このメンバー達をサポートにつけますがよろしいでしょうか。」

「全てを見渡す創造主」は何も言わずうなずいています。

そして翌朝、12月20日の事、私の頭の中でキンキンと耳鳴りがします。

このところ闇の創造主が仕掛けたいくつもの人々の意識をコントロールするための機械によってずっと耳鳴りがしているのです。いくつもの機械を壊すたびに、耳鳴りは一時的に良くなるのですが、またしばらくすると他の機械が作動して耳鳴りが始まるのです。

私は、この原因をさがすためにピカフラッシュ達を呼び寄せました。

そしてこの機械は、物理的な地球の中で動いているのです。

それも、ネガティブな感情を沸き起こらせ、闇のエネルギーの虜にしてしまうような波動を持っているので、非常に厄介です。

調べていくうちに、あの「全てを見渡す創造主」が降ろした人間と関わりがある事が分かってきました。

私はすぐにポラリス星人を呼んで、「全てを見渡す創造主」の一部が、今地球でどのような活動をしているか聞いてみました。

私が、ポラリス星人達をサポートにした狙いは、「全てを見渡す創造主」の一部をサポートするだけでなく、彼の行いを見張らせるためでもありました。

「彼は、現在はエンジニアとして普通の仕事を送っているようで、特別問題があるところは見受けられません。」とポラリス星人は答えます。

しかし、ロッド星人やグルナレッドが調べたところ、大変な事が分かってきました。

「TAKESHI さん、彼の事をしらべると、どうも裏で隠れて動いている事が分かりました。

皆さんの言葉でいえば秘密工作人員ですね。表向きは普通のエンジニアのようですが、裏では、地球人やスターピープルをコントロールするための機械を作動させて、地球人に特殊なエネルギーを送り、彼が属している組織に従わせようとしているようです。

そして一部のダークピープルとつながり、創造主レベルの技術を使用して、このコントロール装置を作りあげたようです。

もしかして、ダークピープル達が地上で動くためのゲートになっているかもしれません。」

その話を聞いたポラリス星人はびっくりして「う～騙された！」と悔しそうにうめいています。

おそらく、「全てを見渡す創造主」から、地球に降ろしたスピリットの一部の働きが見えないようにコントロールされていたようです。

ロッド星人達は、これらの機械が地上にたくさん配置されて、地球の人々の思考がコントロールされている事を危険に思い、この機械を次々と破壊して行っています。

しかし彼が行っている事はそれだけではないようです。

アシュタールのエレナさんから、第1評議会の一部の創造主とスターピープルやマスター達が争っているという連絡がありました。

「TAKESHI さん、こちらでも大変な事が起きています。

時を司る創造主が、時間軸に変更を加えて、時を戻そうとしているのですが、それを止めようとするスターピープルやマスター達ともめごとが起きています。」

私は、「光彩の創造主」と共にその場に行くと、どうやら「時を司る創造主」が評議会の承認も得ずに時を戻そうとしていた事が分かりました。

第1評議会の代表である「光彩の創造主」も自分が知らない所でこのような事が起きていた事に慚然としています。

「時の創造主よ、いったい何が起きているのですか、私達に連絡がないまま、時間を動かすのは決して行ってはいけない事だとわかっているでしょうが、誰からの指示ですか。」

「時の創造主」は、困ったような顔をして答えます。

「これは第2評議会の時間に関わる創造主からの直接命令でしたので、私は、評議会の許可がなくても、その指示を実行しなくてはなりませんので、実行させてください。」

時の創造主が、行動を起こそうとするとマスターやスターピープルが、「やめてください。」と言いながら創造主の活動を阻止しています。

マスターが言うには、彼が時を戻したら、私達のアセンションは全く無意味になるので、止めなくてはならないと考えたようです。

第2評議会、第3評議会の時に関わる創造主も、上位の創造主から指示を受けたという事で、下位の創造主に時間を戻すように伝えたという事なので、私達は、創造主達を引き連れて、第4評議会の「流れを作る創造主」の元まで上がっていきました。

「流れを作る創造主」は、私が来た事に気づくと、私のもとにすぐやってきました。

「TAKESHIさん、申し訳ありません。私にも理解できない事なのですが、上の評議会の創造主様が直接来られて、地球のアセンションをやり直すから時間を戻してくれと言われたのです。

私は、皆さんが苦勞して、闇の創造主達を片付けながら、アセンションを実行されている事を見ていますから、そのアセンションをやり直すと大変な事が起きるのでは、と思っていたのですが、創造主様の命令なので、その指示を下の創造主に伝えましたが、一体何が起きているのでしょうか。」

「流れを作る創造主」は、とても申し訳なさそうな顔をして私に謝罪します。

そこに、第8評議会、第9評議会の創造主もやってきました。

「「流れを作る創造主」よ、すぐにその指示を取り消してもらっていいですか、これは大変な策略が働いているようです。」

「わかりました、皆さんからの指示であるならば、時を戻すという指示を取り消す事にしましょう。

実は、私も不安だったのです。

もし時をもどして、TAKESHIさん達が同じように活動していなければ、私や仲間の創造主達は生き返る事ができずにそのままスピリットを分断され、長い間、闇の中に閉じ込められるのではないかと思ったからです。」

そういつて「流れを作る創造主」は、下位の創造主を呼んで、時を戻すという指示を取り消すように伝えました。

「「流れを作る創造主」よ、ありがとう、実は私もその事を心配していたのです。

ここまで苦勞して、闇の創造主やダークピープルを処理してきたのに、それがまたすべて復活してしまう事になりますから、この宇宙は大変な事になります。

それで、誰からこの指示を受けたのか、教えてくださいませんか。」

「はい、第8評議会の「全てを見渡す創造主」様です。」

どうやら、「全てを見渡す創造主」が、裏で操っているようです。

更に上の評議会の創造主に確認しても指示は受けていないようですので、物理世界に直接かかわる第4評議会の「流れを作る創造主」にその指示を出したようです。

私達はすぐに第8評議会に上がって行きました。

PART4 「全てを見渡す創造主」の隠された野望

私達が、第8評議会に上がっていくと、私達の後ろから下位の評議会の創造主やスターピープルのリーダー達も真相を聞くためについてきています。

皆さん、自分達の宇宙を守るのだという、強い信念が生まれてきているようです。

私は、「全てを見渡す創造主」を前にして話し始めます。

「「全てを見渡す創造主」よ、今地上では、時を司る創造主が、地球の時間を戻そうとして大騒ぎになっていますが、これはあなたが指示したとの事ですが、それは本当ですか。」

「全てを見渡す創造主」は平然とした顔で答えます。

「そうです。私が指示しました。」

「それは、第8評議会で相談したうえで決定した事ですか。

「いえ、私が単独で決めて指示を出しました。」

この言葉に、第8評議会の創造主達は動揺しています。

私は、第8評議会の他の創造主に聞いてみました。

「第8評議会では、このような事を一人の創造主が単独で決めて行ってもよいのですか。」

1人の創造主が答えます。

「いえ、第8評議会の創造主の同意も必要ですが、その宇宙に関わっている各評議会の創造主との合意が必要です。

これは、私達も知らない事でしたので、不当な事と思われれます。」

第8評議会の創造主達は、まさか、「全てを見渡す創造主」がこのような事をするとは考えもしていなかったようです。

「それでは、「全てを見渡す創造主」よ、何故、自分勝手に、地球の時を戻そうと思われたのですか。」

「全てを見渡す創造主」は、第9評議会の創造主達をちらっと見えています。

「それは、私が地球のアセンションをやり直そうと考えたからです。」

「何故、あなたが自分自身の手でやり直そうと考えたのですか。」

「私自身が、行ったほうが、うまく行くと考えたからです。」

「全てを見渡す創造主」のこの言葉に、多くの創造主達が不満を現します。

「地球のアセンションは、もうすでに完成間近ですが、それをやり直すという事は、今迄に片付いた問題を再度リセットするという事ですか。

闇の創造主達もすべて復活する事になりますし、助け出された創造主やスターピープル達も再び闇の中に戻りますが、それでも良いのですか。」

「それでもかまいません。
私が、この宇宙に新たな秩序を作ります。」

第8評議会の創造主達も、さすがにここまで来ると、「全てを見渡す創造主」の隠された野望に気づき始めたようです。

「「全てを見渡す創造主」よ、あなたは、この宇宙を支配したいとお考えなのですか。その様な事をして、ここにいる創造主達はあなたには従いませんよ。」

「全てを見渡す創造主」は、薄気味悪く笑います。

「全ての創造主は、私に従うでしょう。私に従わなければ、この宇宙を追い出されるまでです。」

この言葉に、全ての創造主が怒っています。「それでは、ここにいる創造主よ、皆さんの中で、「全てを見渡す創造主」に従おうという創造主はいますか。いたら教えてください。」

もちろん従おうという創造主などいる訳がありません。

1人の創造主が立ち上がって言います。「私達は、たとえ上の評議会の創造主であろうとも団結して戦います。

今迄は、上の評議会の言いなりでしたが、私達はもっと自分達の考えを、上の評議会の皆さんにも伝えていこうと思います。」

多くの創造主が共に立ち上がります。

その様子を見た「全てを見渡す創造主」は、冷やかに笑っています。

私は、地上に降りた彼の一部の事にも言及します。

「あなたが地上に降ろした一部も、ダークピープルや地球の権力者と協力して、人々の意識をコントロールするための機械を作り、地球の人々やスターピープル達をコントロールしているようですが、これもあなたの指示ですか。」

「いえ、私の知らない事です。」

「全てを見渡す創造主」はとぼけています。

「ダークピープルと彼は、共に協力しているようですね、

それに、恵理さんが、予定よりも早い陣痛を起こした時に、ダークピープルも関わっていましたが、あなたはそんな存在とも長が良いようですね。」

「はい、もちろんです。」

私は、ダークピープルもスターピープルも共に栄えるべきだと考えております。」

「もちろんその様な考え方もできるでしょうが、私達の地球も、ダークピープルを通して闇の創造主から大きな支配を受けてきました。

それも必要な事だといわれるのですか。」

「それも皆さんの学びの役に立っているのではないですか。」

「全てを見渡す創造主」は、あざ笑うように答えます。

私は、「全てを見渡す創造主」の処理を第9評議会の創造主達にゆだねる事にしました。

「私は、「全てを見渡す創造主」の言葉を聴いて、創造主としてあるまじき事であると考えています。

あまりにも独断的で他の者達に対する思いやりのない態度に幻滅しました。

「全てを見渡す創造主」は、自分で光に帰るよう決断されたほうが良いと思います。」

「全てを見渡す創造主」はとても不服そうな顔をしています。

「私は何も悪い事をしていませんので、光に返される必要はないと考えています。

創造主として、自分が理想とする世界を作るのは当然の事です。

それを行う事が悪というのなら、全ての創造は悪であるとおもいます。」

第9評議会の創造主が彼をなだめるように言います。

「「全てを見渡す創造主」よ、創造主の基本はこの宇宙に愛をもたらす事です。

あなたの中には、支配欲しかないように私には思えます。」

「全てを見渡す創造主」が、すごいエネルギーで私を脅してきますが、第9評議会の創造主達が私を守ってくれます。

第9評議会の創造主達が、「全てを見渡す創造主」と話を始めました。

「「全てを見渡す創造主」よ、私達は、あなたが自発的に光に帰る事を決断してくれる事を望んでいます。

それでなければ、私達は強制的に、あなたを光に返さなければならなくなります。」

「いえ、私は、自分に課せられた使命を全うしているだけです、私は正し事をしていきますので、責められる事は何一つありません。」

私は、彼の言葉が気になりますが、ここはもう第9評議会の創造主達にまかせて、後片付けに行く事にしました。

PART5 入れ替えられていた第1評議会の創造主

やがて、「全てを見渡す創造主」は、第9評議会の創造主達によって光に返されたようですが、私の中では、彼の言葉がいくつも胸に残ります。

地球に降ろされた彼のスピリットの一部は、創造主としての能力や資質がすべて奪われて、ただの地球人として生きていく事になりました。

彼とダークピープルが作り上げた機械も、ロッド星人やグルナエル達によってすべて破壊されたようです。

これですべてが終わったかのように思えたのですが、ここから「全てを見渡す創造主」が仕組んだ罠が炸裂していきます。

私達は、最初に人々の理性を少しばかり狂わせる機械を発見しました。

これは、「全てを見渡す創造主」が、地球のオリオン星人やダークピープルを使って稼働させていたようです。

人々の意識を大きくコントロールするのではなく少しずつ変えていくので、発見が難しいのです。

そして私達が、この機械の処理をしている間に、エレナさんから連絡が入りました。

「TAKESHIさん、大変です。

創造主達がお互いのつながりを持ってなくなってしまい、相手を認識できないようになっていきます。

今までは第1評議会と第2評議会が連携が取れるようになっていたのですが、今では、全く連携が取れません。

他のスターピープルに聴いてみたのですが、自分が所属している評議会の創造主同士もお互いのつながりが弱くなっているうえに、異なる評議会の創造主とは全く連絡が取れないようです。」

これには困りました。

私も、それぞれの評議会の創造主を呼びだしてみても、自分のスピリットとつながりがある創造主達とはかろうじて繋がれるのですが、それ以外の創造主達とは全くコンタクトが取れないのです。

恵理さんも、いつもは創造主達の姿が見えているのですが、今は全然見えないと言っています。

調べてみると、第7評議会と第8評議会は無事なのですが、第6評議会のから下の創造主は、混沌としているようです。

私は、すぐに各評議会のスターピープル達を集めて原因を探る事にしました。

創造主同士の絆が立たれたのはなぜか、そうしてすべての評議会は、私を通してつながっていますので、各評議会と私自身のつながりも絶たれた事になります。

「スターピープル達よ、大変な事態になってしまいました。

すぐにでも原因と対処法を探し出さなければなりません。

それぞれ自分の評議会の創造主に、異変がないかを調べてください。

特にコントロールチップや闇のエネルギーが創造主に流れ込んでいないか、創造主のスピリットがどこかに捕らわれていないか調べてください。

あるいは、各評議会ごとに意識をコントロールする機械がないか調べてください。」

多くのスターピープル達が、各評議会に戻り、一斉に捜査を始めました。

私はその間に、第8評議会の創造主達と対策を話し合っています。

「これは一体どうしたんでしょうか。あの、「全てを見渡す創造主」が仕組んだ事でしょうか。」

1人の創造主が不安気に言います。

第8評議会の探査役の創造主が答えます。

「おそらくそうでしょうね、私達の知らない所で、一体何が起きているのか、私達はもっと慎重に調べるべきでした。

「全てを見渡す創造主」と「怒れる創造主」は共同で働いていたのでしょね。」

私達が、その様な会話をしているところに、第6評議会のスターピープルが戻ってきました。

「創造主様、原因が見つかりました。やはり創造主達の中にコントロールチップが入れられており、そのおかげでお互いの創造主達がきちんと認識できないようになっていたようです。

そしてもう一つ、第6評議会の創造主達の中に偽物が混じっており、彼がその為の作業を行っていたようです。」

私と創造主達はすぐにその場所に向かいました。

そこでは、一人の創造主もどきの存在が、スターピープルに捕まえられています。

創造主達は、コントロールチップを取りはずしたものの、その影響が強く残っているようで、意識が呆然としているようです。

私は、この第6評議会のスターピープルにお願いして他の評議会の創造主達のコントロールチップを外して、偽物を探してくれるようにお願いしました。

高次の創造主が作った機械類は、下の評議会の創造主やスターピープルでは、見つける事ができないからです。

スターピープル達はすぐに他の評議会のもとに走っていきます。

私達は、捕まえられた偽物の創造主を問い詰めます。

「あなたは、一体誰から作られたのですか。」
偽物の創造主は慄然とした表情で答えます。

「私達は、「全てを見渡す創造主」から作られました。」

私は続けて問います。

「この評議会の創造主達に対してコントロールチップがつけられていましたが、何故ですか。」

「それは、すべての創造主が、「全てを見渡す創造主」に従う為につけたのです。」

第8評議会の創造主達は、その言葉を聴いて顔色を失ったようです。

先ほど、「全てを見渡す創造主」を、私が問い詰めていた時に、自信を持って「全ての創造主が自分に従う」と言っていた言葉を思い出しました。

彼はすでに、全ての創造主達にコントロールチップを入れ終わっており、時が来たら、自

分の意のままに創造主達を支配し操る事は簡単にできたのです。

彼が言う事は嘘ではなかったようですが、やる事があまりにも狂気に満ちています。

「全てを見渡す創造主」は、地球の独裁者と同じように、従わないものは、本当にこの宇宙から追い出すか、殺すかしていた事でしょう。

もしかしたら、自分に対抗するスターピープル達も捕えられて殺されていたかもしれませぬ。

すでにそれは第3評議会では起こっていた事です。

しかし、私達は同じ事を繰り返させるわけにはいかないのです。

話しは次回へ続きます。

創造主評議会の詳細

○各評議会の創造主について

	創造主の役割 アセンションを妨害する理由
第17 評議会	物理的な宇宙を管理する最高責任者。 5人の創造主がひとつの意思に基づいて動いている
	私達の宇宙を光に満ちた宇宙にするために、地球のアセンションを通して創造主達を再構成しようと考えていたが、「変化の宇宙」の創造主達の介入により予定が大きく狂ってしまい、地球のアセンションは混乱した。それを収拾する為に物理世界にも介入してはたらいてくれている。
第16 評議会	創造主達の指導を行い、宇宙創造の管理を行う 私達の活動をサポートする「時と空間を司る創造主」もこの評議会の1人
	第17評議会によって第16評議会の中に、下位の評議会の創造主を成長させるために、あえて問題を引き起こす創造主達が作られた。彼等が「変化の宇宙」の創造主達により強化され、第17評議会も手におえない程に、凶悪化してしまい「すべての闇を作り出す創造主」を中心に私達の宇宙の支配をもくろみ、私達の活動に介入してきた。
第15 評議会	物理次元を持つ宇宙に関わる最高次元の創造主。 アセンションを行うために私達を地

	<p>球に降ろした創造主。</p> <p>異なる宇宙の創造主達にコントロールされて他の宇宙とのゲートを開く。</p> <p>第 15 評議会から出ていった創造主「全ての闇の宇宙を統括する創造主」により闇に満ちた宇宙が数多く作られ、地球のアセンションを妨害する為に多くの罠が仕掛けられる。</p>
第13評議会	<p>私達の宇宙とは異なる全ての宇宙も含めて創造主達の指導を行う。</p> <p>5人いる第13評議会の創造主のうち3人が、「すべての創造主を指導する創造主」を生みだした創造主により意識をコントロールされ「すべての創造主を指導する創造主」を擁護し、地球のアセンションを妨害していた。</p>
第12評議会	<p>私達の宇宙とは異なる全ての宇宙も含めて創造主達の指導を行う。</p> <p>第12評議会のリーダー的存在である「すべての創造主を指導する創造主」が下位の評議会の創造主の働きを多様性のある宇宙を創るという事で擁護していた。そして自分もこの宇宙の実権を全て握るために、他の宇宙の創造主を巻き込みアセンションの妨害をおこなってきた。</p>
第11評議会	<p>私達の宇宙とは異なる全ての宇宙も含めて全ての宇宙の創造を行う責任者</p> <p>「感情に飲み込まれた創造主」が、「略奪の宇宙」「無機質の宇宙」「カオスの宇宙」などから高い能力を持つ創造主やダークピープルを地球に招き入れ、アセンションした世界の破壊をもくろむ。</p>

第10評議会	私達の宇宙とは異なる全ての宇宙も含めて全ての宇宙の創造を行う責任者
	第10評議会の創造主達と対立する「混乱の宇宙を作った創造主」が地球にアセンションを妨害する為にさまざまな計画をめぐらし、自分達の宇宙の創造主を利用したり、他の宇宙からの創造主を招き入れる。
	創造主の役割と墮落した理由
第9評議会	私達の宇宙とは異なる全ての宇宙も含めて管理や指導を行う。
	「リセットの創造主」が、創造主の学びを行わせるために、下の創造主の正義感や判断力を忘却させ、混乱に陥れる。
第8評議会	全ての宇宙を見守り創造主達の指導を行う。 私や恵理さんと同じスピリットを持つ創造主が、宇宙の様々な世界の探査を行う。
	第9、第10評議会に、下の宇宙の出来事を報告する「全てを見渡す創造主」が「リセットの創造主」により正義感を失わされ、支配欲を持ち「怒れる創造主」を作ったり、宇宙を支配のための企てを行う。
第7評議会	全ての宇宙を見守り創造主達の指導を行う。 「全てを見守る創造主」がリーダー
	上の評議会から闇を持った創造主として生み出された「怒れる創造主」が評議会に反乱を起こし全ての宇宙での闇の創造主の大元となる。
第6評	全ての宇宙を見守り創造主達の指導

<p>議会</p>	<p>を行う。 「全ての創造主の働きを持つ創造主」がリーダー</p> <p>「変化を促進する創造主」が、創造主を成長させたいという理由で宇宙に闇のエネルギーを流すが、本当の理由は宇宙の支配。</p>
<p>第5評議会</p>	<p>第4評議会が作った全ての宇宙を管理。「陽の働きを持つ創造主」がリーダー</p> <p>第4評議会の創造主達から騙されて闇に落ちた「暁の光の創造主」が下部の創造主の光を奪う。</p>
<p>第4評議会</p>	<p>1人1人の創造主が、独自に宇宙の原型を作り出し、スターピープルと下部の評議会に創造を委ねる。お互いの宇宙にはあまり関わらない。</p> <p>「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」が対立していたが共に闇の創造主となり、2人が手を組んで宇宙の支配をもくろむ。下部の評議会の創造主達を闇の創造主に仕立てあげていった。</p>
<p>第3評議会</p>	<p>「道を指し示す創造主」を中心に、第4評議会の創造主によって作られた宇宙の細かい部分を創造し運営する。他の創造主を信頼するあまり闇落ちた創造主を放置する。</p> <p>「宇宙の創造を管理する創造主」や「道を作り出す創造主」が闇の創造主となり、この宇宙を光の創造主から奪い取るために、闇の創造主達を地球の各地に配置しアセンションを妨害してきた。彼等は第4評議会の創造主に操作されていた。</p>
<p>第2評議会</p>	<p>「栄光の創造主」を中心に第3評議会によって作られた宇宙の創造と運営</p>

	<p>を手伝い、第1評議会の働きを管理し手助けを行う。様々な宇宙の中で大きな問題が起きた時はその解決にあたる。</p>
	<p>第3評議会の闇のエネルギーによって過去に創造主大戦争を引き起こした。今回も闇のエネルギーの影響で、第2評議会の中心的な創造主が闇に落ち、宇宙を混乱させ、アセンションを妨害し、私達にも大きなサイキック・アタックを行なった。</p>
<p>第1評 議会</p>	<p>「源の創造主」をリーダーに「光彩の創造主」等が上の評議会から託された宇宙を具体的に運営する。また物理世界に生きる多くの存在達の成長を助け、宇宙連合へ迎え入れる。</p>
	<p>上位の評議会からの闇のエネルギーの影響で、第1評議会の創造主のリーダーである「創造主の独自性を育てる創造主」等、主だった創造主が闇の創造主となり大きな勢力を作り、光の創造主を圧倒していた。</p> <p>そのために地球を始め多くの宇宙に闇がはびこり、ダークピープルが宇宙を荒らしまわる事となった。</p>
<p>物理的 宇宙</p>	<p>宇宙連合によって生み出された宇宙、多くの銀河や星団に別れ独自に発展している。</p>
	<p>闇の創造主やダークピープルによって地球だけでなく多くの星々が闇が多い世界となり、人々の成長を阻害している。</p>

PART 1 スターピープルの役割と組織

これから私達は宇宙連合と共に活動していく事になりますので、スターピープル達や創造主、宇宙連合の仕組みを皆さんにご紹介するところから始めたいと思います。

【スターピープル】

私達は、地球に住む地球人ですが、地球以外の星から来て地球に関わる地球外生命体達もたくさん存在しています。

彼等は、目的によって2つのグループに分かれます。

それは、地球人を成長させるために、人々をより良い方向へ導く善良な地球外生命体達（スターピープル）と地球を支配し地球人を自分達の思いのままに利用したいと考えている狡猾な地球外生命体達（ダークピープル）です。

良心的な地球外生命体達であるスターピープルは、天の川銀河の中でも、地球よりも早くアセンションを行い、宇宙のために活動している星々の人達の事です。

主にアンドロメダ座、シリウス、アルクツールス、プレアデイス星団の人々が、現在地球に関わっていますが、全て宇宙連合に属し、宇宙連合の計画と指示のもとに行動しています。

そして、各星固有のスターピープルとは別に、高度な叡智を持つ星々のメンバー達が集まって作られたアシュタールや銀河連合といったグループも存在しています。

彼等は常に、宇宙の進化のために下記のようにいくつかの役割を持って活動しています。

1 創造主をサポートして、宇宙を創造し運営する仕事。

2 創造された星々や星に住む種族が侵略されたり破壊的な状態になる事を防ぎ平和に保つ事。

3 未だ十分に意識進化していない人々を導き成長させる事。

4 ある程度の意識進化の段階になった人々をアセンションさせ、スターピープルに進化させる事。

彼等は、愛の度数や意識状態が高まるごとにアセンションを行ってさらに愛や叡智が高い状態へと移り変わっていきます。

アセンションが進むと、スターピープル達は物理的な体から半物理的な体に移り変わり、第6アセンションを超える頃には、ほとんどのスターピープルが物理的な体を失ってスピリット体へと変わっていきます。

宇宙連合でも肉体を持つスターピープルの多くが、第1評議会に属し、地球のように物理的な肉体を持つ種族や物理的な世界を持つ星々に直接関わる事ができます。

しかしアセンションが進み、完全に肉体を失うと特別な種族を除いて物理的な種族や世界に関わる事ができなくなりますので、宇宙の中でも他の役割を担う事になります。

それは、第1評議会や第2評議会のスターピープルのサポートや教育を行ったり、宇宙の平和を観察したりする事です。

更に成長したスターピープルになると、創造主と共に宇宙の創造を手助けする仕事を行うようになります。

それでは次に、どのようにして、通常の生命体がスターピープルへと成長していくか説明しましょう。

スターピープルへの第1歩は、もともとその星に存在している生命体の中でも、これから叡智を持つ可能性があると思われる種族に、優秀なスターピープル達の遺伝子を組み込んで成長させる事です。

地球では、そのために選ばれたのが、類人猿と呼ばれる種族だったようです。

彼等は、意識が成長してくると村社会を作り、社会性や自我意識に目覚めてきます。

そして次の意識進化のための遺伝子操作を受けるまでに成長していきます。

やがて彼等は、長い期間をかけてスターピープル達から教育を受け、様々な技術や文化的な側面を成長させて文明を形成していきます。

スターピープル達は、彼等の社会にあまり介入する事なく、さまざまな機械技術や宇宙工学などが発展するように、彼らの能力を高めていきます。

また、様々な技術のアイデアを、夢などを通して、人々に与え成長の手助けをします。

これもスターピープルになるためのトレーニングのひとつです。

そして人々が、ある一定の意識と愛の水準になったら、その星の種族にアセンションをおこして、大きな意識進化をもたらします。

最初のアセンションを通してもたらされる進化とは、自分達の星以外にも素晴らしい叡智を持っている人々（スターピープル）が存在し、それらの人々が宇宙の進化と平和のために貢献している事を知る事です。

そのために、スターピープル達が人々の前に

現われ彼等を直接指導する事が起こります。私達地球人は、現在、この第1アセンションを迎える時期となっています。

アセンションを通して目覚めてきた人々は、スターピープル達と共に活動を始め、宇宙に貢献できるようになります。

そしてその貢献が認められると、やがてスターピープルの一員となり宇宙連合へと加入する事になります。

宇宙連合へは、第1アセンションを行うと加入できますが、この時期はスターピープル見習いとして、先輩のスターピープルと共に活動します。

やがて第1アセンションを終えた人々が更なる成長を遂げると、愛の度数も高まり第2アセンションを迎える事ができるようになります。

第1アセンションを迎えるためには、自分達の種族や叡智あるスターピープル達を愛し尊敬する事を学びますが、第2アセンションを迎える為には、自分達の種族だけでなく、未だ発達途上の種族も含め、この宇宙に存在する多くの種族達を平等に愛する事ができるようにならなくてははいけません。

なぜなら、第2アセンションを成し遂げたスターピープル達は、まだ十分な意識の成長を成し遂げていない種族の人々と単独で関わる事になるからです。

この時に高い愛の意識に達していないと、まだ十分に成長していない種族にたいして、彼等を尊重するのではなく彼等を自分達に服従させたり、自分達のやり方を押し付けたりしてしまい、彼等の意識の成長を妨げてしまうからです。

第1評議会のスターピープル達は、第6アセンションを達成すると第2評議会へと移りますが、この時はすでに肉体としてではなくスピリット体として働く事になります。

そして、今まで培ってきた経験をもとに第1評議会のスターピープルを指導したり、創造主のお手伝いをする事になります。

【ダークピープル】

スターピープルにたいして、闇のエネルギーに飲み込まれて、自分達の欲望のために活動する種族を、ダークピープルと呼んでいます。例えば、オリオン星人やアルクツールス星人のように同じ星の人々でも、進化の過程でアセンションを繰り返してスターピープルになる種族もいれば、ディセンションしてダークピープルになる種族もいます。

ダークピープルになる種族は、闇の創造主によって彼等の部下にされ、未発達な星の人々を、闇の創造主に従属させたり支配するために働かされる事が普通です。

彼等自身も本来は純粋な気持ちを持っているのですが、支配欲や攻撃欲などをかきたてられ、愛の心を失っていきます。

すると、彼等はどんどん欲に染まって、自分の意思で人々を攻撃し支配する事を好むようになり、ディセンションを繰り返す事となるのです。

ディセンションを繰り返すたびに、ダークピープルは闇の力を身に着け強力なパワーを持って未発達な種族を支配するようになります。

今迄の地球の歴史がそうでした。

争いや奪い合いが繰り返され、人々は人間と

しての尊厳を失い、殺されたり傷つけたりされてきました。

経済が発展している世界では、多くの人々が一部の裕福な人のための奴隷として無理やり働かされてきました。

そして科学技術が発展すると核兵器や原子力発電など人々や地球環境に大きなダメージを与える技術も作られ、地球の破壊へと人類は歩いていくのです。

私達のアセンションへの道のりは、まさにこの地球人を支配してきたダークピープルや彼等を操る闇の創造主との戦いでした。

現在は、今までの地球を、闇が多い地球と光が多い地球に分け、闇が多い地球は今までの地球と同じく闇の創造主やダークピープル達が支配しますが、光が多い地球は、ダークピープルや闇の創造主はすべて排除され、スターピープル達が見守り、アセンションしていく人達を育てるための地球となっていくます。

本来アセンションは、その星にすむ種族達がすべて同じように意識進化していくのですが、この地球に関しては、1人1人の意識が多様化しており、愛の度数も精神の発達具合も全く異なりますので、全ての人と同じようにアセンションする事はできませんでした。その大きな要因が、このダークピープルとどのように関わっているかという事でした。

同じ日本人でも、他人に優しくして貢献したいと考える人もいれば、他人をだましてもお金を儲けたいと考える人もいます。

また、自然災害などで困っている人を助けたいと考える人もいれば、自分の欲望のために他人を傷付けたり利用したりする事を平気で行う人もいます。

それらの事柄がすべてダークピープルのせいであるというわけではありませんが、彼等のエネルギーが大きく関わっている事は確かです。

ダークピープル達は、スターピープル達が地球人に関わる事で、地球人が目覚めアセンションしていく事を大変嫌い、常に私達の妨害をしてきました。

それは、1人でも多くの地球人を欲望の虜にしてディセンションさせ、自分達の支配下に置いて利用していたいからです。

人々はその事に気づかず、自分達の欲望のままに生きていくと、争いや支配欲に満ちた世界から抜け出す事ができなくなります。

そして、自らもディセンションしてしまうのです。

私達は、地球の人々が1人でも多くアセンションしてスターピープルになれるように、ダークピープル達を処理したり、地球人に大きな影響を与えている闇の創造主達を光に返してきました。

彼等に捕えられている皆さんのスピリットの一部も開放して、地球の人々がスピリットの統合を果たし、自分が本来持っている「愛」のエネルギーに目覚める事ができるように努力してきましたが、人々が自ら、自分が持っている愛に気づき、自分のスピリットを受け入れる事ができなければ、その人は何も変わる事はできません。

地球は2019年の末までに大きく分離されていきますので、それまでに光が多い地球へと入って頂き、スターピープルへの道を歩んでいただきたいと思います。

PART 2 創造主の目的と区分について

地球では、創造主というのは唯一万能な存在であり、過ちなどを犯すはずはない存在とされています。

また愛に満ち、多くの人を慈悲の心で助けてくれる存在だと思われていますし、私もそう思い続けてきました。

しかし、私達はアセンションを進めるにつれて様々な創造主に会いました。

そして分かった事は、創造主は唯一無二の存在ではなく、役目や階級に応じて無数に存在しているのだという事です。

そして全ての創造主が、万能であり過ちを犯すはずがないという考え方は大きく間違えているという事です。

もちろん、私があった創造主の中にもその様な尊敬すべき創造主はいましたが、本当に僅かでした。

創造主の中には、自分の欲望やエゴに負けてしまい、この宇宙を自分が好きなようにしたいと考え、自分の部下にあたる創造主やスターピープル達を利用して、地球人や多くの星の人々を支配しようとする創造主達もたくさんいたのです。

もし、全ての創造主が、愛と慈悲に満ちていたなら、この地球のように戦争や侵略、あるいは殺人や暴力、経済的な抑圧や自然破壊などは決して起こらなかったでしょう。

創造主自身が暴力と支配を好むからこそ、地球のような闇が深い世界が生まれてきたのです。

ギリシア神話に出てくる最高の神であるゼウス神も自分の欲望の赴くままに、女性達をさらいたくさんの子供を生み落させました。

もちろんこれは神話ですが、ゼウスと同じように自分達が作った宇宙は自分達が自由勝手に扱ってもよいと考える創造主達が、実はたくさん存在しているのです。

ではなぜ、その様な存在が創造主としてこの宇宙に君臨しているかという事をお話ししましょう。

それは簡単な答えです。

創造主から宇宙の創造と運営をするために作られた存在だから創造主なのです。

創造主は肉体を持ちませんので、誰かの体から生まれて成長していくわけではありません。

上位の創造主から目的に応じて、自分の光を分けて作られます。

高次の光には意識や能力が伴いますので、光を分かち与えられて生まれた創造主は、生みだしてくれた創造主の能力と資質の一部を持つ事になります。

その資質と能力を使用して、上位の創造主の指示のもとに宇宙の創造や運営を行い、与えられた任務を果たします。

生みだされた創造主は、自分を生みだしてくれた創造主には絶対に逆らう事はできません。

逆らった場合には、自分の元となった創造主の光のもとに返される事となります。

私のPDFブックをお読みの方はお分かりかと思いますが、私は、問題がある創造主に対処する場合には、必ずその創造主を生みだした創造主か一つ上の創造主にあらかじめ相談して処理を行なう了承を取り付けます。

そして問題がある創造主を問い詰め、問題がある創造主が自分の罪を認めるか、その創造主を生みだした創造主が、更生の余地がないと認めた場合には、上位の創造主の判断によ

って、問題を起こした創造主を光に返す事ができるのです。

私は、多くの創造主が行ってきた事を調べる為に、地球の物理次元に生まれ、2013年から6年をかけて一つ一つ宇宙の次元を上がり、下の階級の創造主から宇宙を創造する役目を持つ創造主の位置にまでたどり着きました。

そして、1人1人の創造主の働きを見ながら問題がないかを調べてきたのです。

問題がある創造主は、私達の活動や地球のアセンションに対して大きな妨害を働いてきます。

すぐには分からなくても、一緒に行動しているうちに、私達を裏切るような行為をしたり、闇の創造主の命令をうけて私達を罠にかけようとしています。

何故地球人の私が、創造主の世界に入り、創造主の問題を明らかにして創造主を光に返す事ができるか不思議でしたが、地球のアセンションが進むにつれて、高次元の創造主が、多くの創造主の墮落にすでに気づいていたために、私を地球に降ろし、創造主が犯している罪を調べ上げる役目を私に与えたという事が分かってきました。

地球のアセンションは、地球に住む人々にとっては、自分達の意識を高め、スターピープルになるための第1歩ですが、高次元の創造主にとってみれば、墮落した創造主や闇に落ちた創造主を探し出し、彼等を光に返す事で、まともな創造主だけが残る宇宙を創るための壮大な計画があったようです。

次に創造主のレベルについて大きくご紹介しますが、レベルに関しては、私が簡易的に

区分けしたものです。

★物理世界を持つ宇宙

○第1レベル 天の川銀河の中の創造主

階層としては一番下の階層の創造主です。主に星々や星座の働きを保ち、星に存在する生命達を生みだします。

彼等は星座の創造主とも呼ばれています。

その上には、天の川銀河全体の管理と創造を行う創造主もいます。

○第2レベル 局部銀河の創造主

私達にとって観測可能な宇宙（ユニバース）の中でも、天の川銀河やアンドロメダ銀河を含む局部銀河が一つの宇宙の単位となっています。

この局部銀河を治める最高の創造主は、私達が「界王」呼んでいる創造主で彼のもとに多くの創造主が役割を分担して存在しています。

私は、局部銀河の運営にたずさわる創造主を「グレートゴッデス」と呼んでいます。

特にグレート・イエスやグレート・マリアは地球の事をとても大切にしてくれています。

○第3レベル 観測可能なユニバースを統治する創造主

物理的な世界を持つ宇宙（ユニバース）を直接統治する創造主達です。

主に第4レベルの創造主に対応する創造主達がいて、第4レベルの創造主の指示のもとに単一宇宙であるユニバースを運営しています。

○第4レベル 多次元宇宙を統治する創造主

観測可能な宇宙だけでなくパラレルワールドも含む多次元宇宙を統治する創造主達の世界です。

そのリーダーは、エンソフと呼ばれる創造主です。彼のもとに、星々を創造する創造主、人々の運命を司る創造主、宇宙の安定を保つ創造主、ドラゴンや精霊を生み育てる創造主、4大エレメントを駆使して宇宙を創造する源のエネルギーを作る創造主、叡智ある存在が適正に育っているか調べる創造主などが存在して、多次元宇宙の創造と運営を行っています。

★スピリチュアルな宇宙

○第5レベル 物理的な宇宙を創造し運営する創造主

このレベルの創造主からは、たくさんの階層と役目を持った創造主が存在します。

物理的な宇宙を創造し運営する役目を持ち、私達の物理世界にも関わられる創造主達です。第1評議会の中心的な創造主達になります。リーダーは、「源の創造主」「光彩の創造主」で宇宙のスーパーコンピューターを管理する創造主なども含まれます。

○第6レベル 物理的な宇宙を管理しスピリチュアルな宇宙を創造する創造主

主に第2評議会、第3評議会の創造主達で、上位の評議会の創造主の指示のもとにスピリチュアルなレベルでも宇宙を創造していきます。

彼等は、上位の評議会の決定を自分達の評議会でも議論し、どのような方法で宇宙の創造と運営を実行するか決めて行動します。

○第7レベル スピリチュアルな宇宙を創

造る創造主

主に第4評議会の創造主で、物理的な宇宙の元となるスピリチュアルな宇宙を作ります。この宇宙の原型を基に、第3評議会と第2評議会の創造主やスターピープル達がスピリチュアルな宇宙の細かい創造を行います。彼等は、マルチな能力を持つ創造主で1人1人が独立して、自由に宇宙の創造を行う権利が与えられています。

○第8レベル 創造された宇宙の管理を行う創造主

第5評議会以上の創造主達は、宇宙の創造は行いませんが、彼等よりも下の評議会の創造主が作った宇宙が適切に運営されているかどうかの検査を行っています。

非常に高い能力を持っている事はもちろんですが、どの次元にも自由に入る事ができ、多くの宇宙を見守っている創造主です。

○第9レベル いくつもの宇宙を管理する創造主

第9評議会以上の創造主達は、私達の宇宙以外にもいくつもの宇宙に関わり創造や管理を行うようになります。

○宇宙連合の評議会について

宇宙連合は、私達の天の川銀河やアンドロメダ銀河だけでなく多くの星団や星雲が含まれる宇宙をいくつも束ねた大宇宙を見守るグループです。

私達は、宇宙の本当の姿を未だ知りませんが、私達にとって観測可能な宇宙をユニバースと呼ぶのなら、そのユニバースの中に存在している創造主やスターピープル達の連合と

考えてもよいと思います。

しかしこのユニバースの中にも計り知れない銀河が存在しているのも事実です。

また、私が語る話はスピリチュアル・レベルの話ですので、実際の天文学の話とはかなり異なるという事だけをご理解ください。

先ず宇宙連合は、宇宙を創造し運営する創造主達とその仕事をサポートするスターピープル達の集まりです。

創造主やスターピープルの能力や資質、そしてその働きによって異なる階層の評議会に別れて活動しています。

その階層のリーダー的な創造主達とスターピープル達によって評議会の会議が行われ、自分達の行動が決定されます。

第1評議会は、宇宙連合では一番下の評議会として、物理的な宇宙の運営に当たります。

第1評議会は、創造主もスターピープルも最も数が多く、その役目も多岐にわたります。この評議会に属するスターピープル達は、物理的もしくは半物理的な体を持つスターピープル達ですので、地球を始め物理的な世界を持つ他の星々にも関わる事ができます。そして、地球人も含めて、まだ十分に成長していない人々に対して、意識進化のための様々な取り組みを行います。

宇宙連合の第1評議会は、物理世界を持つ多くの銀河や星団に関わり、その銀河や星団、もしくは星々の平和を守るための活動を行います。

第1評議会の中には、アシュタール連合のように独自のグループを作って活動している

者達もいますが、彼等も第1評議会の指示のもとに動いています。

また第1評議会は、スターピープルの説明のところでご紹介したように、未発達な星々の種族を成長させスターピープルへと導く仕事も行っています。

この宇宙の中で一つでも多くの種族が愛と叡智に目覚めて宇宙の平和のために貢献できるようにする事が第1評議会の目的でもあります。

第2評議会と第3評議会は、スピリチュアルな宇宙と物理的な宇宙の創造に当たります。

もちろん物理的な宇宙に関しては、第1評議会が中心となって創造活動を行うようですが、第1評議会を指導し、より良い宇宙を創る事が彼等の仕事でもあります。

しかしながら、これからのレポートでもご紹介するように、第4評議会に属する創造主が闇に落ちてしまった事で、第3評議会、第2評議会の創造主達も大きな闇に巻き込まれる事になりました。

その結果、第3評議会のほとんどのスターピープル達が闇の世界に閉じ込められ、第3評議会の仕事が順調におこなわれていないという事態に陥っていました。

第4評議会は、スピリチュアル・レベルの宇宙の創造を行い、物理的な宇宙のひな型を作り出していきます。

この第4評議会の創造主は、自分が創造する宇宙の全てを任されているので、自分の考えだけで独自の宇宙を作り出す事ができます。

第5評議会から上の評議会は、物理的な宇宙の創造には関わりませんが、創造主達を指導したり、下の階級の創造主が作り出した宇宙を検査する役目を持つ創造主達の世界です。

第5評議会の創造主達は、宇宙創造に必要なエネルギーを、第4評議会の創造主達に供給します。

第4評議会の創造主が闇に落ち地球の支配を計画している事が分かると、他の評議会の創造主やスターピープル達では対応できないので、彼等が中心になって地球の物理世界を調べ、この創造主達を処理する役目を担ってくれました。

	スターピープルの特質
第5評議会 以上	非常に能力が高いスターピープル達が他のスターピープル達を指導。
第4評議会	創造主達が宇宙を創造するために必要なエネルギーや技術を提供するための特別な能力を持つスターピープル達が存在している。 ネターシャ達の種族
第3評議会	第10アセンション以上のスターピープル達。 グルナレッドやミスト星人等。宇宙のエネルギーの適正化を行ったり、宇宙の健全な運営を担うための働きをする。 グルナレッド達の種族
第2評議会	第5アセンションから第10アセンションのスターピープル達。 ロッド星人やエリシタールなどが属し、第1評議会のスターピープルを助けて、叡智ある存在の成長を手伝う。

<p>第1 評議会</p>	<p>第1 アセンションから第5 アセンションまでのスターピープル達。アシュタール連合や様々な星のスターピープルによって構成され、宇宙の平和と成長を守り各星の人々の意識進化を手助けする。</p>
<p>物理的宇宙</p>	<p>スターピープルとダークピープルが存在。アセンション前の存在達は宇宙連合には入れない。</p>

光りの世界の区分

○光りの世界の区分

ここでは、まず光の地球といっても一つではなく、光に依じていくつもの地球に分かれている事をお知らせしておきます。

そして、ここでは大まかに60%台、70%台と書いていますが、本当は、1%単位で世界が異なっていますが、大まかな区分のみで説明させていただきます。

地球の光と闇の割合は、およそ光40%、闇60%、現在はもう少し光の割合が多い世界の様です。

この割合の世界では、闇の力が強いので、戦争やテロ、殺人や虐待、人種差別などが起こりますが、光の割合が50%を超えると、戦争や殺人などもほとんど起こらなくなります。また学びが必要な人には、その学びにふさわしい事が起こります。

60%台になると、愛と調和に満ちた人々が増えてきますので、人間としての完成を目指すような学びが始まります。

しかしそれは争いなどの人を傷つける事ではなく、どれほど愛を注げるか、とかどれほど人のために尽くせるかなどといった、とてもポジティブな学びになります。

また人々も、言葉でなく意思疎通ができるようになりますので、嘘を言ったり心の中に隠し事ができなくなるような世界になるかもしれません。

そしてさらに大切な事は、スターピープル達に対する理解が求められるようになります。

更に光りの度合いが70%よりも強くなると、学びが少なくなり、愛と共に生きようになりますので、争いや差別などもほとんど起こらずに調和に満ちた世界が繰り広げられます。

生きている人では70%台が最高クラスになるようです。

更に光りの割合が80%を超えると、もう物理世界に生きている人はほとんどいなくなり、宇宙の運営に関わる仕事を始める事でしょう。

それでは、どのような人がどのような世界に入れるか、創造主の極秘事項ですが、こっそりお教えしますので、少しでも上の世界に入れるよう努力してください。

またこの事は、私達の主観ですので、違うと思う人は信じる必要はありません。



光90% 台の世界	宇宙の管理者として働くスピリチュアルな存在達の世界。
宇宙のマスターの 世界	憎しみや争いなどとは無縁で愛と調和のみが存在する世界。 また宇宙の管理者となるべく学

	<p>びを行う世界。 自らが愛と光りになるために学びを行うスピリット達の世界。</p>
<p>光80% 台の世界 宇宙と地球に生きるマスターの世界</p>	<p>宇宙のために働くスピリチュルな領域に生きる人々。 自らもスターピープルとなり、宇宙の中にある様々な問題の解決のために働く事を喜びとしているスピリット達。 ここに入る人は、宇宙で起きている事を深く理解し、常に真実を求め努力してきた人。 地球においては、地球の中にある不正を知り、それを正すために戦い、地球と地球に生きる人々を自由で平和な者にするために常に努力してきた人々。 この地球の闇を知りながらも、憎しみを捨て愛によって生きてきた人達。 人間としてのエゴを捨て、自分の人生を他人のために奉仕してきた人達。</p>
<p>光70% 台の世界 物理的な光の地球での指導者の世界</p>	<p>光80%の人達と同じように、地球の闇と闘い続けてきた人達の中で、自分のエゴや欲望を捨て、愛の人として生きる実践を行う人々。 またスターピープルの事を深く知り、彼らと共に働ける人。 自分の感情に振り回されずに常にニュートラルな立場にあって真実を追い求める人 地球と人の事を、愛をもって考え行動してきた人達が、肉体を失っ</p>

	<p>た後に行く世界。 現実世界に生きる人も少数存在し、地球の人達が光りの世界に行くためのサポートをスピリチュアル・レベル、現実レベルで行う。60%台の世界の学びを終えてからこの世界に来る事が多いようです。</p>
<p>光60% 台の世界 地球では 光の世界 として新 しく生ま れた世 界。 宇宙意識 に目覚め るための 世界</p>	<p>60%台の後半の人は・・・ 常に正義と愛のために生きてきた人。 欲望に振り回されず、欲望と感情を上手にコントロールできて、自分の中の光と闇を統合してきた人。 スターピープルの事を理解し上手に付き合う事ができる人 この世界は、さらに上の世界に行くための通過点として、肉体をもって学びを行う人達が入る世界。 少数民族の人達の仲でも、一般社会を知りながらも、その社会に毒されず、常に祈りを行ってきたシャーマンや神官、少数民族の文化やしきたりを守ってきた人々。 ここに属する人は、これからの「光の地球」をしっかりと守護し、人々を導いていく立場にある。</p> <p>60%前半の人は・・・ 光の世界にはいる為の教育が行われる世界。 地球や宇宙の仕組みを学ぶために生きてきた人達で、さらにその学びを続ける人。 しっかりと愛や調和を目指して</p>

生きてきたが、まだ十分に実現出来ておらず、自分の中の光と闇もしっかりと統合できていない人。周りの人に対して愛と奉仕の気持ちを持って生きてきたが、今まで宇宙や地球に対しての理解も十分でなくスターピープルの事もよく知らない人達が、学びを行うための場所。

この世界では争いや戦争、差別や虐待もなくなり、地球人同士でも愛に基づいた関係がはじまり、安らぎと光りに満ちた世界が生まれてくる。

光56%
~59%
の世界
光りが多
い学びの
世界

この世界からアセンションした世界としてスターピープル達により保護される世界になります。

今の地球よりはさらに光がある世界で、戦争や争い、虐待、殺人などは減り、愛と調和に満ち、自然破壊などもなくなり環境問題も解決していく世界となるでしょう。

この世界に行く人は、今の世界でも良心を持って生きてきた人で、人の役に立ちたいと考えて生きた人達です。

そして、地球人としての進化を望む人がこの世界に入り、光の世界へ入るための学びを行います。

この世界の学びは「愛の実践」です。

宇宙の愛を身につけ、人のために奉仕する事がこの世界の学びとなります。

この世界で学びを終わった人は、

本格的なアセンションの世界である光60%以上の世界に生まれ変わります。

強い欲望や支配欲を持った人や人と争う事が好きな人は入れません。

人をだました人、人に不正を働く人、自己中心的な人は入れません。

光47%
~55%
の世界
光と闇の
境界の世
界

ここは光りの世界と闇の世界の境界線にあたる世界で、中間の世界とも呼ばれています。

現在の地球よりは、光が強くなりますので、戦争や虐待などはすこしずつ減ります。

時間がたつにつれ、現在よりはまともな政治家や経済人が現れ、社会の変革も進むでしょう。

この世界にはいる人は、戦争や支配、抑圧のある世界を嫌っている人で、もっと愛に満ちた世界、調和のある世界に入りたいと考えている人達です。

また他人のために役に達たいと思い行動している人や他人に親切にする事が好きな人達がこの世界に入ってきます。

ただしこの世界には、狡猾な地球外存在達もすでに入り込んでいるので社会の混乱や自然災害も起こりますので、その様な事を乗り越えていく事が、この世界の人々の学びとなります。

ヒーリングやスピリチュアルな仕事をしている人でも、人々の幸福のために働いている人は、この

	<p>世界に入りますが、物欲や支配欲、名誉欲のためにしている人は、ここからさらに下の世界に行く事になります。</p>
<p>光40% ～47% の世界 現在の地球と同じ 学びの世界</p>	<p>ここからが、アセンションとは反対にディセンションした世界となります。</p> <p>光40%台の世界は、今までとほとんど変わらない世界で、戦争や争い、テロ、詐欺、レイプ、傷害などが日常的に起こっている世界です。</p> <p>経済的な侵略によって、世界の人々は貧富の差が激しくなり差別を受けます。</p> <p>宗教、技術、論理もすべてが争いのために利用されます。</p> <p>この世界に行く人は、自然災害や戦争、原発の事故なども含め、現在の地球が体験する未来をともに体験する事になります。</p> <p>現状の世界を好みお金儲けやぜいたくな生活をしたい人達、人や自分や他人にたいして不誠実な生き方をしてきた人達は、この世界にそのまま残るようです。</p> <p>他人を支配をしようと思う人、他人に依存したり、他人支配される事を好む人もこの世界にとどまります。</p> <p>この世界は多くの地球外生命体達も存在しますので、彼等の支配を受けず自立していく事が、この世界の学びとなるでしょう。</p>
<p>光30% 台の世界</p>	<p>今の地球よりもさらに闇が多くなりますので、現在よりも状況が</p>

闇が多い
学びの世
界

はるかに悪くなります。
戦争やテロが多発し、多くの人
が争いや原発事故、自然災害に
巻き込まれ苦難の多い人生を送
る事になるでしょう。
そして人々はその中で多くの事
を学び目覚めていくための機
会を待つ事になると思います。
この世界には、多くの欲望に取
り付かれ、他人を支配したり傷
つける事を好んで行ってきた人
達がいく世界になると思います。